

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

生涯学習部門

平成29年度 成果報告書

平成 29 年度

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

生涯学習部門 成 果 報 告 書

国立大学法人岩手大学

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門

はじめに

岩手大学の生涯学習部門は、生涯学習・生涯教育の強化を目的に設立された「生涯学習教育研究センター」（平成 12 年 4 月）を前身として、地域住民を対象に生涯教育・学習事業に取り組んでまいりました。その後、組織の改編が進み、地域連携推進センター（平成 16 年 4 月）、地域連携推進機構（平成 26 年 4 月）を経て、平成 28 年 4 月に「三陸復興・地域創生推進機構」として新たに発足されました。当機構は、実践領域と教育研究領域を設けており、生涯学習部門は実践領域に位置付けられ、地域住民の学習の場としての役割を果たしています。

岩手大学では、大学の理念と目標の 1 つの柱として社会貢献を掲げており、第 3 期中期目標・中期計画においても「地域の中核的学術拠点として、地域創生に向けて、自治体等地域社会との連携及び大学の知的資源を活用した社会貢献」を目標とした「地域と連携した社会人の学び直しプログラムの充実化」が掲げられています。こうした大学の使命や役割を担うために、生涯学習部門においても、地域住民のニーズを反映した学びの場の拡大とともに生涯学習プログラムの「量」から「質」への転換を目指した取り組みを行っています。

平成 29 年度の事業の特徴としては、学内・外との連携による生涯学習プログラムの開発に重点を置きながら地域住民のニーズを反映した社会人学び直しプログラムづくりのための基盤づくりを中心に行いました。また、岩手大学が進めるべき社会人学び直しプログラムの在り方を検討するために、シンポジウムを開催しました。さらに、パイロットプログラムとして昨年度に引き続き今年度も「がんちゃんの学び」を 6 回実施し、地域の課題を共に考えるきっかけを作ることができました。

次に、文部科学省の委託事業である社会教育主事講習を 1 年間の準備期間を経て開講し、地域住民の生涯学習支援に欠かせない専門職員の養成を行いました。北東北 3 県から 40 名の受講者が参加しており、全員修了することができました。

最後になりますが、生涯学習部門の今後の事業のさらなる充実を図るために、今年度実施した事業について各部局の先生方や地域連携・COC 推進課のご協力を頂きながら報告書として取りまとめ発刊いたしました。今後のより一層充実した生涯学習の推進に向けて、みなさま方の忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

平成 30 年 3 月

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門長 朴 賢淑

目 次

はじめに

1 生涯学習部門概要

1-1 事業の目的	1
1-2 組織体制・年度計画	2
1-3 会議報告	3

2 生涯学習部門事業

2-1 社会人学び直しプログラム開発	11
2-2 地域課題セミナー「がんちゃんの学び」	21
2-3 社会人学び直しシンポジウム	31
2-4 公開講座	32
2-5 国内・外調査研究	95
2-6 社会教育主事講習	118

総括

1 生涯学習部門概要

事業の目的

組織体制・年度計画

会議報告

1-1 事業の目的

日本では大人の学びの場として公民館が大きな役割を果たしてきた。特に、戦後、地域の住民たちが公民館に集まって、身近な生活課題をはじめ社会的課題を議論し合いながら実践し、日本社会を変えていた。このような学びの場には、専門的職員として社会教育主事が行政と住民の橋渡し役割を果たしながら地域住民の学習を支えてきたと言える。

しかし、日本政府は小泉内閣発足後に「公設民営化」が急速に進行し、平成 15 年に指定管理者制度が導入された。当制度を導入する理由の一つとして、住民のニーズの多様化による、「効果的」「効率的」に対応するためには、民間の事業者のノウハウを広く活用することが有効であることが上げられた。

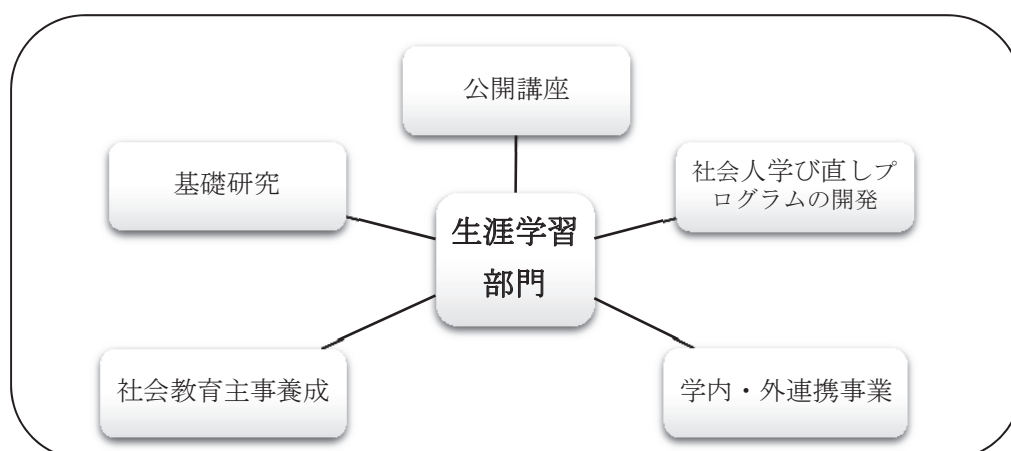
したがって、近年、社会教育施設も余儀なく民間委託が進められ、社会教育主事の配置も縮小されつつある。その結果、社会的弱者（高齢者、若者、女性、外国人など）は、ますます学ぶ機会が閉ざされ、学習者においても格差が広がっている。

一方、グローバル化や知識基盤社会に対応できる人材が求められ、大学教育が既存の若い学習者中心から成人学習者への拡大が期待されているなか、大学は“リカレント教育の場”としての転換が求められている。

そこで高等教育機関がリカレント教育の場として機能を果たすためには、まず、地域住民のニーズの把握は欠かせない。また、地域課題に対応できる人材を育てるためには何に重点を置くべきなのか真剣に向き合わなければならない。

よって生涯学習部門では、上記の課題の可視化を図るとともに、地域人材づくりのために学社連携の視点から生涯学習事業に取り組んでいく。

なお、生涯学習部門では、研究成果を生かした地域還元を目指しながら、①基礎研究（地域調査など）、②社会教育主事養成、③社会人学び直しプログラムの開発、④公開講座、⑤学内・外連携事業などをとおして、誰でも、いつでも参加できるような地域住民の生涯学習場づくりを目指している。



1-2 組織体制・年度計画

生涯学習門の事業を進めるにあたって、専任教員（1名）、特任研究員（1名）、兼務教員（5名）の体制で行っている。兼務教員は部門会議の委員であり、月1回の部門会議に出席し生涯学習部門の事業に関する助言を行っている。なお、H29年度の事業計画については下記のとおりである。

(部門名)		生涯学習部門	
(部門長)		朴 賢淑 (三陸復興・地域創生推進機構 准教授)	
(班員)			
氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
浅沼 道成	人文社会科学部・教授	田代 高章	教育学部・教授
廣瀬 宏一	理工学部・教授	佐藤 和憲	農学部・教授
竹村 祥子	男女共同参画推進室 人文社会科学部・教授	朴 仙子	三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門・特任研究員
(部門の事業テーマ)			
1. 生涯学習基盤づくり 2. 社会人学び直しプログラムの開発 3. 社会教育主事養成 4. 地域の生涯学習リーダー育成 5. 地域住民の生涯学習ニーズ調査			
(活動概要)			
1.各学部および機構・センターとの連携による生涯学習支援体制づくりをとおした生涯学習支援窓口の一本化を試みる。 2.多様な学習者の学習ニーズに答えられる生涯学習プログラムづくりをとおして地域課題に対応できる人材育成を目指す。 3.社会教育主事養成をとおして地域課題へ対応かつ自立した専門的職員の量的育成を目指す。 4.地域の学習者が大学の公開講座および社会人学び直しプログラムで学んだものを地域で実践できる人材育成を目指す。 5.定期的な地域住民の意識調査をとおして地域住民のニーズを反映した生涯学習プログラムおよび生涯学習場づくりへ繋げていく。 6.地域の生涯学習担当者とのネットワークづくりをとおして、地域住民の生涯学習支援における質的向上を図る。 7.岩手大学の生涯学習プログラムに参加する成人学習者を対象に定期的なニーズ調査を行うとともに、調査結果を生かして社会人学生の正規課程への進学を促す。			

1-3 会議報告

会議報告については＜資料 1-3＞に代える。

会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第 1 回 部門会議

平成 29 年 10 月 20 日（金）開催

議 事

1. 生涯学習部門会議について

菅原機構長より三陸復興・地域創生推進機構内における生涯学習部門の位置づけや役割について、また今回開催する生涯学習部門会議の趣旨について、資料 1-1、1-2 の規則に基づき、説明があった。

また、この会議を通じ生涯学習部門としての方向性を決めてもらいたいこと、年度末には機構長が出席し、その方向性について確認したい旨の説明があった。

報 告

1. 第 3 期中期目標・中期計画について

朴部門長より資料 2 に基づき、三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門にかかる第 3 期中期目標・中期計画、年度計画のこれまでの進捗状況について報告があった。

2. 概算要求機能強化促進経費（戦略 4）について

朴部門長より資料 3 に基づき、文部科学省概算要求（機能強化促進分）戦略 4 について、これまでの進捗状況について報告があった。

3. 平成 28 年度成果報告について

朴部門長より別冊『2016 年度生涯学習部門報告書』に基づき、平成 28 年度生涯学習部門の活動状況・実績について報告があった。

4. 平成 29 年度上半期事業報告について

朴部門長より別冊『平成 29 年度社会教育主事講習実施要項』に基づき、上半期に実施された社会教育主事講習について、報告があった。

5. 平成 29 年度下半期事業計画について

朴部門長より資料 4 に基づき、下半期事業計画について①社会人学び直しを進めるために 4 学部との話し合いの場を設けること、②岩手女性ネットワークを構築すること、③地域づくりの視点で公開講座を 3 回ほど計画していること、④来年度の社会教育主事講習に向けた準備をすること（意見交換の場を設けること）、⑤3 月には生涯学習部門としての報告書をまとめること等検討している旨の報告があった。

このことについて、下記のような意見があった。

②岩手女性ネットワークの構築について

・岩手女性ネットワークについては、同様の活動が岩手県等でも行われている。大学がやることの意義を明確にする必要があるのではないか。

③公開講座について

・岩手大学として実施する公開講座とは何か。かつてのニーズとはアカデミックな視点で公開講座を見直す必要があるのではないか。

④社会教育主事講習の実施について

- ・社会教育主事講習実施に当たっては、岩手県教育委員会との連携が大切である。
- ・北東北 3 大学が連携し実施しているため簡単ではないが岩手大学として、社会教育主事講習をやめるという選択肢もあるのではないか。

○その他

- ・生涯学習部門として事業を実施するにあたり岩手県の施策との関連性を大切にしたい。

6. その他

今回の会議については、後日日程調整を行い、実施日を決めることとした。

会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第2回 部門会議

平成29年11月28日（金）開催

議 事

1. 第3期事業ロードマップ平成30年度計画について

朴部門長より中期計画【27】の事業1及び事業2について、平成30年度の年度計画の説明を（資料1）に基づき行った。

（意見・質問）

- 「パイロットプログラムの実施」と既存のプログラムであるアグリやマイスターとの関わりについて
→このパイロットプログラムはアグリやマイスターの前段階で大学・大学院で教養教育的に学ぶ（アカデミックスキル）部分をカバーする基礎プログラムである。例えば、社会人向けの論文検索方法に関する講座、コンピューター関連講座、研究方法論や「いわて」という地域を学ぶこと等を考えている。
- パイロットプログラムの協力体制について
→今年度は試行的に数名の教員に声をかけ実施し、その検証も含め来年度からは4学部を巻き込みながら実施する予定である。
→プログラムの実施においては、学内の先生方の専門領域を生かすことが不可欠であることから来年度は人文社会学部、教育学部の先生方にも協力を頂きたい。

2. 平成30年度公開講座について

朴部門長より平成29年度公開講座の現状を（資料2-1）、（資料2-2）に基づき説明した後、平成30年度公開講座の在り方について（資料2-3）を提示した上で意見を各部門員に求めた。

（意見・質問）

- 「公開講座」が単発で終わっているのに違和感がある。複数回開催するものが望ましい。その点で、公開講座とイベント（市民向けセミナー）の区切りが出来ていないように感じる。
- 理想的なことを言えば、公開講座全体を分野ごとで体系化し、不足している分野を補う公募を行うとか単年度で難しいようであれば複数年度に渡る開催計画を考えてもよいのではないかと。まずは、フレームをこちらで示すことも必要である。ただし、教員に負担を強いることが無いようにしたいので、これは難しいと思う。
- 受講者のニーズは把握しているのか？教育委員会と連動するのもよい。
- 責任者を教員とすれば、技術職員が講師となるのもよろしいのではないかと。特殊な機器の使用方法を指導する場合などは、教員だけでは無理がある。
- 公開講座規定を変える必要はあるが、公開講座の課題を明らかにした上で教員を中心とした講座を開く必要がある。
- 大学で行う公開講座が公民館などで行う趣味的なレベルとは異なる講座の提供

が望ましい。

○公開講座が独立法人化になる前のサービスのレベルで行うのは無理がある。
予算が縮小されているなか、プログラムの質向上に向けた差別化が必要である。

3. 社会人学び直しプログラム開発について

朴部門長よりシンポジウムとセミナーの開催予定について、（資料3）、（資料4）に基づき説明し、2/5（月）の開催予定である旨を伝えた。また、学内連携を図るために、各部局の社会人学び直しプログラムの実施担当者との打ち合わせを行った結果について議事録（資料5）に基づき説明した。

（意見・質問）

○南先生のエコリーダーについてはどうなのか？

→お声がけしたが、趣旨が違うので今回は見送ることとなった。

報 告

1. 第1回部門会議議事録について

上記のとおり議事に入る前に説明を行った。

2. 社会教育主事講習報告書について

朴部門長より別冊社会教育主事講習報告書に基づき、今年度実施された社会教育主事講習について、報告があった。

3. 三陸復興・地域創生推進機構パンフレット（新）について

朴部門長より別冊三陸復興・地域創生推進機構パンフレット（新）に基づき、生涯学習部門の活動状況・実績について報告があった。

4. その他

次回会議については、後日日程調整を行い、実施日を決めることとした。

会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第3回 部門会議

平成29年12月20日（水）開催

議 事

1. 第2回部門会議議事録について

→了承された。

2. 平成30年度公開講座について

→平成30年度の公開講座募集要項が了承された。

3. 社会人学び直しプログラム開発について

→第2回会議で了承をいただいたシンポジウム企画案に基づき、ポスターを作成し、了承された。

4. その他

第4回部門会議は1月中に開催することとする。

報 告

1. 第1回がんちゃんの学びについて

12月6日実施したセミナーに7名参加したことが報告された。受講者を対象にアンケートし調査を行った結果が報告された。調査結果について下記の2点の指摘を受け、修正した。

◆「Ⅰ本日の授業についてお聞きします。」(問1～5)「Ⅱご自身についてお聞きします。」(問6～11)については、参加者5名のようなので、表だけ残しグラフは付けない方がよい。

◆「Ⅲ生涯学習経験について」「Ⅳ今後の学習かつどうについて」「Ⅴ岩手大学で実施しているプログラムについて」は複数回答なので、表の合計欄は付けない方がよい。また、棒グラフのスケールは、小数点以下(例えば0.5人)は出てこないなので、実数で区切る方がよい。

会 議 報 告

会議名 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 第4回 部門会議

平成30年1月23日（火）開催

議 事

1. 第3回部門会議（メール会議）議事録について

朴部門長より前回部門会議（メール会議）の議事録について「資料1」に基づき説明した。

2. 平成30年度生涯学習部門年度計画について

朴部門長より平成30年度生涯学習部門年度計画について「資料2」に基づき説明し、方針について了承された。

（意見・質問）

○社会人学び直しプログラムの教養プログラムにおいて平泉関連と賢治学関連の講義を開講するとあるが、当部門として報告書を出す際に、平泉文化研究センターや宮沢賢治センターなど別の組織からも同一内容の報告書が発刊されてしまうと外部の読者が混乱するのではないかと各センターと調整が必要なのではないか？

→平成30年度の活動内容は、「平泉および、賢治学、芸術関連などとの連携の可能性を探ること」なので、まずは各センターの教員と事業の連携の可能性を探った上で、連携することが確定したら報告書についても併せて検討することとする。

○社会人学び直しプログラムのブリッジ型プログラムにて「論文の書き方」とあるが、誰がどこに論文を出すことを想定して開講するのか？専攻によって書き方が違うため、むしろ課題の立て方などの方がアカデミックな内容になるのではないかと？

→さらにご意見を頂き内容を精査していきたい。

○北東北三県の遠隔教育についてだが、ハード面で問題はないかと？また、秋田大学や弘前大学などの公開講座と内容がバッティングしないかと？

→来年度では、遠隔教育を行うというよりも、3大学の連携が可能か調査をする予定である。

○遠隔教育について、学内でも既に実施している（例えば、いわて高等教育コンソーシアムや農学部共同獣医学部）ところがある。既にノウハウがあり、メリット・デメリットも見えているはずなので、その調査も行った方がよいのではないかと。

→この件に関しても来年度併せて学内外を視野に入れて調査していきたい。

○マイスター育成やアグリフロンティアはこれまで同様生涯学習部門の枠組みの中の位置づけではあるが、各事業は独自に行うという認識でよろしいかと？

→そのとおりである。

3. 平成 30 年度岩手大学社会教育主事講習について

朴部門長より平成 30 年度岩手大学社会教育主事講習について、「資料 3-1」、「資料 3-2」に基づき説明し、平成 30 年度も今年度とほぼ同じ期間で開催予定である旨を伝え、了承された。

4. 平成 29 年度生涯学習部門成果報告書について

朴部門長より平成 29 年度生涯学習部門成果報告書について、「資料 4」（成果報告書目次）に基づき説明し、了承された

5. プロジェクト教職員の雇用に係る要望書について

朴部門長より、プロジェクト教職員雇用について「資料 5」に基づき説明し、来年度も引き続き特任研究員を雇う要望書を機構会議に提出することが了承された。

報 告

1. セミナー「がんちゃんの学び」について

朴部門長より「資料 6」に基づき、「がんちゃんの学び」が開催中である旨を報告された。

2. 社会人学び直しシンポジウムについて

朴部門長より「資料 7」に基づき、社会人学び直しシンポジウム「地方国立大学における社会人受け入れの現状と課題」のチラシに基づき、2 月 5 日開催することが報告された。

3. その他

次回会議については、後日日程調整を行い、実施日を決めることとした。

2 生涯学習部門事業

社会人学び直しプログラム開発

地域課題セミナー
「がんちゃんの学び」

社会人学び直しシンポジウム

公開講座

国内・外調査研究

社会教育主事講習

2-1 社会人学び直しプログラム開発

生涯学習部門では、地域住民（若者、高齢者、女性、外国人など）のニーズの多様化・高度化に対応した環境整備とともに、地域の課題に対応できる人材育成プログラムの開発を行っている。特に、女性の社会参加・仕事への復帰が注目されているなか、ライフステージに応じた学ぶ機会の充実化を図りながら生涯学習プログラムの質保証を目指したアカデミックプログラムの開発に取り組んでいる。

また、地域のコミュニティセンターと差別化された生涯学習プログラムの充実化を通して、大学の地域住民や企業の身近な学びの場としての機能を強化することを目的としている。

本年度は既存の社会人学び直しプログラムとの連携の可能性を探るために、実施部局長（農学部・理工学部）および実施担当者を対象にヒヤリングおよび意見交換を行い、今後生涯学習部門として取り組むべき事業の方向性について確認することができたことから次年度には受講者の横断的な支援に取り組むこととなった。一方、学内連携をはかるためにトライアルプログラムとしてアグリフロンティアスクールの受講者を対象にコンピューター講座を実施した。

受講者は、初めてパソコンに触れる方、ネットの閲覧とメールの送受信はできるなどレベルの差は見られたが、レポート作成や、調査研究に必要な Word、Excel などのオフィスソフトの活用はほとんどできない状況であった。そこで、今年度は2日にかけて4コマ開講することとなった。講義では、マウス・キーボードなどパソコンの基本的な操作を始め、Word、Excel の基本操作ができることを目標とした。1回目は6名、2回目は4名受講した。

なお、授業評価及び学習ニーズを把握するため、アンケート調査を行った。講義に関連した質問項目においては、概ね「満足・やや満足」の評価を得た。次に今後の仕事における活用については、全員が「そう思う」と回答しており、肯定的な回答を得ている。しかし、今年度は4コマのみ開講しており、短期間にパソコンの基本操作から Word、Excel も教えなければならず、授業の進行が早かったことから受講者から「授業の時間配分」、「練習時間の配分」では満足度が低かったことが分かった。「研修時間は何日が妥当か」の項目では、3～5日など、より長い時間の講習を必要とすることが分かった。

今回の講習においては生涯学習部門から講師を2名派遣し、実習の形で行った。二人体制

で講習を進めており、特に指導が必要な受講生には個別指導をする形で行った。ただ、受講生の中には文字入力ができない人も参加しており、集団講習より個別指導が必要な人もいるなど、次年度に向けて検討すべき課題が明らかになった。

次に、岩手大学では自然科学、人文科学、社会科学等の専門知識に基づきながら、文理の枠を超えた幅広い視野を持って新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に向けて地域社会や地球規模の課題解決に貢献する人材を育成するため、今年度4月から大学院修士課程と博士前期課程の研究科を統合し、総合科学研究科（修士課程）を設置している。本年度は大学院総合科学研究科の共通科目授業の一部である「地域創生特論」、「地域文化特論」、「先端生命科学特論」、「グローバル環境科学特論」を一般に公開し、社会人の授業参加を試みた。なお、公開授業詳細は以下の通りである。

表1 総合科学研究科共通科目 授業公開科目一覧

公開日	科目名	授業内容
10月13日	地域創生特論	地域創生に関わる漁業、水産関連産業
	地域文化特論	岩手の言葉
	先端生命科学特論	微生物の生態と利用法
	グローバル環境科学特論	物質の循環
11月17日	地域創生特論	地域創生の胎動
	地域文化特論	岩手の暮らしと文化
	先端生命科学特論	におい、フェロモンを感じる動物の嗅覚メカニズム
	グローバル環境科学特論	自然環境と減災

本年度は、生涯学習部門が中心となって受講者の募集とアンケート調査を行い、授業評価と共に社会人の学習ニーズに関するデータ構築を試みた。アンケート調査結果についてはく資料2-1-1>を参照されたい。

なお、本学における社会人学習者の環境整備およびカリキュラム開発のために、生涯学習部門では今後も総合科学研究科との連携を図りながら基盤づくりを続ける。

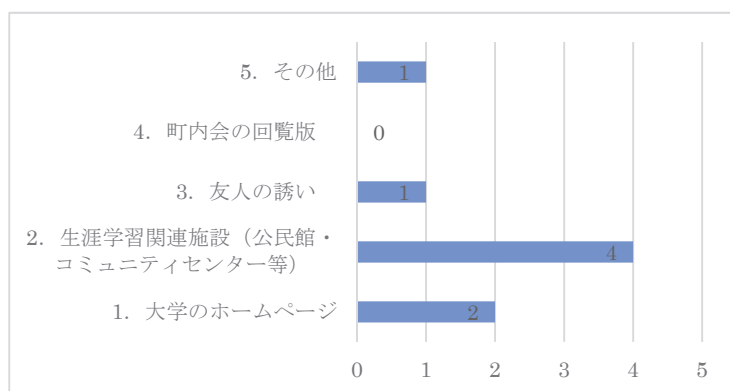
総合科学研究科共通科目 授業公開受講者
生涯学習ニーズに関するアンケート調査

平成 29 年 11 月実施

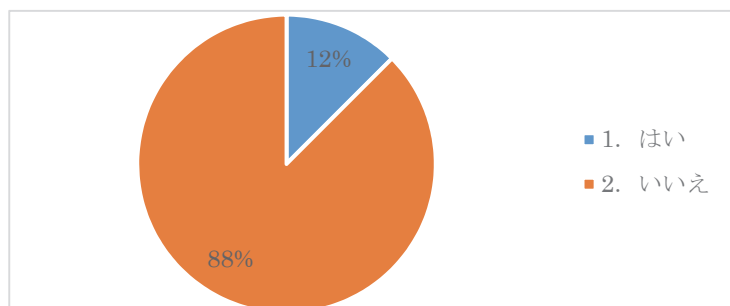
アンケート回答数：8 名

I 本日の授業についてお聞きします。

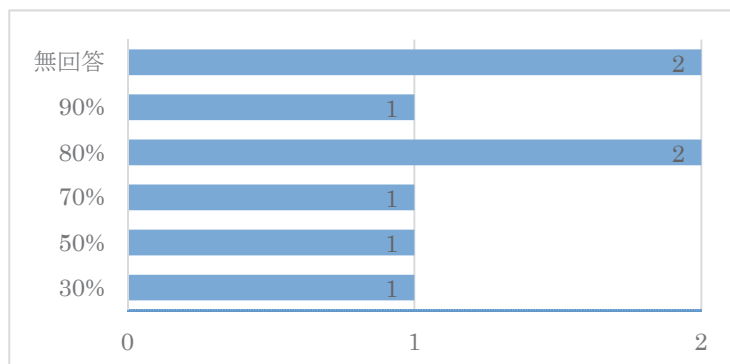
問 1 公開授業に参加したきっかけを教えてください。



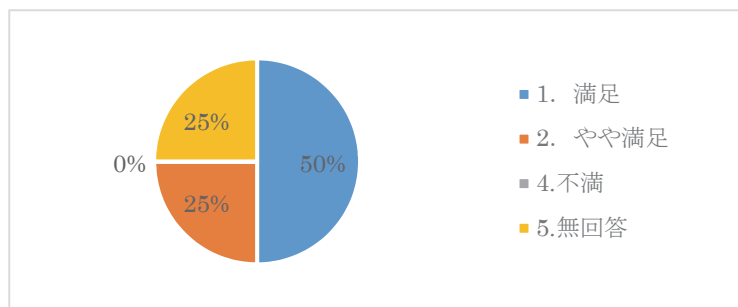
問 2 この公開授業は、H29 年度に新設した総合科学研究科（大学院課程）の共通科目の授業であることを知っていましたか。



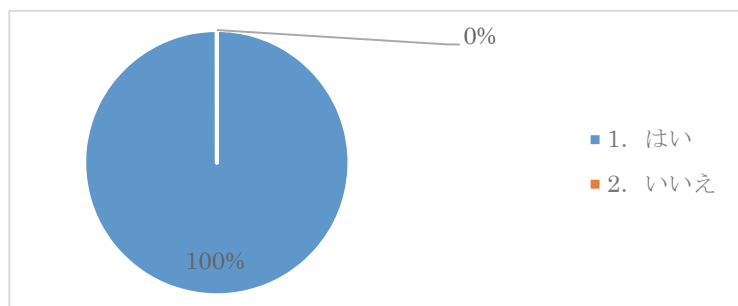
問 3 授業内容をどのくらい理解したと思いますか。該当する箇所に○をつけてください。



問 4 公開授業の時間設定についてお聞きます。

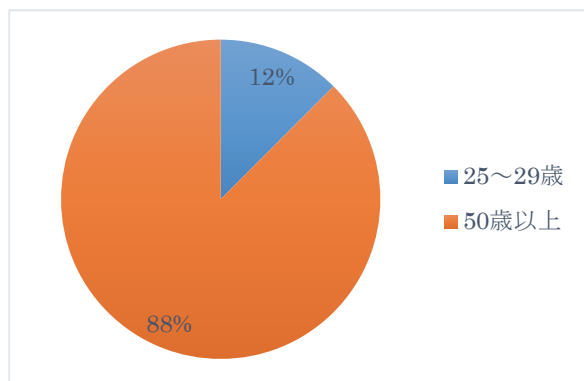


問 5 H30 年度も総合科学研究科で授業を公開する場合、参加したいと思いますか。

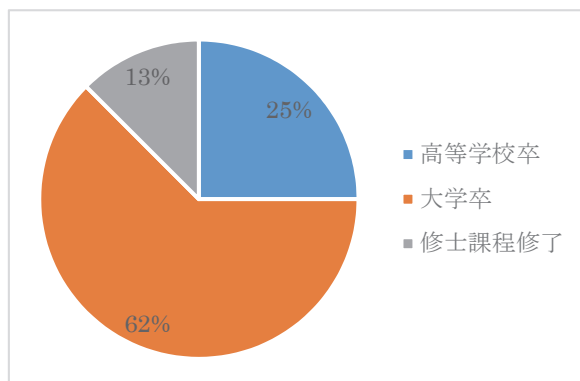


Ⅱ ご自身についてお聞きます。

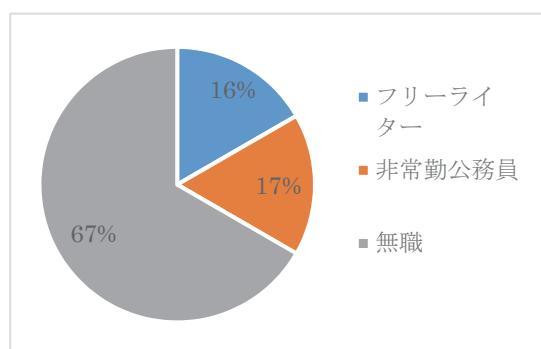
問 6 年齢



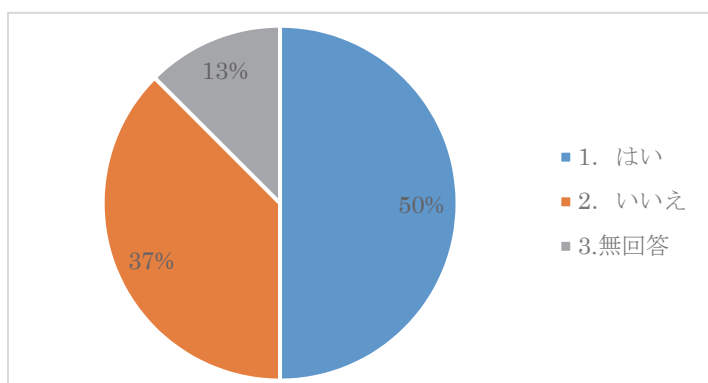
問 7 最終学歴



問 8 職業

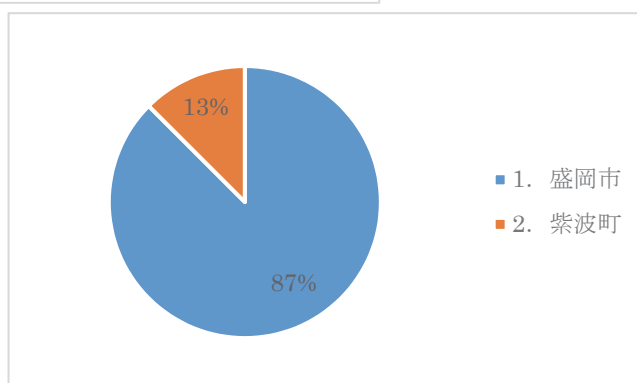


問 9 現職に就く前、経験した職業はありますか



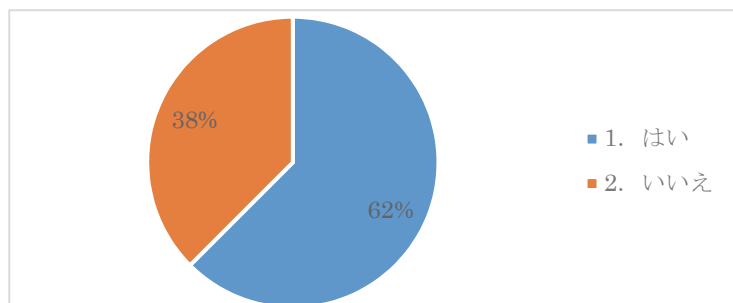
具体的な職業	・事務職、建具製造会社
	・地方公務員
	・編集者
	・盛岡市役所

問 10 住居地について

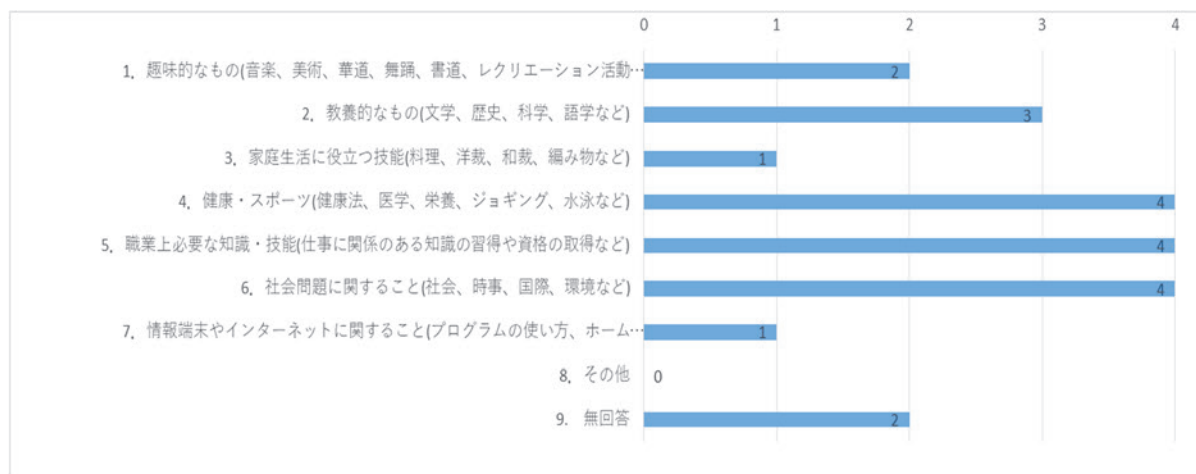


Ⅲ 生涯学習経験について

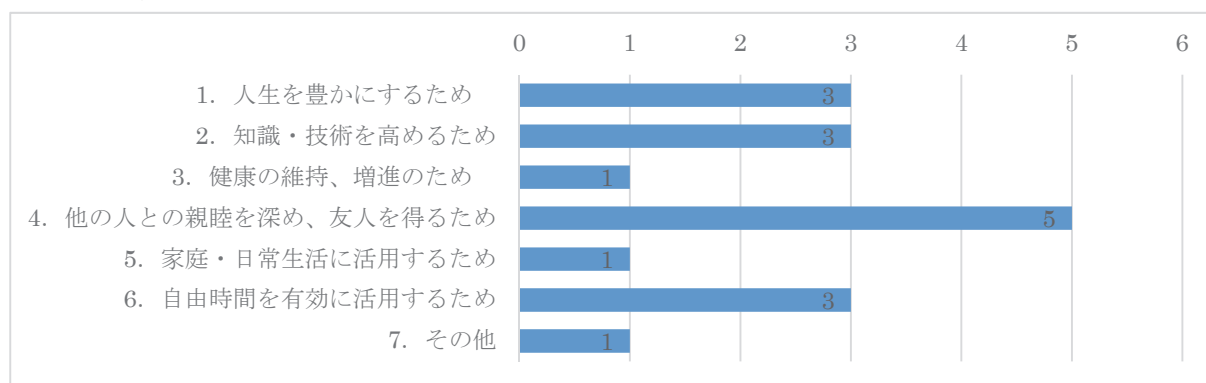
問 11 社会人になってから学習活動を行った経験はありますか



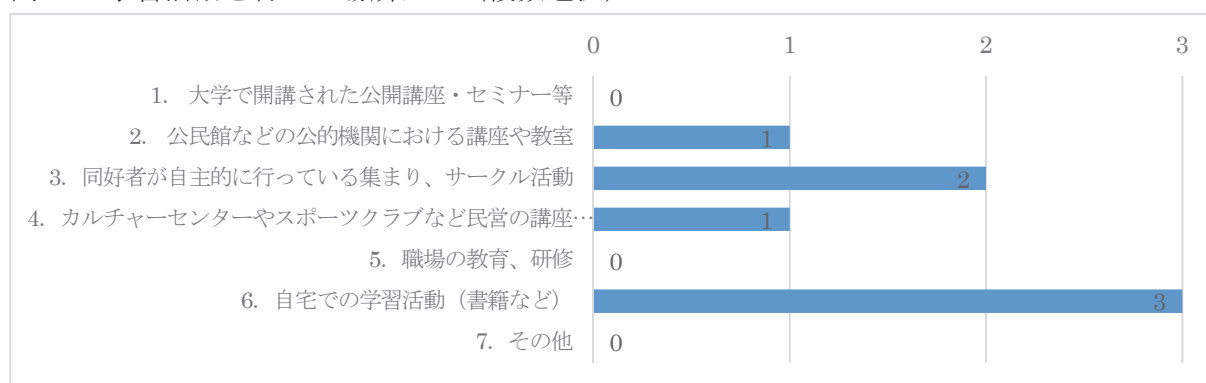
問 12 今まで行った学習内容について教えてください。(複数選択)



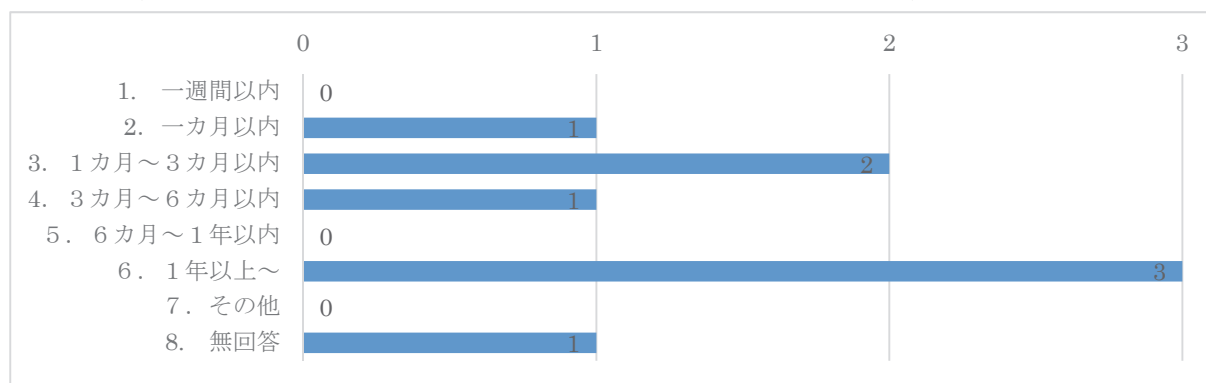
問 13 学習を行う理由について教えてください。(複数選択)



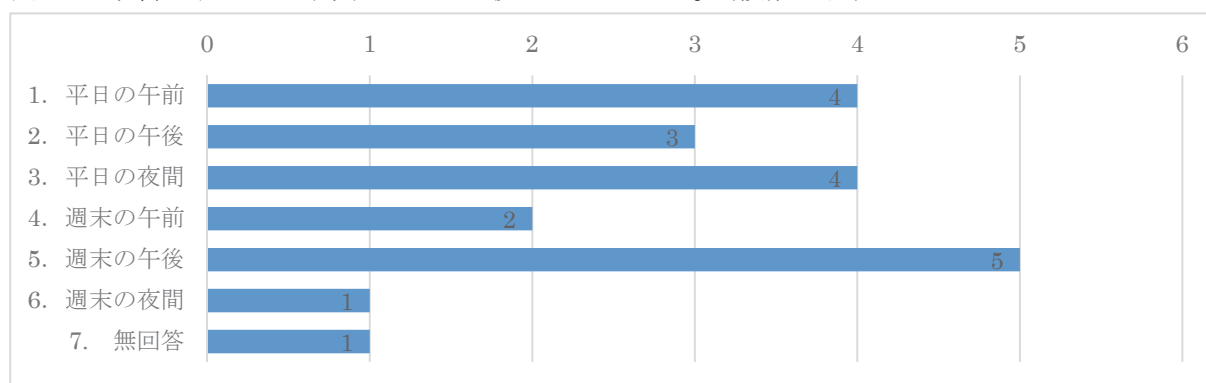
問 14 学習活動を行った場所は？(複数選択)



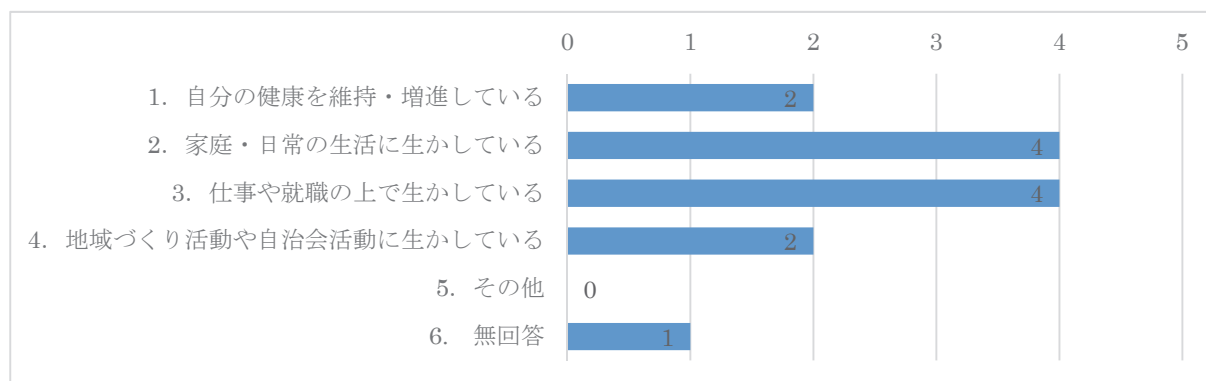
問 15 学習を行った期間について教えてください。(1年間の平均学習参加日数)



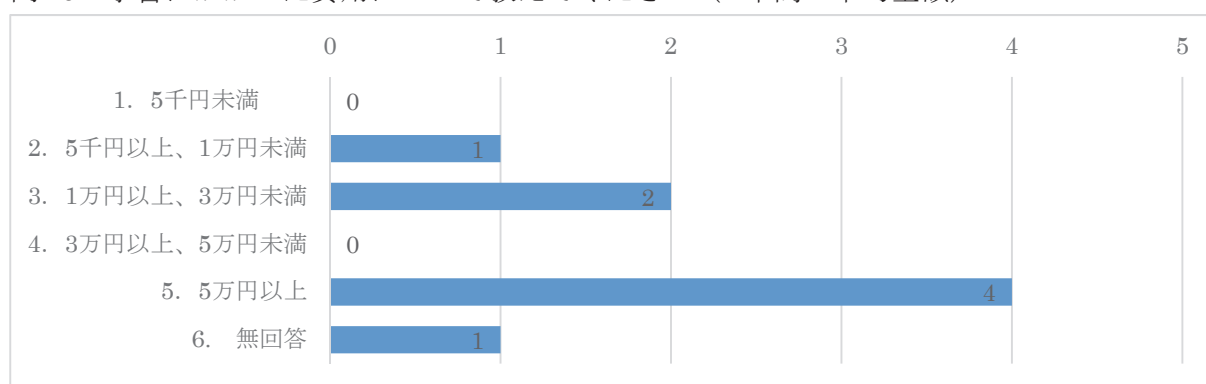
問 16 学習を行った時間帯について教えてください。(複数選択)



問 17 学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしていますか。(複数選択)

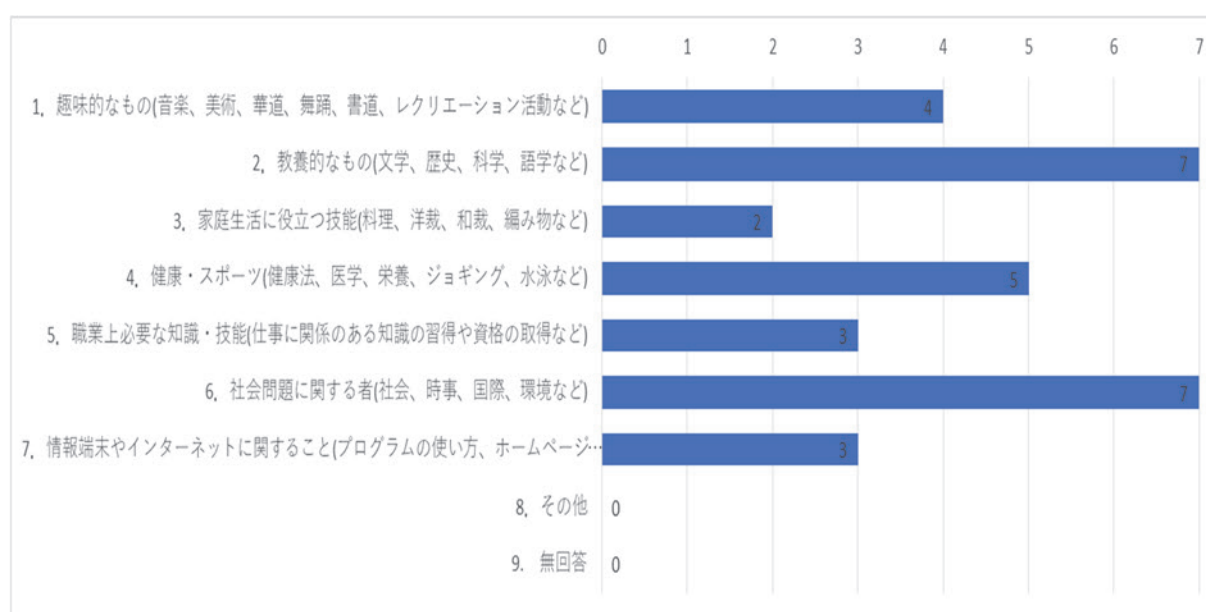


問 18 学習にかかった費用について教えてください (1年間の平均金額)

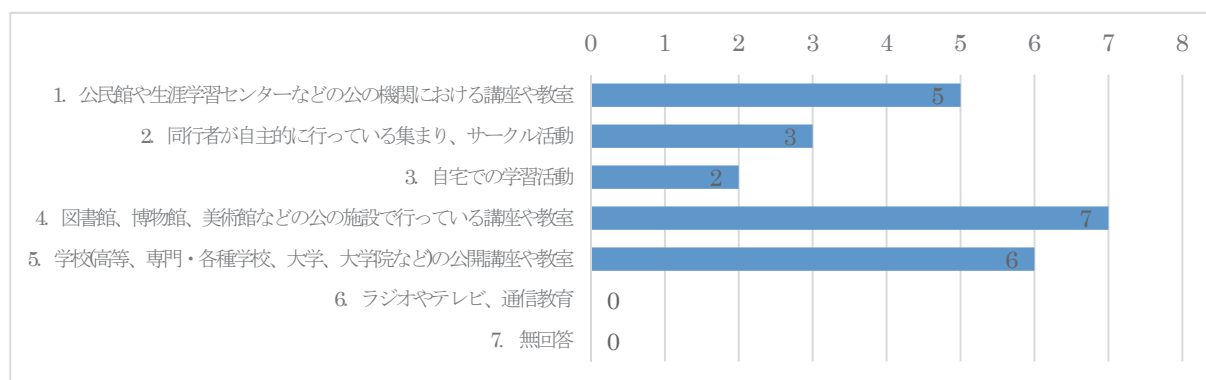


IV 今後の学習活動について

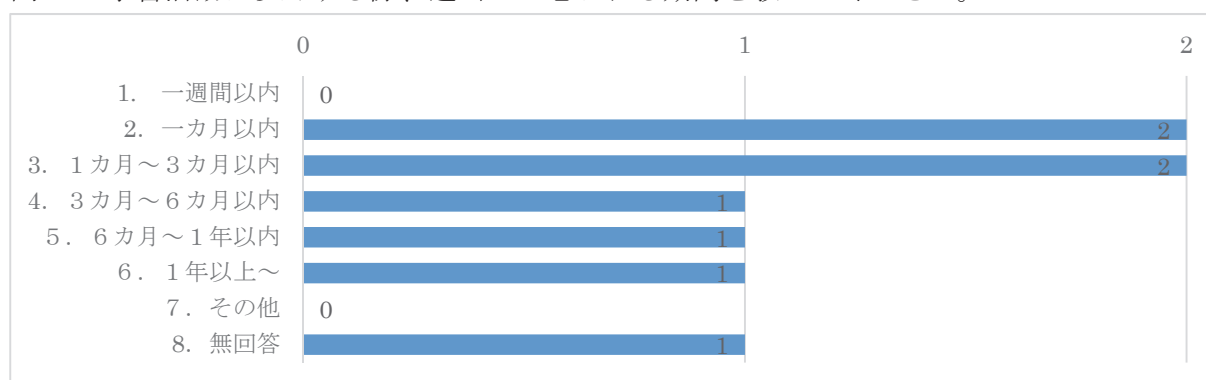
問 19 今後参加したい学習内容について教えてください。(複数選択)



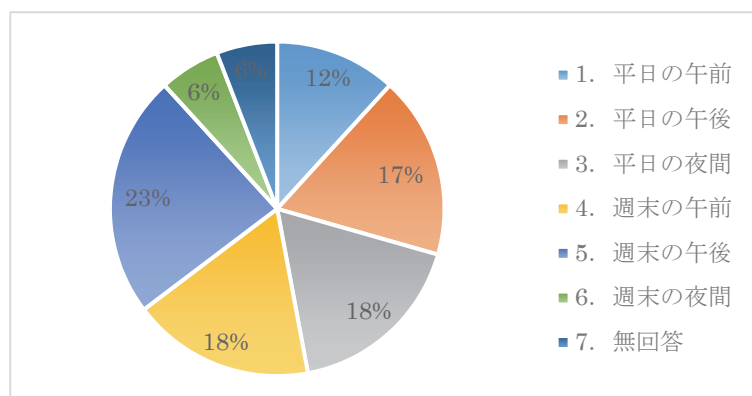
問 20 今後行いたい学習の形態を教えてください。(複数選択)



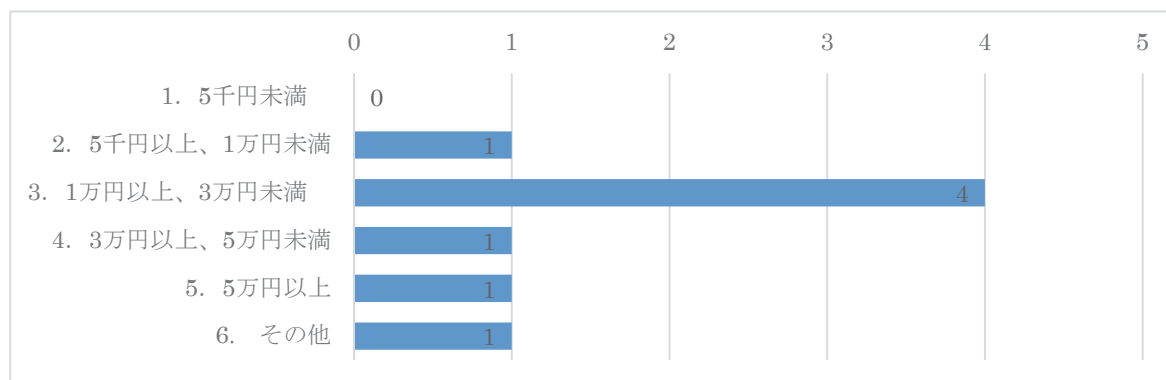
問 21 学習活動に参加する際、適当だと思われる期間を教えてください。



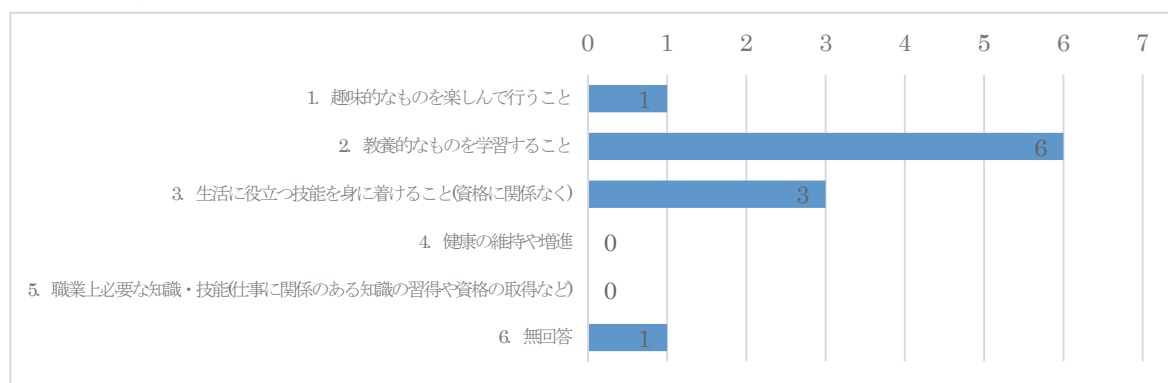
問 22 学習活動に参加する際、最も都合の良い時間帯はいつですか。



問 23 1年間学習活動にかかる費用について、妥当だと思う金額はどのくらいですか。

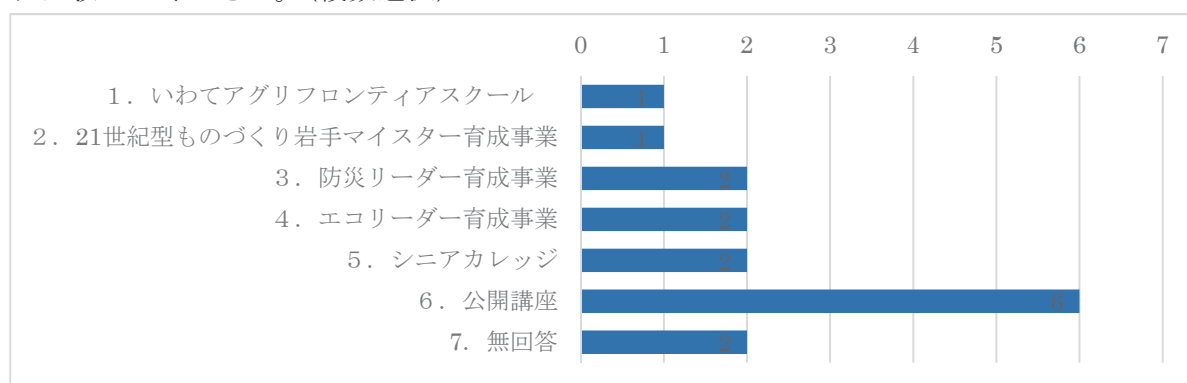


問 24 学習活動を行う際、あなたが一番重視するものはなんですか。

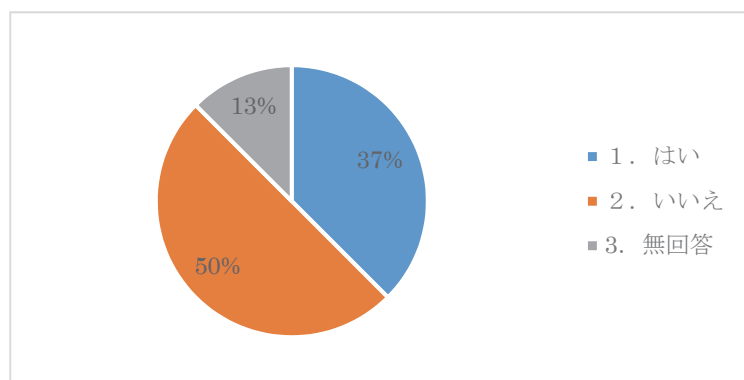


V 岩手大学で実施しているプログラムについて

問 25 本学が実施している下記のプログラムを知っていますか。知っているプログラムがあれば教えてください。(複数選択)



問 26 本学で実施しているプログラムに参加したことがありますか。



○ご意見等は、ご自由にこちらへお書きください。

・ 森林、林業、動植物に興味があるので、今後このようなイベントがあればぜひ参加したい。
・ 法律や岩手県の歴史などの教養的講座（数ヶ月）
・ 社会情勢、政治学などの教養的講座（数ヶ月）
・ リカレント教育の拠点としてぜひ多様な内容の講座を期待します。

- | |
|--|
| ・ ホームページを見てなかったんで、有意義な講座を聞けるのがもったいないです。 |
| ・ 総合科学研究科の座学以外の講義の様子を知りたい。地方で出張講座があれば嬉しい。
(学生実習の際などでも OK) |

2-2 地域課題セミナー「がんちゃんの学び」

生涯学習部門では、昨年度に続き、今年度も地域の課題を地域住民と共有し、共に解決策を探るという趣旨のもとで、「がんちゃんの学び」（シリーズセミナー）を開講している。本講座では、地域活動に取り組んでいる方を招き、実践例を紹介して頂きながら成人教育の視点から学習者が学んだものを実践に結び付けていくための条件とは何かについて検討を行っている。

セミナーは12月、1月の水曜日の午後に6回行った。毎回5～15名受講しており、実施内容は下記の通りである。

表2 がんちゃんの学び実施内容

	第1回	第2回	第3回
	フードバンクってなあに	そば屋の働き⇒地域づくり	外国人子ども×学習支援
講師	コープフードバンク 事務局長	水車蕎麦の店 森のそば屋（葛巻町）	外国人の子ども・サポートの会 代表
	中村 礼子	高家 卓範	田所 希衣子
講義概要	誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目的に平成24年に設立した「コープフードバンク」について紹介し、食を通じた地域づくりについて議論	クリーンエネルギーの利用で全国に知られている葛巻町において水車でそば作っている「森のそば屋」の地域づくりへの活動について紹介	グローバル化が進んでいる中、日本語を母語としない外国人子ども達が直面する課題、またその課題を解決するために外国人の子ども・サポートの会の支援活動について紹介
	第4回	第5回	第6回
	地域の子ども×地域の大人	中国における地域課題	地域教育力とは
講師	特定非営利活動法人インクルいわて 理事	岩手大学生涯学習部門 特任研究員	岩手大学生涯学習部門 部門長・准教授
	山屋 理恵	朴 仙子	朴 賢淑
講義概要	盛岡市で初めてこども食堂を始めたインクルいわての活動を紹介することで、地域住民の居場所を作り、地域の大人が地域の子どもを共に育て、見守れる社会の実現の可能性について議論	高度成長をしている隣国である中国における地域課題、またその課題を解決するための国の政策、地域住民の活動について紹介	地域教育力を向上することで、地域の子ども達の安全を守り、子ども達の人間力を育て伸ばすことが可能となります。それでは、地域教育力は一体どういうものかをご紹介します。

なお、当プログラムの検証のためにセミナー終了後は毎回、受講者を対象にアンケート調査を行っている。＜資料 2-2-1 参照＞

なお、アンケート調査では、①授業に対する評価、②受講者の属性、③生涯学習経験、④今後の活動計画、⑤岩手大学のプログラムについて聞くことができた。なお、「①授業に対する評価」は毎回受講者全員にアンケート調査を実施し、項目②～⑤は初回参加者のみ回答している。

セミナーの内容について満足度を伺ったところ、無回答の 1 名を除き、「満足」が 69%、「やや満足」が 28%と答えており、受講者のほぼ全員が満足していることがわかった。また、受講者全員から「また受講したい」との評価を得たことから、参加者が地域課題への関心が高いことが伺える。

次に、受講者の属性についてである。受講者の年齢について伺ったところ、60 歳以上が 44%を占めていたが、他の年齢代（20 代、40 代など）も参加が見られたことは成果として挙げておきたい。

次に、受講者の性別についてである。女性が最も多かったが、男性も 39%占めている。他、地域別をみると盛岡市からの受講者が最も多く、次に盛岡市近郊の市町村からの受講者が多い。岩手県は土地が広く、かつ交通の便も悪いことから、地方ならではの特徴を持っており、地域住民の学習機会の格差につながる可能性があるといえる。

次に、生涯学習の経験と今後の活動計画について得たデータは今後の社会人学び直しプログラムの開発にあたって大いに参考になると思われる。受講者から得たデータをまとめてみると下記のとおりである。

第 1 に、学習内容については、「今までの学習状況」と「これから参加したい学習内容」では大きな違いは見られないが、今後の要望では「社会問題に関するテーマ」が一番多いことから、今後の講座内容においては、趣味的な内容にとどまらず、地域課題に重点を置いた講座の提供が必要であることが明らかであった。

第 2 に、学習を行った期間については、1 年間以上継続した学習を行っているのが多い状況に対し、今後の計画では 1 か月以上、1 年未満の短期的な学習の希望が増えている。この結果から、今後大学における社会人学び直しプログラムの開発において大いに参考になると思われる。

第 3 に、受講者が今まで学習を行った時間帯についての質問には、平日の午後、週末の午後、平日・週末の午前、平日・週末の夜間の順で低くなっている。この結果については、今回のセミナーが平日の午後に行われたことから平日に参加しやすい受講者が集まっていることが影響を与えていると思われるが、従来の「社会人教育＝週末」という考えを見直すには十分な根拠にはなる。

第 4 に、学習を行う理由については、「知識・技術を高めるため」が最も多かった。さらに学習の形態においては、学校の公開講座やセミナーをとおして学習したいと答えた人が最も多かったことから、国の政策だけでなく、地域住民も生涯学習の場として学校への期待が高まりつつあることが分かる。

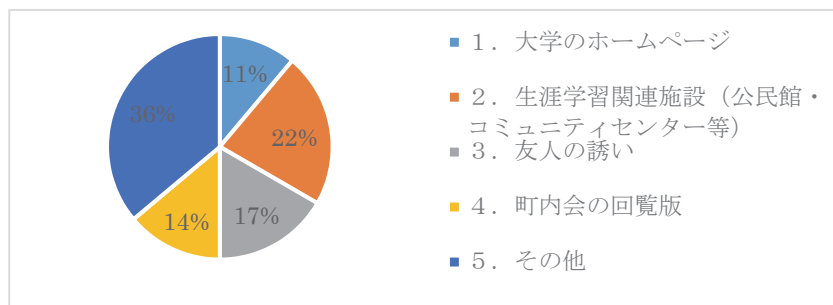
最後に、岩手大学で実施している社会人学び直しプログラムへの認知度について確認したところ、「公開講座」の認知度がもっとも高く、「いわてアグリフロンティアスクール」、「21世紀型ものづくり人材岩手マイスター育成事業」、「防災・エコリーダー育成事業」、「シニアカレッジ」の順で答えていた。今後、本学で実施してきた社会人向けのプログラムにおいて地域住民の参加を促すためには部局を超えた連携と広報が必要であることが確認された。なお、アンケートの詳細は＜資料 2-2-1＞を参照されたい。

がんちゃんの学びアンケート集計結果

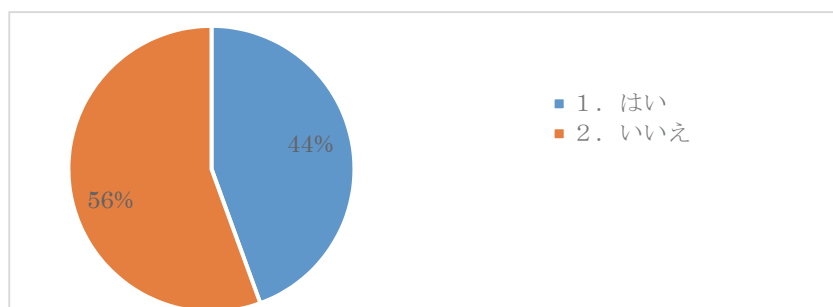
アンケート回答数：18 名

I 本日の授業についてお聞きします。（複数回答あり）

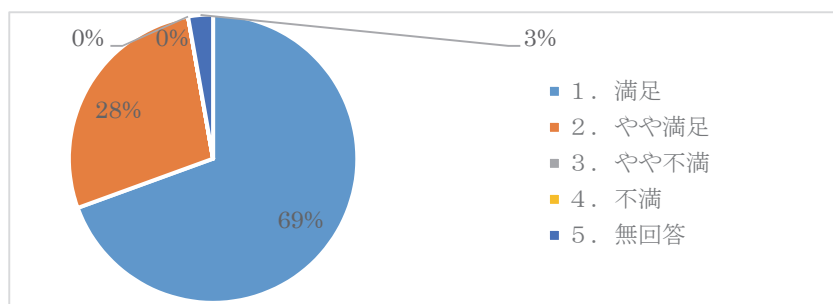
問 1 公開授業に参加したきっかけを教えてください。



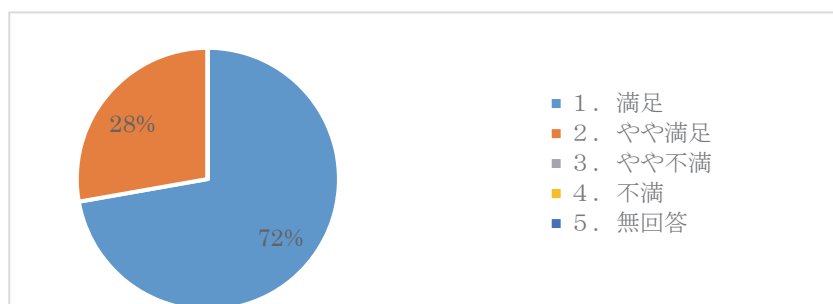
問 2 がんちゃんの学びへの参加は初めてですか。



問 3 セミナーの内容についてお聞きします。



問 4 公開授業の時間設定についてお聞きします。



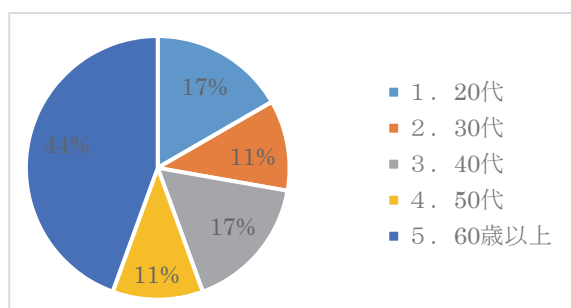
問5 またがんちゃんの学びセミナーに参加したいと思いますか。



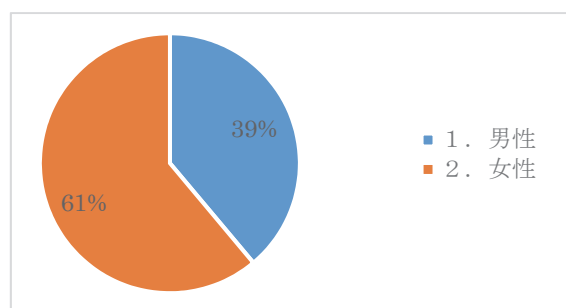
※以降初回参加者のみ回答（回答者：18名）

Ⅱ ご自身についてお聞きします。

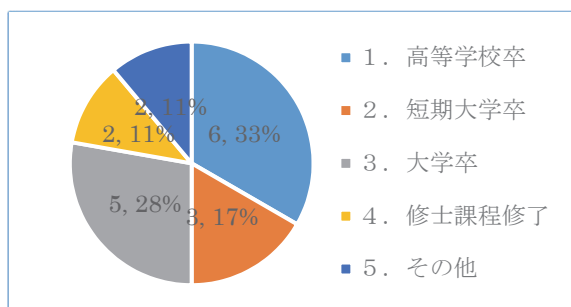
問6 年齢



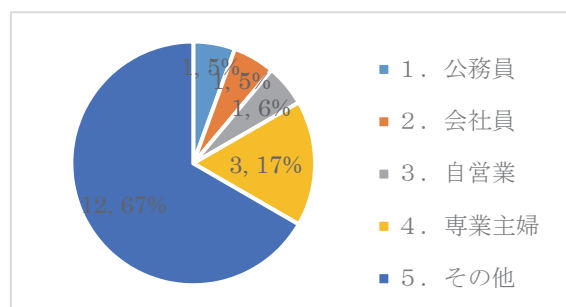
問7 性別



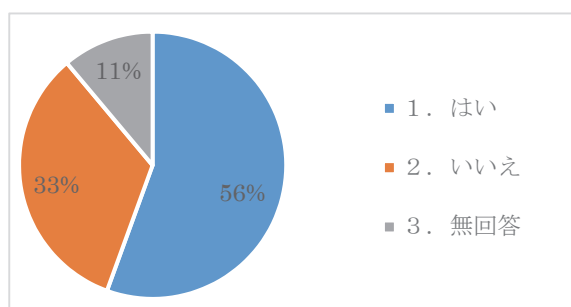
問8 最終学歴



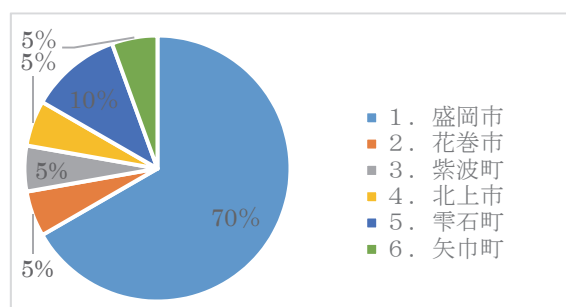
問9 職業



問10 現職に就く前、経験した職業はありますか。

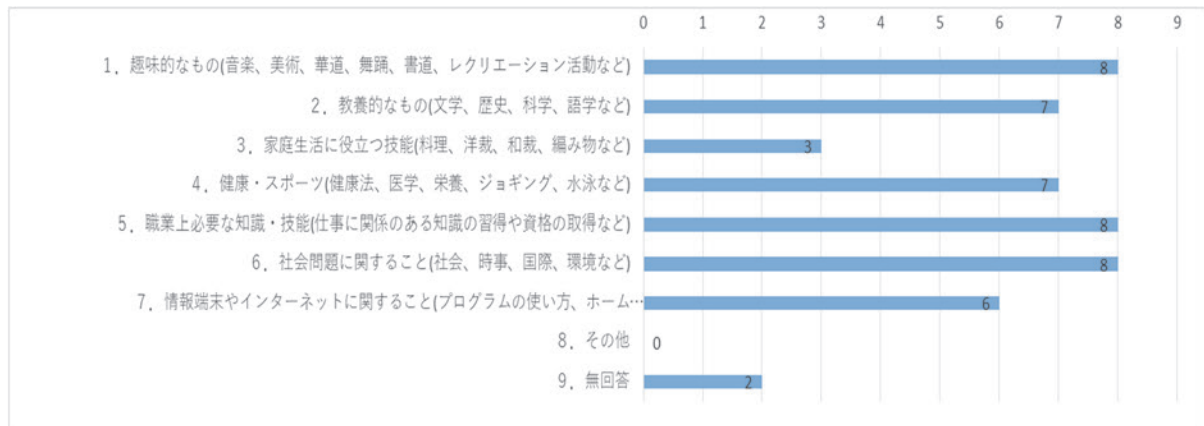


問11 住居地について

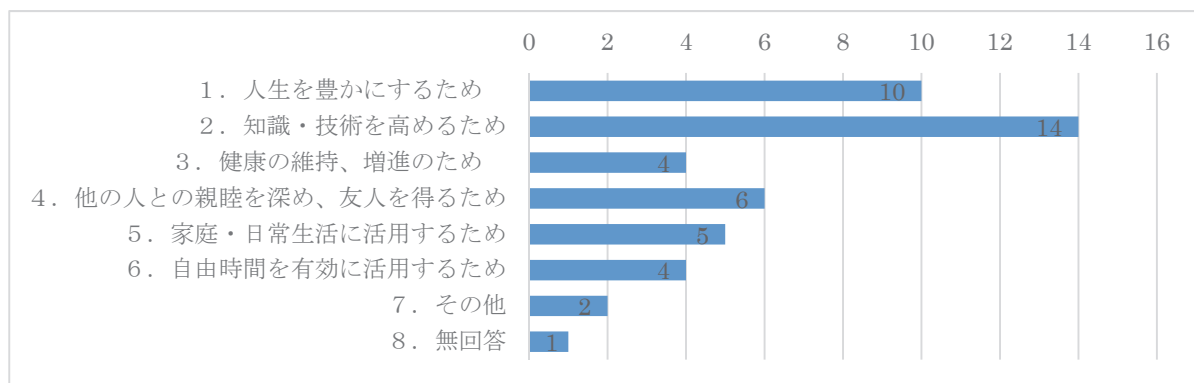


Ⅲ 生涯学習経験について

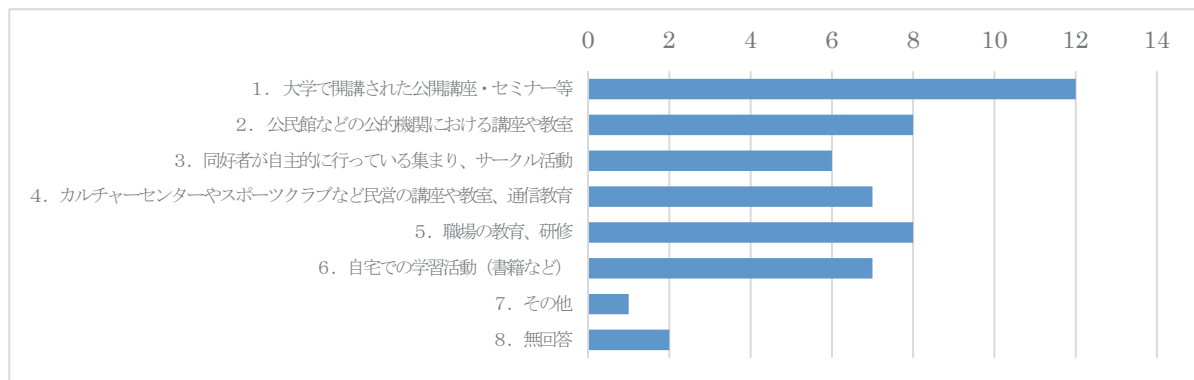
問 12 今まで行った学習内容について教えてください。(複数選択)



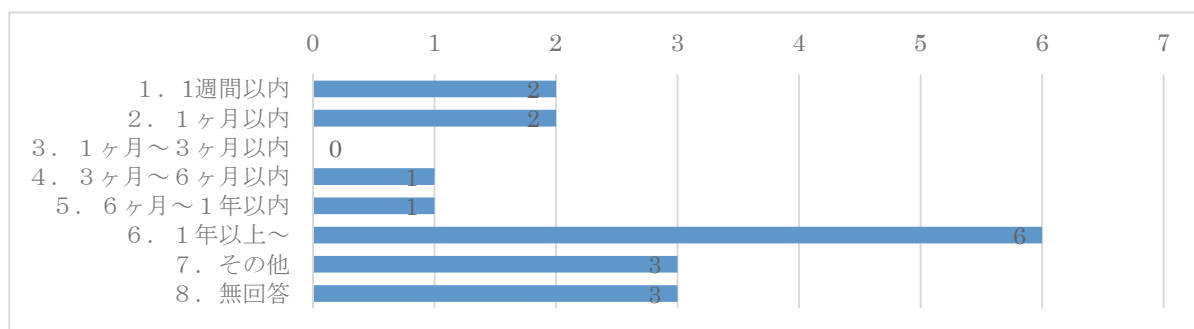
問 13 学習を行う理由について教えてください。(複数選択)



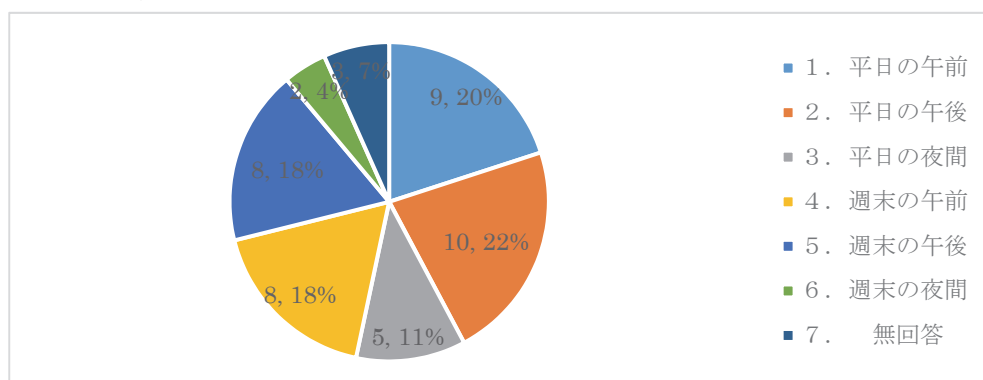
問 14 学習活動を行った場所は？(複数選択)



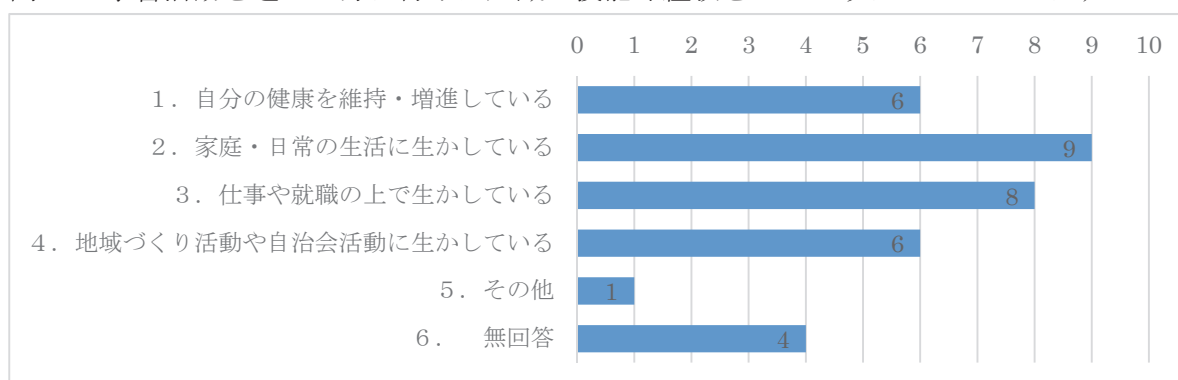
問 15 学習を行った期間について教えてください。(1年間



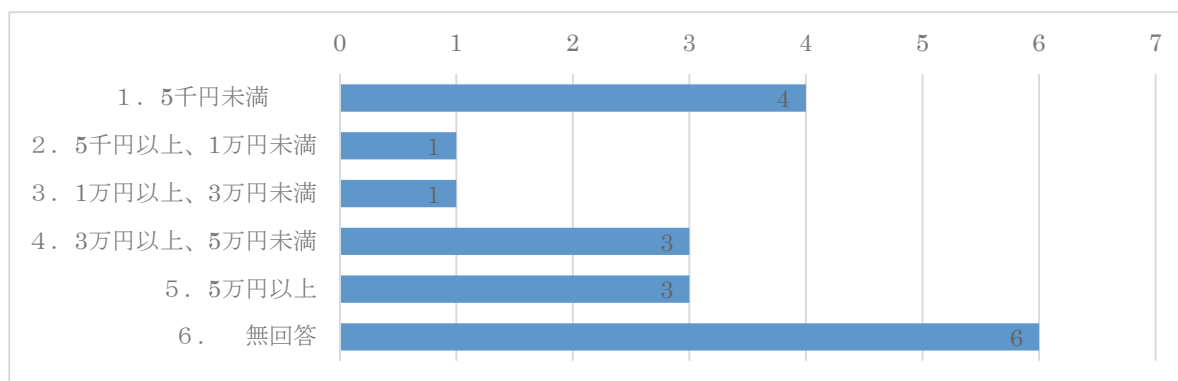
問 16 学習を行った時間帯について教えてください。



問 17 学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしていますか



問 18 学習にかかった費用について教えてください (1年間の平均金額)



IV 今後の学習活動について

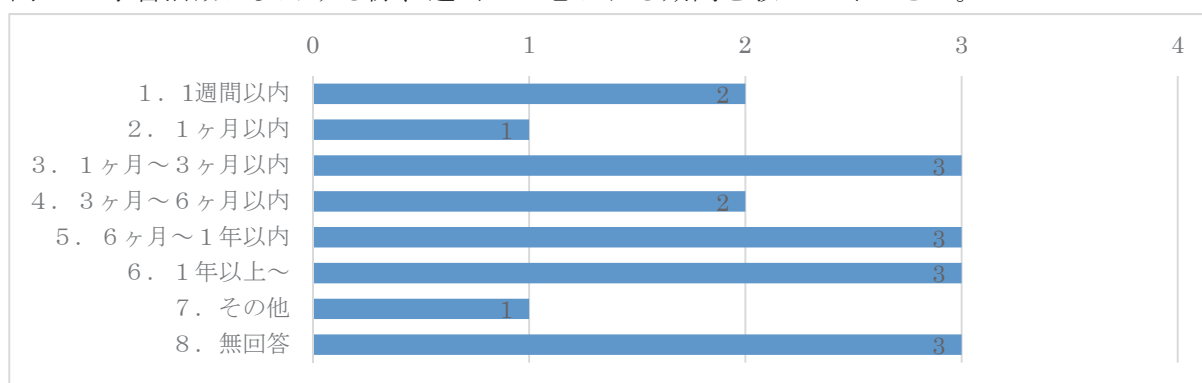
問 19 今後参加したい学習内容について教えてください。(複数選択)



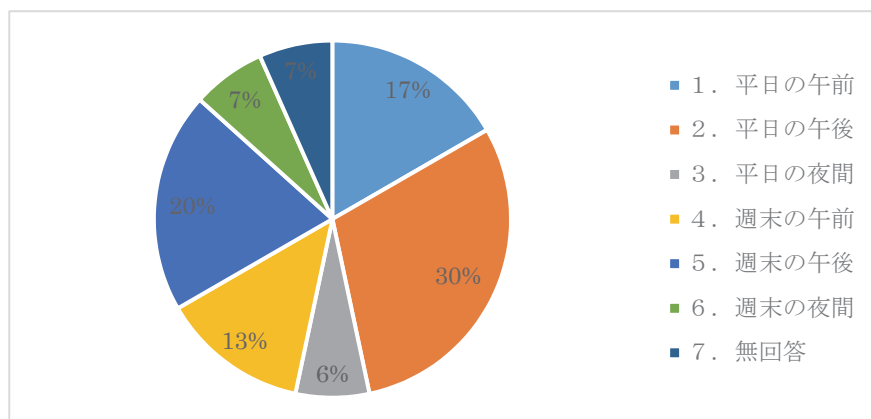
問 20 今後行いたい学習の形態を教えてください。(複数選択)



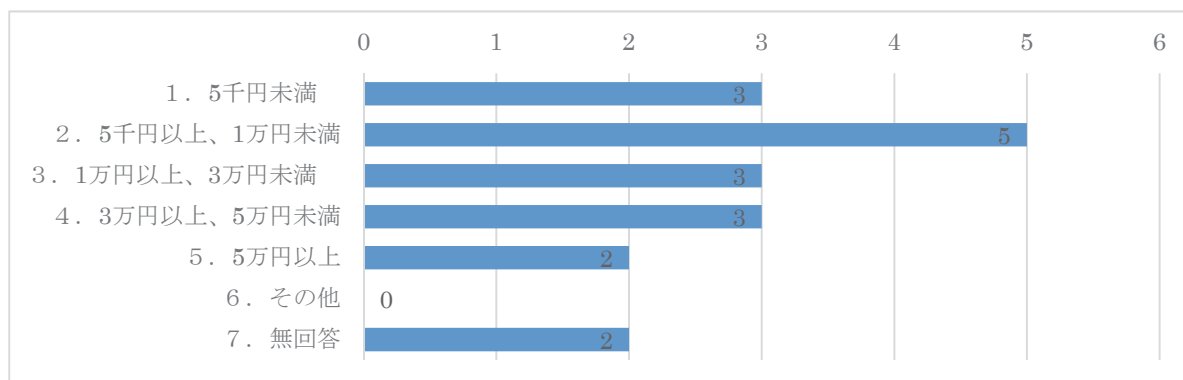
問 21 学習活動に参加する際、適当だと思われる期間を教えてください。



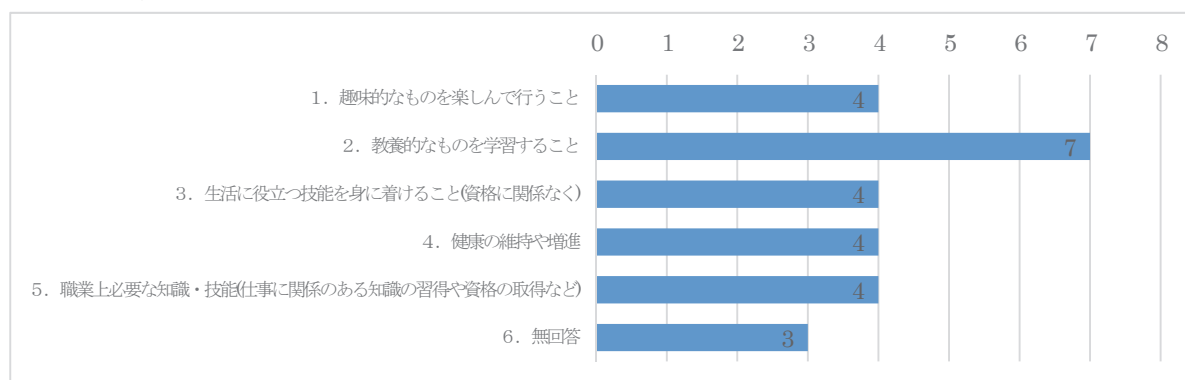
問 22 学習活動に参加する際、最も都合の良い時間帯はいつですか。



問 23 1年間学習活動にかかる費用について、妥当だと思う金額はどのくらいですか

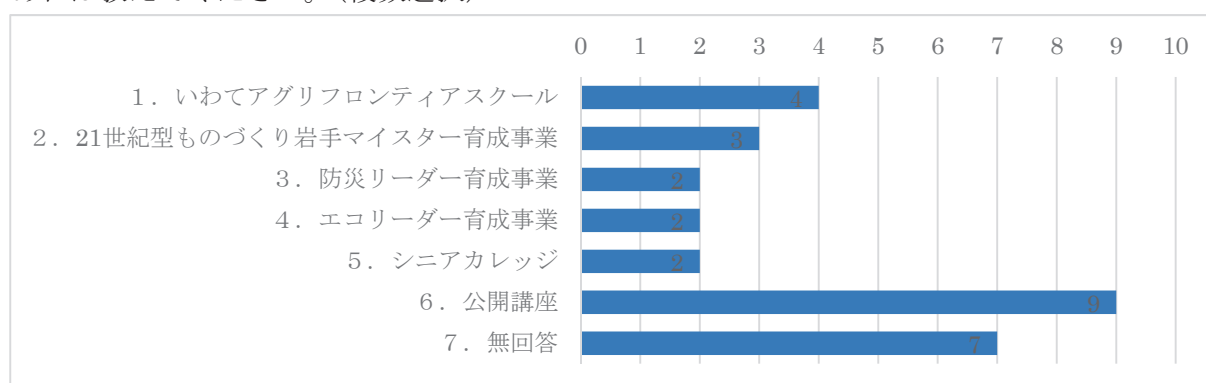


問 24 学習活動を行う際、あなたが一番重視するものはなんですか。

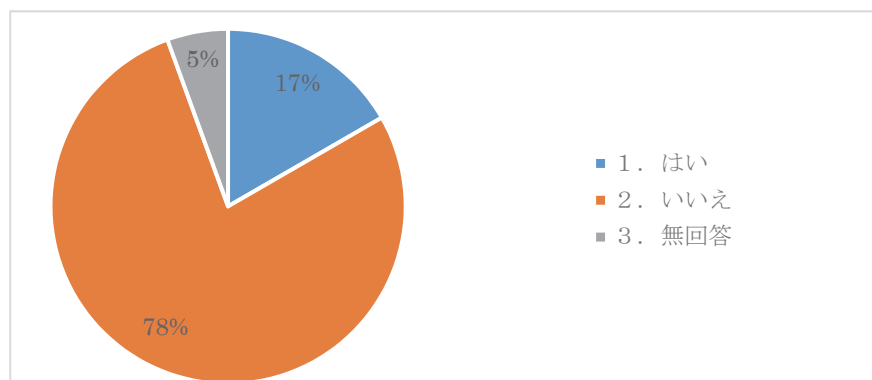


V 岩手大学で実施しているプログラムについて

問 25 本学が実施している下記のプログラムを知っていますか。知っているプログラムがあれば教えてください。(複数選択)



問 26 本学で実施しているプログラムに参加したことがありますか。



○ご意見等は、ご自由にこちらへお書きください。

・個人的なものではありますが、今社会問題となっている貧困や、子どもを取りまく環境に関する講座が行われることをありがたく感じます。今後とも参加致しますので、宜しくお願い致します。

・貴重な学びになりました。ありがとうございました。

・地域に密着したテーマで非常にわかりやすかったです。
・開講授業があれば参加したい。（地域発展に関わる）
・岩手大学で多様な成人向けプログラムがあることを初めて知りました。より多くの皆さんにも学んでいただきたい内容と思っています。県教委と連携し、成人向け教育プログラムの充実・発展に寄与できればと個人的には考えております。職場に戻って上司にも伝えたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。今回はご案内いただき、ありがとうございました。
・視野が広がります。とっても勉強になります。業務の関係でも何かできないか考えていきたいです。
・「しゃいん食堂」「がくせい食堂」の取組がすごく良いですね。子ども食堂のような場がもっと広がればいいなと思いました。そういう学びの場を大学が提供してくださればうれしいです。
・今回は気楽な（オープン）講座で良かったが、名簿をチェックしているのが気になりました。事務局でしっかり管理してほしいと思います。
・大学の先生に一般人が教えることがあってもいい。ちなみに「731部隊」については私こと教授クラスです。
・大変貴重な講座でした
・とてもわかりやすく、中国の地域問題を学ばせてもらいました。次回も期待します。
・中国の状況を自国民のかたから真実をきいて少し目先も変える機会になりました。
・時間が少ない
・岩手に来て8年、情報量も少なく、岩手のこともあまりわからないままの暮らしでしたが、ほんの少しですが、情報を得ることができ幸せでした。またの機会を楽しみにしています。
・とても良い企画で勉強になりました。ありがとうございました。

2-3 社会人学び直しシンポジウム

社会人学び直しシンポジウム報告書	
目的	
急速な社会変化に対応し、生涯を通して社会で活躍していくためには、就職するまでに身に着けた能力だけでなく、継続的な学習を必要とする。近年、その学習の場として大学が注目され、地方大学は地域や社会の知の拠点として、地域住民の生涯学習や多種多様な主体の活動を支えると同時に、地域や社会の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値の創造への積極的な貢献が求められている。岩手大学では長年にわたって積極的に社会人学び直しの場を提供しており、各分野のリーダーを養成すべく、社会人・大学院生を対象に多種多様なコースを提供している。そこで、地方国立大学における社会人教育の現状と課題を共有し、学内・外の実践報告をとおして今後の社会人学び直しプログラムの在り方を検討するとともに、岩手大学が果たすべき役割について議論を行った。 詳細については、別冊のシンポジウム報告書を参照されたい。	
実施状況	
詳細は以下の通り。 地方国立大学における社会人受け入れの現状と課題 総合司会：朴 賢淑 日 時：平成 30 年 2 月 5 日（月） 14：00～16：30 場 所：岩手大学 復興祈念銀河ホール 開会の辞 基調講演 高等教育における社会人の学び直し政策について 講演 アグリフロンティアスクールの取り組みについて 21 世紀型ものづくり人材岩手マイスター育成の取り組みについて 関西学院大学における社会人の学び直しプログラムへの取り組み 閉会の辞	

2-4 公開講座

岩手大学では地域に密着した社会貢献を目指しており、大学の研究成果を広く社会に還元するために「公開講座」を実施している。今年度の公開講座開講においては、学内教員を対象に公募を行い、19件が採択された。なお、採択された公開講座の詳細については下記を参照されたい。なお、内容においては「語学・文学」、「スポーツ」、「芸術」、「農学」、「工学」等幅広い分野の講座を提供した。

表 2-4-1 平成 29 年度公開講座一覧

NO.	講座名	担当教員	報告資料 番号
1	フィールドセミナー ー春の 植物観察会ー	農学部 寒冷フィールドサイエンス教育研究セ ンター 教授 澤口 勇雄	2-4-1
2	農学部 5 学科「植物生命科学科」 「応用生物化学科」「森林科学 科」「食料生産環境学科」「動 物科学科」の実験講座	農学部 植物生命科学科 教授 黒田 榮喜	2-4-2
3	地域政策入門 ー地域と暮ら しー	人文社会科学部 地域政策課程 教授 笹尾 俊明	2-4-3
4	動物のお医者さんの話 ～中 高生のための獣医学概論～	農学部 共同獣医学科 教授 木崎 景一郎	2-4-4
5	少年少女のためのバスケット ボール	人文社会科学部 人間文化課程 教授 栗林 徹	2-4-5
6	コーチのためのサッカーC 級コ ース	教育学部 保健体育科 教授 鎌田 安久	2-4-6
7	フィールドセミナー ー秋の 植物観察会ー	農学部 寒冷フィールドサイエンス教 育研究センター 教授 澤口 勇雄	2-4-7
8	哲学者内山節氏を迎えての 「哲学の森」	農学部 寒冷フィールドサイエンス教 育研究センター 准教授 山本 信次	2-4-8
9	フィールドセミナー ーウォッチングビンゴをしな がら親子で楽しむ森ー	農学部 寒冷フィールドサイエンス教 育研究センター 教授 澤口 勇雄	2-4-9

10	ニワトリ胚への遺伝子導入	理工学部 化学・生命理工学科 准教授 荒木 功人	2-4-10
11	インドネシアのガムラン音楽と 舞踊 ーガムラン体験&レクチャー・デモンストレーションー	教育学部 音楽教育科 教授 川口 明子	2-4-11
12	少年少女のための陸上競技	教育学部 保健体育科 教授 上濱 龍也	2-4-12
13	かんじきをはいて冬の森を歩こう	農学部 寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 准教授 山本 信次	2-4-13
14	コーチのためのサッカーD級コース	教育学部 保健体育科 教授 鎌田 安久	2-4-14
15	国語科・新指導要領の理解と実験への展望	教育学部 国語教育科 教授 藤井 知弘	2-4-15
16	牧場体験「子牛の誕生？トラクタに乗ろう」	農学部 寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 助教 平田 統一	
17	フィールドセミナー ー春をむかえる森をみるー	農学部 寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 教授 澤口 勇雄	
18	きれいな水を守ろう！「水の浄化を体験」	理工学部 化学・生命理工学科 教授 平原 英俊	

成果報告書

記録者氏名：農学部附属寒冷FSC滝沢演習 林麻生臣太郎・澤口勇雄

事業名：フィールドセミナー 春の植物観察会ー

目 的

滝沢演習林にて開葉期を迎えた樹木、草本の観察を通じ、一般社会人・児童向けの環境教育を行う。

活動実績

日 時：平成29年6月4日（日）10:00～12:30

場 所：滝沢演習林

講 師：伊藤勲氏

参加人数：19名（大人14名、児童5名）

滝沢演習林で年4回開催されるフィールドセミナーの今年度第1回目となる春の植物観察会が、伊藤勲氏を講師として6月4日に行われた。当日の天候は6月にしては寒く、時折小降りになることもあったが、観察ルートを変更することで参加者が濡れることが無いよう配慮された。

本観察会は不抜の森を抜け、事務所前の林道へ戻りその後8林班の土場を経由して8-7林班の境界を移動するルートにて行われた。講師の伊藤氏からは観察ルートで見られる植物の和名と方言での呼び名の他、名前の由来などが説明された。また類似している植物の特徴とその違いや見分け方、樹木としての用途などが分かり易く説明され、参加者の関心を集めた。

小学生連れの親子と年配の方で総勢19名の参加となった。年配のリピーターや虫好きの児童など、今回の参加者は関心の高い方が多く、伊藤氏の説明への質問も多く寄せられた。また、参加者が伊藤氏の元に集まり熱心に聞き入るため、林内の移動も比較的スムーズであったため、多くの植物を観察することができた。参加者にとっても非常に充実した観察会となったようである。



成果報告書

記録者氏名：農学部 植物生命科学科 黒田栄喜

事業名：第 22 回農学部 5 学科 「植物生命科学科」、「応用生物化学科」、「森林科学科」、「食料生産環境学科」、「動物科学科」の実験講座

目的

本講座は、主として岩手県内の高校生を中心とした若い世代や理科教育に携わる教員の方々を対象とする、実験を中心とした公開講座です。平成 8 年度に農学部 4 学科の『実験講座』としてスタートしましたが、昨年度の学部改組に伴い「農学部 5 学科の実験講座」として継続し、今年度で通算 22 回目を迎えました。

活動実績

7 月 1 日（土）13：00 から開催の実験講座では、5 つの学科で活躍している教員に講師をお願いし、現在進めている研究テーマや各分野における基本的な実験手法をわかりやすく紹介いただいた。また、今回参加された高校生および理科教員の方々には、予め、下記の 8 つのテーマから選択した希望のコースに分かれ、ティーチングアシスタントの学生さんの指導のもとで実際に実験を行うとともに最先端の研究がいかに行われているかを体験していただいた。

テーマ

- | | |
|---|---------------|
| コース① 「地球温暖化はサムサノナツをなくすのか？」 | 下野准教授（植物生命） |
| コース② 「PCR法で植物のDNAの違いを調べてみよう」 | 畠山准教授（植物生命） |
| コース③ 「ミトコンドリアの呼吸を調べてみよう」 | 伊藤教授（応用生物化） |
| コース④ 「お菓子の科学～ケーキが膨らむ秘密～」 | 三浦教授（応用生物化） |
| コース⑤ 「木の香りが持つ不思議なチカラ」 | 小藤田教授（森林科学） |
| コース⑥ 「ドローンを使って空から環境を調べよう」 | 原科准教授（食料生産環境） |
| コース⑦ 「果樹園でスマート農業を実践してみよう
～果樹園作業の自動化をめざして～」 | 武田教授（食料生産環境） |
| コース⑧ 「食べ物や飲み物の抗酸化力を見比べてみよう」 | 小田准教授（動物科学） |

参加者

今回の参加者は、県内各地の高校から 59 名の高校生と理科教育に携わる 3 名の教員，合わせて 64 名の参加があった。

高校生の内訳：

- ・男子：20 名，女子：29 名
- ・1 年生：13 名，2 年生：28 名，3 年生：18 名

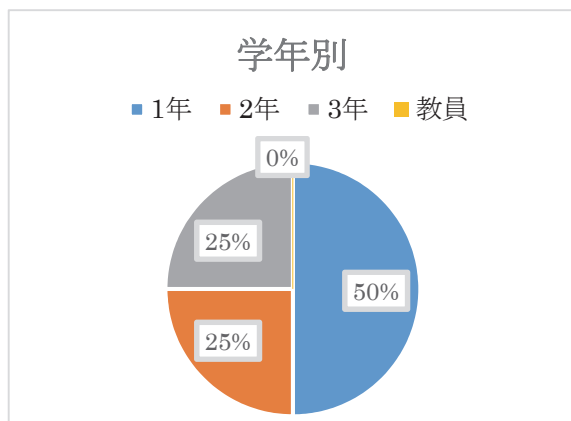
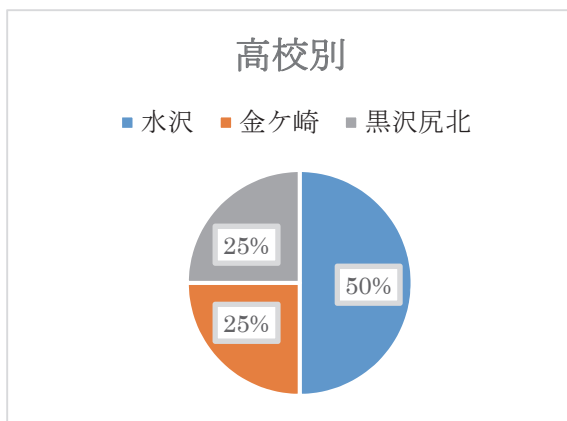


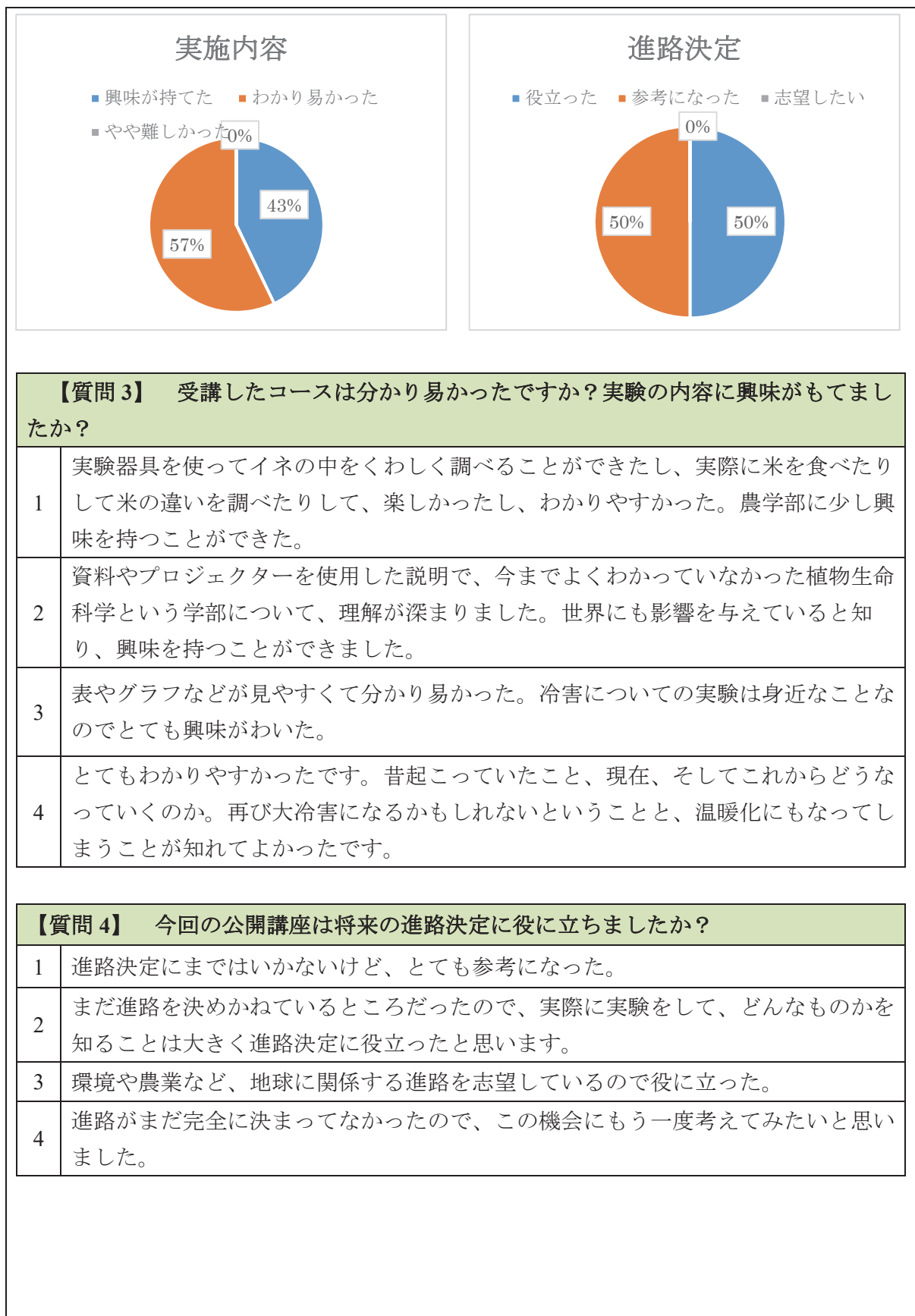
今後の課題

実験講座の開催時期は、これまで7月第1土曜日であったことから、参加実績のある周辺の高校に7月上旬の行事予定を伺った。それぞれの高校によって事情が異なり、対象を絞ることもできないことから、今年度は、例年同様、7月1日(土)の開催となった。なお、この時期は、高校総体や高校野球の地区大会、および、各高校の期末試験などと重なることから、参加者を確保する上では、高校側の行事予定を考慮することも必要ではないか。今回、最近数年間の参加人数に比べて若干少なかったことには、日程調整の影響があったものと思われる。

アンケート調査結果

コース①植物生命科学科「地球温暖化はサムサノナツをなくすのか？」下野裕之准教授



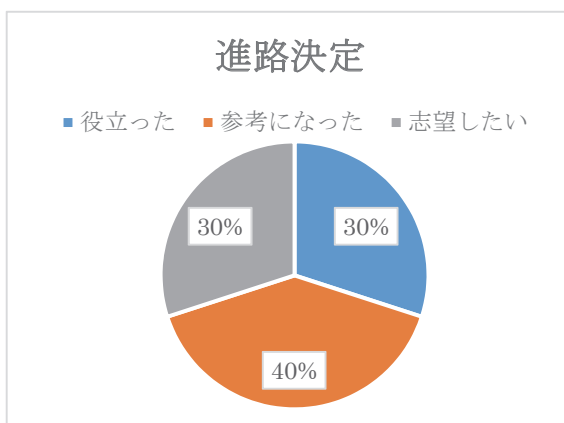
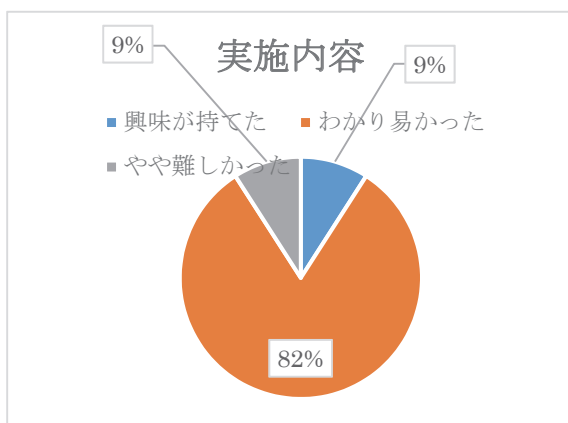
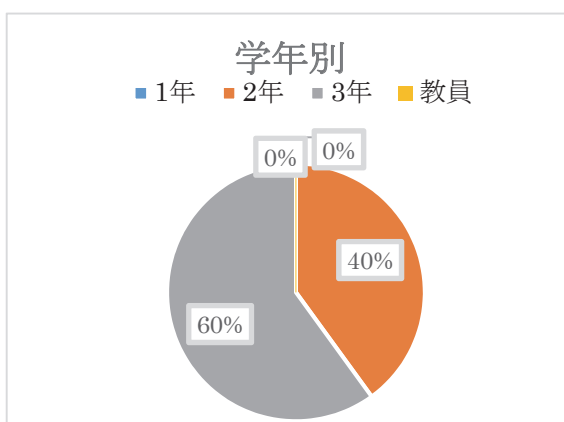
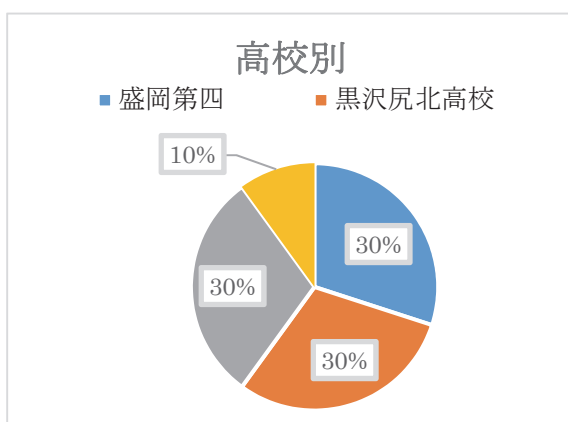


質問 5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

1	地球温暖化は冷害を無くすと思っていたので、とても意外でした。身近な疑問や問題から科学に触れるきっかけとなっていて、とても良いテーマだと思いました。
2	テーマの内容は自分的におもしろかったと思った。とくに米の違いを自分で見極める所がおもしろかった。それ以外にも冷害のことやイネのことについてたくさん知れて興味をもつことができた。「このようなおもしろい講座を聞いてくださり、ありがとうございました。」
3	実家で米を作っているので数年内での環境の変化、また稲の収穫量の変化を親に聞いてみたいと思った。冷害についても興味がわいたので、自分でも調べてみたい。
4	実家も農家で昔大冷害にあっていて、自分はそのときまだ生まれてなく、大冷害があったことすら知りませんでした。昔あったことも知れたし、これからどうなるかも知れたのでよかったです。

コース②植物生命科学科「PCR法で植物のDNAの違いを調べてみよう」

畠山勝徳准教授



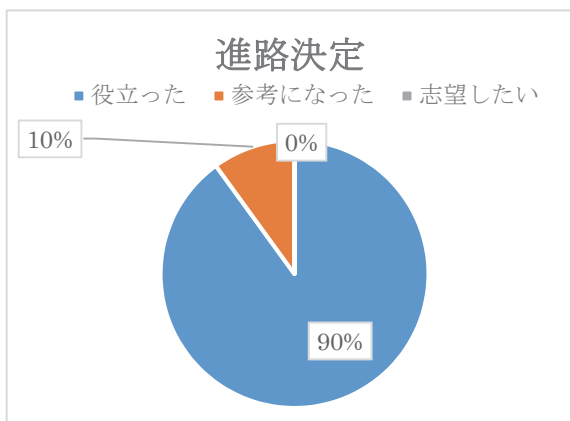
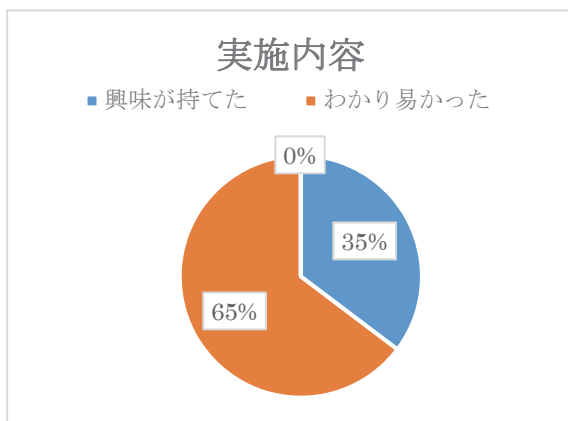
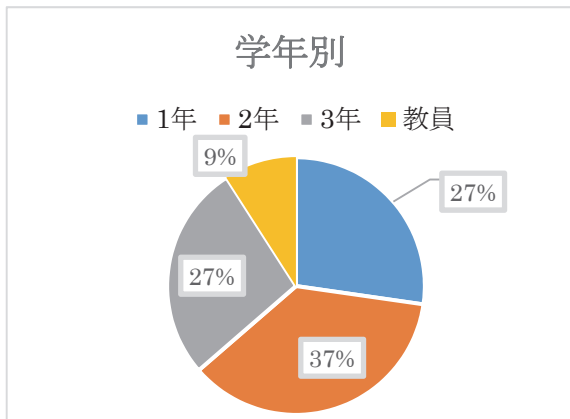
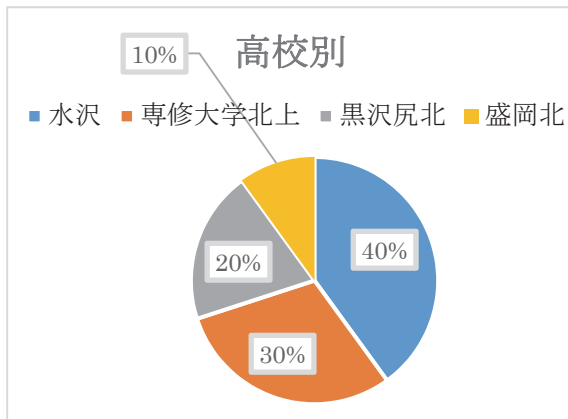
【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がありましたか？	
1	自分が将来やりたいことの基礎となるようなことが学べた。とても丁寧で分かりやすかった。質問に対する回答も分かりやすくて助かった。
2	今回の講座を通して DNA についてもっと学んでみたいと思いました。実験の仕方や内容を詳しく教えてくださり、分かりやすかったです。
3	想像していたよりも分かり易くて先生や学生の方も優しく教えてくださったので実験ではいま何をしているのか確認しながらできました。
4	実験の薬品名や器具の使い方を丁寧に教えてくださり、説明も分かりやすかったです。PCR 法は教材で見たことしかなかったので、実験してみても楽しかったです。
5	実験内容や器具の説明が分かりやすかったです。マイクロピペットを使うのが難しかったです。手が震えてしまいました。初めて見る機械や初めて使う器具がたくさんあり、楽しかったです。
6	分かり易かった。実験は難しそうに見えたけど結果がしっかり出てきたので良かった。
7	受講していて難しい所もありましたが、理解できたところもあったので良かった。実際に DNA の実験をやってすごく楽しかった。
8	分かり易かった。
9	プリントにも色々書いてあり、実験の流れが分かり易く、興味がありました。
10	PCR 法はまだ習っていないところだったので、どんな実験をするのか楽しみでした。大学生の方もやさしく質問に答えてくれたのでうれしかったです。
【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？	
1	ますます将来の夢を叶えたいとなったし、岩手大学で学びたいと思った。
2	今回の講座を受け、植物生命科学科にも興味が湧きました。
3	どんな環境でどんな道具を使って実験しているのかわかったので、入りないなという気持ちが強くなりました。
4	遺伝子についての実験、学科のことを知れて、進路決定にはすごく役立ちました。
5	大学で植物育種学について学びたいと思っているので、今回、この講座を受けられて良かったです。
6	役立った。将来、植物を扱うようなことをしたいと思っているので、今こういう実験をして先取りが出来た感じがした。

7	私は岩手大学に進学したいと思っているので、この講座はとても役に立ちました。
8	DNA についてとても興味をもつことができた
9	まだ進路が決まっていなかったなので、今後の決定に参考にできると思います。
10	大学での実験に興味をもちました。授業が進めば今日の実験内容について、もっと理解できると思うので楽しみです。OC なども利用して進路決定に役立てていきたいです。

質問 5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

1	PCR 法はちょうど授業で習ったところで、習った内容と今回の講座をリンクして考えられてとてもよかった。自分は将来、品種改良について学びたいと思っていて、その基礎となることが学べてよかった。自分自身でももっと関心を持っていろいろなことを吸収していこうと思った。
2	学校の授業で学んだことを実験してみることができ、より理解を深めることができました。
3	学校の授業で学んだ PCR 法での実験は実際にやってみてとても楽しかったです。学校では使わない器具を使って難しかったけれど学ぶことができてとてもためになりました。
4	今回の講座は、PCR 法というもので複製を行いました。実際にやってみておもしろかったです。
5	今回の PCR 法の実験は楽しかったです。講座を受けられて良かったです。PCR 法は授業で習ったとき難しいと感じていたけど、今回実際に実験して、楽しかったです。実験がうまく行って良かったし、結果の写真をもらうことが出来てうれしかったです。
6	私は物・化を取っていますが、生物基礎をやっていた身なので、DNA などの専門的な言葉の他にも実験の仕方も分かったので良かった。
7	実際に DNA の実験が楽しかった。
8	学校では実験などをしないので、いまいちよく分からなかったけど、実際に実験をすることで分かったことがたくさんあったので良かった。
9	大学で実験することがないので、とても新鮮な体験でした。ありがとうございました。
10	なかなかできない実験を体験することができる良い機会でした。前よりも色々なことに挑戦してみたいと思いました。ありがとうございました。

コース③応用生物化学科 「ミトコンドリアの呼吸を調べてみよう」 伊藤菊一教授



【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味をもてましたか？

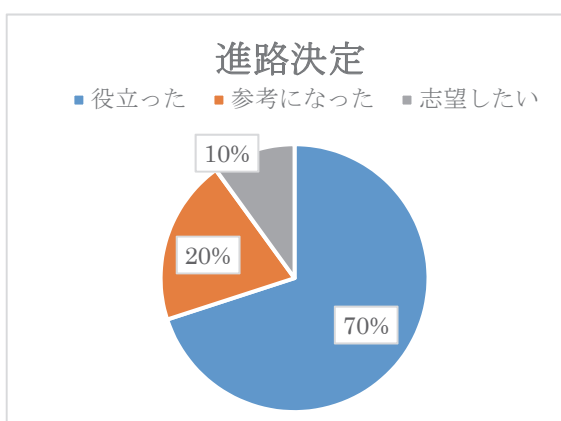
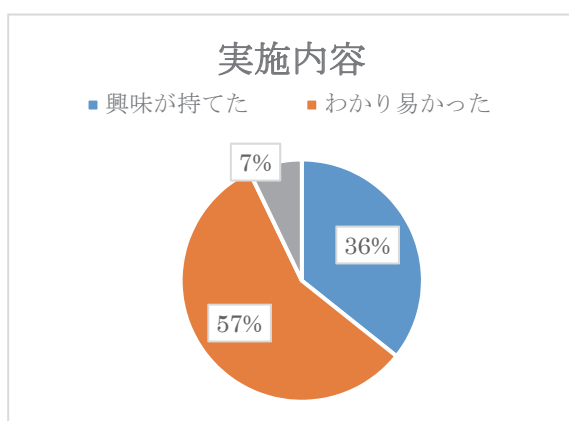
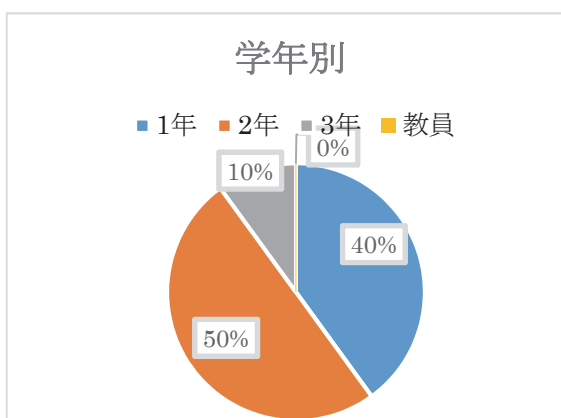
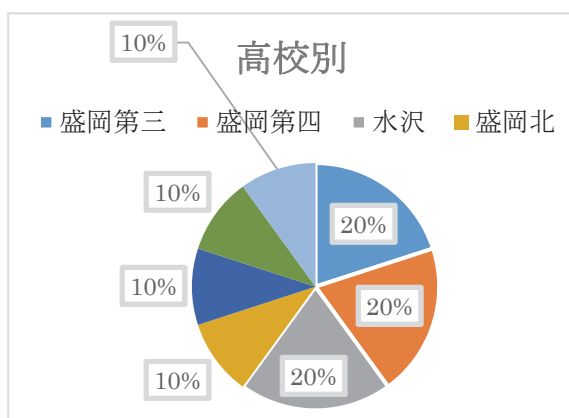
1	分かりやすかったですし、ミトコンドリアの今回の実験が更に様々な実験につながる事が想像できました。
2	とても分かり易かった。興味をもてました。特にミトコンドリアに NADH を 1 回与えて、2 回目与えると、1 回目より活動がゆるやかになることがわかりました。
3	順を追った説明でとても分かり易かったです。どうなるのか、そしてどうすればいいのか等考えるときに非常にわくわくしました。
4	基礎的なことから 1 つずつ確認してくれてわかりやすかったです。また、実験内容も高校ではできない実験だったので貴重な体験になりました。
5	分かりやすかったし、興味をもつことができました。ミトコンドリアの呼吸が進むと酸素が消費されていく。ミトコンドリアに NADH を加えると呼吸の反応が進んでいく。また、NADH の濃度を変えることによって反応が高くなる。とても身になることばかりだった。

6	説明がとても丁寧で、わかりやすく、また実験に参加することによって、道具の正しい使い方や、ミトコンドリアの呼吸の変化について理解することができたのでよかったです。
7	基礎の部分から分かり易く説明して下さったので、講座の内容が理解しやすく、とても良かったです。また、人によってミトコンドリアの活性が違うと知り、どのくらい違うのかとても興味をもちました。
8	わかりやすかったです。実際に見てみると黄色っぽい色をしていることや、NADHによって活性化されることがわかってよかったです。
9	教授の説明と、動画の視聴によって、けっこう分かりやすかったです。私はもともとミトコンドリアというものは知っていて、くわしく知りたかったのでとても興味のある内容となりました。
10	とても分かり易くおもしろかったです。この実験では、他の方法もあると聞いたので、見てみたいし、やってみたいと思いました。
11	とてもわかりやすかったです。学校の生物で習った程度だったので、知識も深まり、更にミトコンドリアについて知りたいと思いました。
【質問 4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？	
1	役に立ちました。私は今日先生から聞いたミトコンドリア病の治療法を見つけてみたいと思いました。
2	生物は本当に身近で、それにミトコンドリアはとても偉大だと感じました。進路は未定ですが、生物を思う存分できる所に行きたいと思えることができました。
3	大学で学ぶ際の1つの参考になりました。
4	役に立ちました。「生物」という学問は一生かかっても勉強しきれない程、やりがいがある学問だと感じた。生物に興味を持ったので、これから勉強していきたいと思った。
5	学校では深く教わらないところまで知ることができたし、「生物」という分野について、より興味を持つことができたのでよかったです。
6	ミトコンドリアのことだけでなく、大学の雰囲気も分かったので、とても進路選択に役立ちそうです。また、教授の方が化学・物理選択だったときき、今からでも進路の道はたくさんあるということが分かってとても良かったです。
7	今までは農学部の見学とかは行ったことがなくて、初めて見て、単純な操作の実験からもたくさんの情報を得ることがわかったし、なにより楽しかったので、こういう道もありだと感じました。
8	生物を学ぶのも楽しいなと思えたので、とても役に立てたと思います。

9	ミトコンドリアによる病気があると知り、調べてみたいと思いました。
10	将来学科はどうであれ、農学部に進むことに決めているので、とても役に立ちました。
質問 5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	非常に基礎的な研究だとは思いますが、考え方次第で様々な研究につながるおもしろいテーマと感じました。ご講義ありがとうございました。
2	今回、講座を受けてミトコンドリアのことについて色々知りました。先生や TA の人の説明がとても分かり易かったです。
3	ミトコンドリアは複数形であることと、色は茶色っぽいということに少し驚きました。教科書上でしか理解していなかったミトコンドリアについて今回の実験で実感することができて良かったです。また、好奇心と考えることは大切だと思ったので、大事にしていきたいです。
4	高校では絶対に実験できない内容だったので参加して良かったと思いました。また、テーマも自分にとって身近な体内の仕組みの話で興味深かったです。これから学習する時にイメージがつかみやすくなったように感じました。
5	教科書の図でしか見たことのなかったミトコンドリア。ATP を生産しているものだ、という認識しかなかったのが、ミトコンドリアの呼吸を酸素の減少具合で分けることができたので、とても親近感が湧いた。
6	今回の講座を受ける前に、生物の授業でミトコンドリアについて教わってもらったけれど、「ミトコンドリアは呼吸の場なのかあ。ATP を合成するのかあ」と授業中に思ったぐらいでした。でも講座で話を聞いたり、実験をしたりして、ミトコンドリアの構造や量を変えることでどんな変化になるのかを知って、学びを深めることができました。
7	今回の講座に参加してみて、普段の授業では知ることのできないことや、できない実験ができてとてもおもしろかったです。また機会があったら参加してみたいし、ミトコンドリア以外のことも知りたいと思いました。
8	中学・高校と生物を勉強してきて、ミトコンドリアの存在は知っていたし、わかっていたつもりだったけど、今回参加して今までわからなかったことを知ることができたし、理解を深めることができたので、とてもよい経験となりました。ありがとうございました。
9	今回の講座に参加して、ミトコンドリアの呼吸活性以外のことも学びたいと思うことができました。テーマについては、名前だけをしっていた私には、とても興味がそそられるテーマでした。

10	ぜんぜんミトコンドリアを知らないまま講座を受けたのですが、とてもおもしろかったです。自分でやってみるのもいい経験になりました。また次も来たいです。
11	動物、植物どちらにも存在する細胞小器官なので、どの学科にいても知識として役に立つと思いました。動植物のからだのしくみについてもっと知りたいと思いました。

コース④応用生物化学科「お菓子の科学～ケーキが膨らむ秘密～」 三浦靖教授



【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか？	
1	とても分かりやすく、もっと色々なことを知りたいと思いました。
2	分かりやすかったです。身近なものが題材で、楽しんで学ぶことができました。
3	はい。ケーキ作りを通して、楽しみながらスポンジケーキがふくらむ原因や様々な構造、関係について知ることができてよかった。
4	ていねいに教えてくれたので分かり易かった。お菓子作りにもしっかり理論があり興味をもてた。

5	今までなんとなく「ああ、ふくらむんだなあ」と考えていたことが、なぜふくらむのかについて分かることができたし、内容も分かり易く、興味を持つことができました！
6	難しい用語も例を使いながら説明をしていただいたので、わかりやすかったです。「ケーキ」という身近なものから、疑問や研究テーマを発見することができるんだなと思いました。
7	理論でケーキを膨らむ理由を説明すると難しい言葉が多く出てきて理解しにくかったが、興味をもつことができた。お菓子をただ美味しくつくるのではなく、どうしてこうなるのか？を考えながらつくるもの面白いなと思った。
8	分かり易かったです。興味をもてました。
9	理解することができたと思います。ケーキを実際に作り、対照実験によって製法や材料を変えることで、食感や見た目にどのような影響が出るのかを試食することで体感すると同時に、先生の説明によって、そのメカニズムを知ることができて興味をもてました。
10	話を聞くだけでなく、自分の目で見て体験ができたのでとても分かり易かったです。

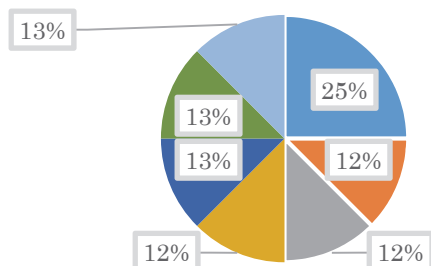
【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

1	今回参加させていただいたことで自分も大学に進学して研究してみたいという思いが強くなりました。
2	応用生物化学科ではどのようなことをするのが分かり、これからの進路選択に役立つと思いました。
3	はい。色々な成分や科学に興味があるので、このような食品加工を通して学ぶのも面白そうだった。
4	加工系の進路も今回ので興味をもつことができた。進路についてまた考えてみたい。
5	自分の知らない化学の世界を知ることができました。自分でも調べたいです。
6	将来の仕事や夢についての選択の幅が広がりました。
7	役立ちました。
8	役立ちました。
9	講座の中で、大学生や院生の方と会話をすることで、進路を決めた時期や受験期の勉強時間等、参考になる話を聞くことができました。
10	とても役立ちました。自分の進路について、まだ決めていないので今回この講座をうけて、この道もおもしろそうだなと感じました。

質問 5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	ケーキのふくらみについてほとんどが初めて知ったことで、とても貴重な体験になりました。楽しく学べて良かったです。ケーキについて興味をもてました。オープンキャンパスもぜひ来たいです。ありがとうございました。
2	今までのおかしづくりでは、ただつくって味を楽しむだけでしたが、今回の講座を通して、つくる工程ごとに、どんな反応によってこうなるのか・・・？などを考えるおもしろさが分かりました。また、「スポンジケーキ」を研究するだけでもたくさんの知識が必要だったので、もっと勉強を頑張ろうと思いました。
3	普段、何気なく作っているお菓子の中に、こんなにも複雑で難しい科学が含まれているのだと思うと、すごいと思ったし、感動した。
4	ケーキを作り、ふくらむ理由などを学べて良かった。お菓子作りも化学なんだなとあらためて感じた。進路に向けていい体験ができた。ありがとうございました！
5	楽しく、コースの内容について理解できました。また、食べたケーキもいつも以上においしかったです。
6	普段の生活から自分が疑問に思えるかどうかが、自分をのばすポイントだなと思いました。来年は水産系の講座を見学してみたいです。ありがとうございました。
7	自分が1番に学びたいと思っていた分野とは少し違ったが、他の分野にも目を向けることで多くの新しい発見があった。進路選択の幅を広げることができ良かった。
8	実際に自分の手でスポンジケーキを作って出来上がった生地断面や見た目を見ることで、とても印象に残りました。クックパッドに載っているスポンジケーキの作り方は間違っているものもあるということを聞いて驚きました。実験をすることによってどういう理由があってこういう結果になるということが証明されてとても楽しいと感じました。
9	分かりやすく、高校では習わない範囲を教わることができて、価値ある時間を過ごせました。
10	先輩方も優しくホントに楽しかったです。「岩大に入りたい」という気持ちが強くなりました！！今日は本当にありがとうございました！！

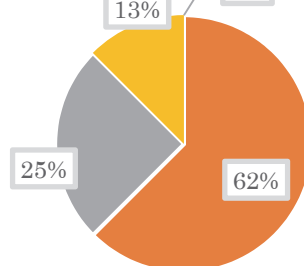
高校別

■ 水沢 ■ 盛岡第三 ■ 盛岡第四 ■ 金ケ崎



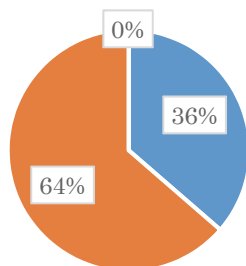
学年別

■ 1年 ■ 2年 ■ 3年 ■ 教員



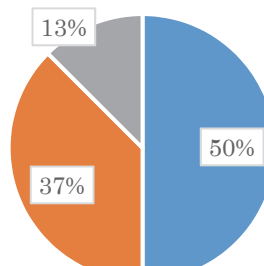
実施内容

■ 興味が持てた ■ わかり易かった



進路決定

■ 役立った ■ 参考になった ■ 志望したい



【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がありましたか？

1	分かり易かった。興味がもてた。
2	講義も実験も分かり易く、理解できました。生徒達もそうだと思います。学校ではなかなか体験できない実験なので、ためになったと思います。
3	精油にはさまざまな利点があり、特に抗菌作用があることには驚いた。
4	コース⑤では実験を2つやり、1つは自ら体験するもの、もう1つは機械を使い、出たデータを照らし合わせたもので、違う実験だったので新鮮でした。スギの木でこのような香水が出来たら売れるだろうと思います。
5	とても分かり易く、フィトニチッドなど知らない名前のものにも興味がいき、フルギノールをクロマトグラフィーで出してみる実験も学ぶことが多く、しっかりまとめておきたい。高校で習うものの大切さも分かった。
6	聞いたことのある言葉もありましたが、初めて聞く言葉がほとんどで、そのときに丁寧に説明してくださったのでわかりやすかったです。すぐ近くにある木なのに、知らないことばかりだなと思い、興味をもちました。

7	はじめにスライドショーで全体像がわかり、後半での成分を可視化できたという内容がわかりやすかった。
8	内容は高度に感じましたが、1つ1つの丁寧な説明によってあまり苦には感じませんでした。“木”1つを様々な観点から見ることでたくさんの活用方法があることを知りました。

【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？

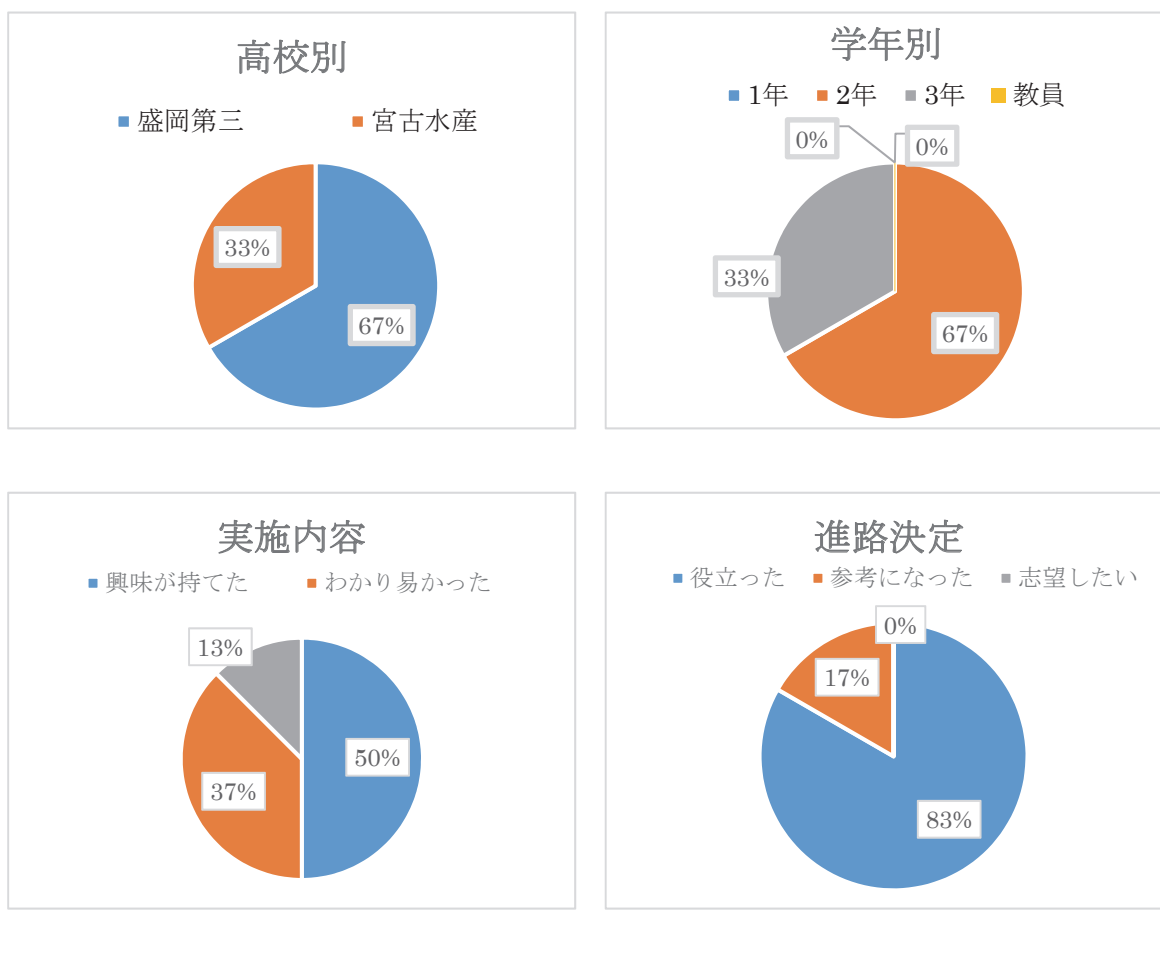
1	とても役立ちました。今後に生かしていきたいです。
2	学生がどのようなことをしているのかが見えて、興味のある生徒にとって、とても良かったと思います。（大学で学んだことが社会に結びつくことを知ったと思います）
3	スギフィトンチッドがアルツハイマーへの薬の研究をしてみたいと思った。
4	私は森林の保護や林業の発展に関わりたいとおもっているのですが、スギの木の廃棄物でリサイクルができることを知り、効率良く物事が進むと思うので勉強になりました。
5	とても役立った。進学意欲がわくものだった。
6	私はまだ将来のことについて決まっていませんが、植物を調べることもおもしろいと思いました。まだまだ知らないことがたくさんあると思うので、視野を広げて考えていきたいと思いました。
7	進路決定ということより、大学の研究の参考になったと思う。
8	今まで農学部生物系にしか関心をもっていませんでしたが、今回あえて知らなかった森林科学部という学部の講座に参加したことで他の分野にも興味をもつことができました。

質問5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

1	進路に悩んでいたけど、この講座でより興味がわきました。思っていたよりもおもしろかったです。ありがとうございました。
2	初めて参加させていただきました。貴重な体験をさせていただきました。本当に、ありがとうございました。
3	自分が思っていた以上に木のすべてが生活に生かされていることを知れた。また、まだ実用化されていないものを実用化された時に、広めていきたいと思った。参加してよかった。

4	今回の講座では分かりやすい実験と先生のエピソードも交えての面白いお話で楽しかったです。お土産もいただいたのでなおさらです。このテーマはゴミの削減やリサイクルの話にもつながってくると思うので良いと思います。
5	普段、いいにおいだとしか感じたことのなかった木の香りを成分などから知ることができて、良い機会だった。本日はどうもありがとうございました。
6	最初にお話していただいたように 100 回聞くよりお 1 回見たほうが分かりやすく楽しかったです。聞いたことのない液があり、それがまだまだあると考えるとおもしろいと思いました。今日はありがとうございました。
7	今は進路研究を行っている最中だったので、とても参考になりました。今回この講座を選んで、当たり前を感じているようなことが実は非常に複雑であり、また廃品のようなものでも、方法さえ見つければ役立つものに应用できるということを知ることができ、良かった。
8	大学の研究内容に直接ふれることができてとてもよい経験になりました。とても魅力的な内容に思えたので今回自分が今まで知らない分野を学ぶことができて進路に対するよいきっかけとなりました。とてもおもしろかったです。

コース⑥ 食料生産環境学科「ドローンを使って空から環境を調べよう」原科幸爾准教授

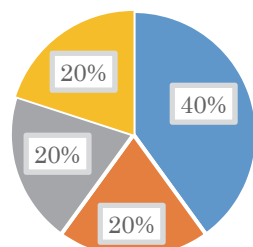


【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がありましたか？	
1	分かりやすく、実際に動かすことなどができ興味をもちました。
2	分かり易かったです。実験も楽しく興味がありました。
3	GIS を使うことで樹木の高さが分かったり、植生が活発なのかどうか分かりやすく可視化されたりすることに興味を持った。
4	分かり易い説明で実験に楽しく取り組めた。
5	ドローンを初めて見ました。とても興味がわきました。
6	内容はとてもよかったです。僕には難しかったです。苦手なので（PC 操作）
【質問4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？	
1	パソコンの操作やアプリなど多くのことを学べたので役立ったと思います。
2	自分の目で見て体験できたので、どんなことをするのか分かりました。それが進路に役立ちました。
3	農学部について良く分からなかったが今回の講座について一部だけ知れて良かった。
4	役立った。
5	はい。環境の調査を空から行えると知り、興味がでました。
6	よくわかりませんが、何らかの役には立ったと思います。
質問5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	ドローンを実際に動かし、ドローンで撮ったものがどのような情報を持っているのかなど学べてよかったです。いきなりの数字は驚きました。
2	とても楽しかったです。ドローンをうごかすこともできて本当にうれしかったです。木にぶつけそうになってごめんなさい。
3	ドローンの活用例の1つを知れて良かった。自分でパソコンを使い、環境について知ることがおもしろかった。
4	今回参加して普段テレビでよく見るドローンというものには複雑はしくみがありしらないことがたくさんあるということを実感できた。
5	とてもわかりやすい説明で、実際に実験も行えたので、貴重な経験になりました。
6	大変失礼しました。自然は好きですよ。

コース⑦食料生産環境学科「果樹園でスマート農業を实践してみよう～果樹園作業の自動化をめざして～」
武田純一教授

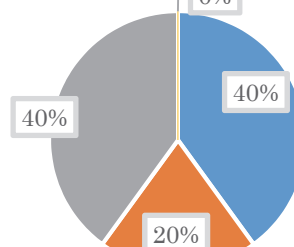
高校別

■ 水沢 ■ 盛岡第三 ■ 葛巻 ■ 久慈



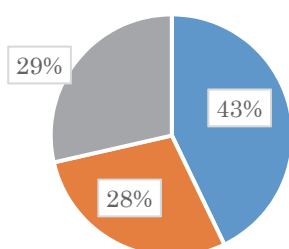
学年別

■ 1年 ■ 2年 ■ 3年 ■ 教員



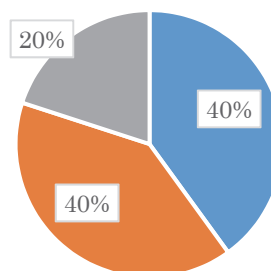
実施内容

■ 興味が持てた ■ わかり易かった



進路決定

■ 役立った ■ 参考になった ■ 志望したい

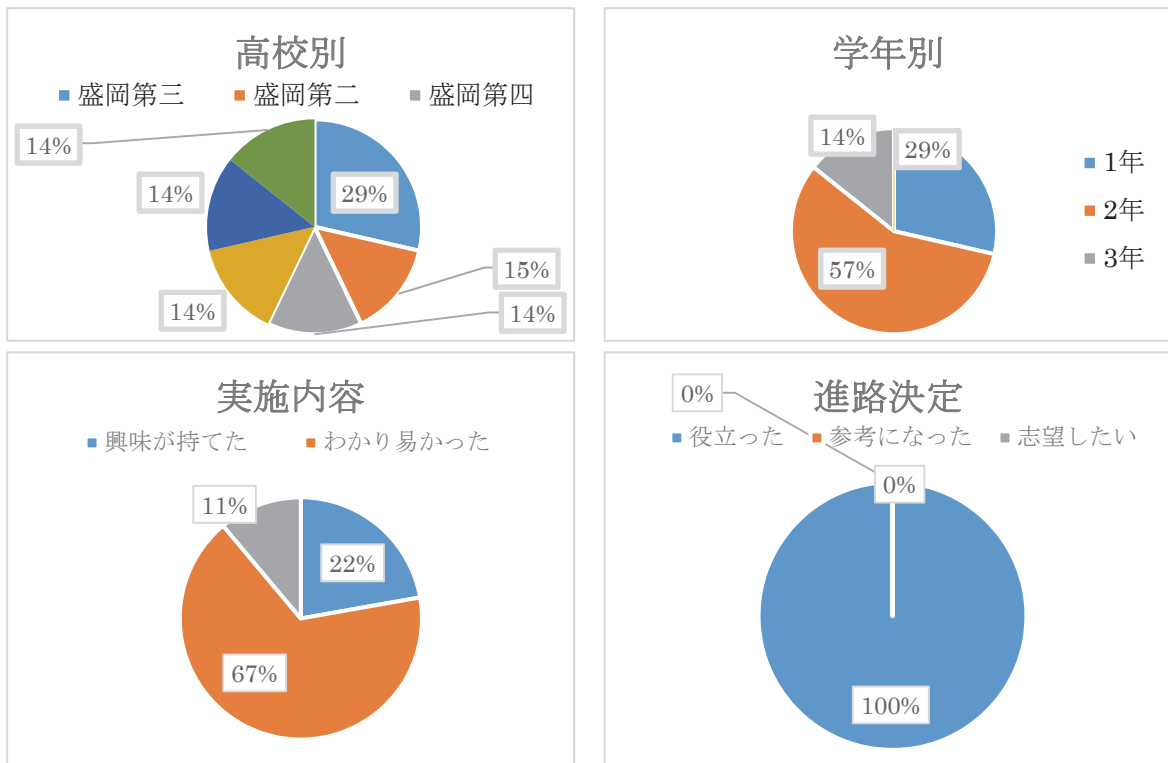


【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか？

- | | |
|---|---|
| 1 | 専門用語や関数の話は難しかったです、説明を聞いたり実践していくうちに大まかにだけ理解できました。農業人口の減少だった李、農薬の散布の仕方、無人での操作ができるなど、知らなかったことを詳しく聞けて楽しかったです。 |
| 2 | 私は機械やコンピューターを使うことが苦手だったので大変でした。でも私が分かるまで教えてもらったので、実験の内容が理解できました。自動の機械がしょうがい物を認識して動いていて、とてもすごいと思ったし、機械に興味がわきました。 |
| 3 | 自律走行をするために、具体的に何を調整しているのかがよく分かりました。データをグラフ化することで、視覚的に結果を見て理解できました。 |
| 4 | 無人で農機具を動かす実験の中でささいな状況も実験に影響がでることを知ることができ、機械だけではおぎなえない部分を人がどうおぎなうのかということに興味をもちました。 |

5	農学部なのに工学部のような研究をしていて最初は難しくかんじていたけど、教授の方や大学生の方が分かりやすく教えてくれたのでとてもおもしろかったです。
【質問 4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？	
1	私は将来農学部に進学したいと考えています。食品に携わる仕事、勉強をする上で基本となる農業が一番大切なので、これからの農業のあり方や様々な先進技術を取り入れていることを学べてすごく良かったです。
2	農学部でも自動の機械をつかって実験を行っていたところは、予想とは違っていたけど、おもしろかったです。機械をつかった実験も将来考えておきたいと思いました。
3	農学部にも工学系の技術が求められていることが分かりました。それぞれの分野の関連性を調べていきたいです。
4	将来農業に関わるにあたって、どうコストを減らしていくのかという問題の解決に役に立つと思いました。
5	私は将来地元のために何かしたいと思っていたけれど、農業機械のようにハード面から支援していく方法もあるんだと視野が広がりました。
質問 5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	スマート農業と聞いて、なんだろうと思い、実際に参加してみたら様々な機械が農業では使われ、研究されているということがわかり、この講座に参加できて本当によかったです。自分の将来にこの経験を生かしていきたいです。
2	スマート農業という言葉は初めて聞きました。機械を使って効率よく作業できるようになることは素晴らしいと思いました。内容は難しかったけど、分かりやすく教えてもらいました。
3	スマート農業と言っても、人間の作業が必要なことが分かりました。今はまだ研究段階だけど、実現すれば農業人口の問題の解決法の1つになりそうだと思います。
4	実験のデータを作成するのに時間がかかってしまいましたが、最後にグラフを見て実験中の変化が見られて良かったです。
5	農学部だからこそできる、これからの農業問題を解決していく農業機械の研究、とても素晴らしいと思います。農学部は農作物の研究だけやっているのではなく、様々な視点から農業を支える研究をしているのだと分かりました。

コース⑧動物科学科「食べ物や飲み物の抗酸化力を見比べてみよう」 小田伸一准教授



【質問3】 受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がありましたか？

1	学校で生物の授業をとっていないので、内容が理解できるか不安でしたが、先生や大学院生の方々がしっかりと詳しく説明してくださったので理解することができました。
2	とても分かり易かったです。小田准教授さんだけでなく学生さん方もとても優しく教えてくださり理解を深めることができました。
3	今まで教わったことがないような用語も出てきましたが、簡単な説明でわかりやすかったです。生物の身体にも関わることの実験だったので、興味もありました。
4	とても分かり易く、面白かった。
5	分かり易かった。
6	少し難しかったが、実験内容は理解できたので楽しかった。
7	生物を習っていないけれど、わかりやすく説明してくださり、わかりやすかったです。

【質問 4】 今回の公開講座は将来の進路決定に役に立ちましたか？	
1	大学の農学部はどんなことをしているのか、今まで知らなかったの、実際に農学部らしい実験を体験することができて良かったです！
2	はい。私は将来ペットフードの研究をしたいと考えているので、抗酸化作用について学ぶよい機会となりました。
3	自分でやりたいと考えていたことにピッタリあてはまる学科ということが知れたので、役に立ちました。
4	役に立った。これからの受験勉強にいかしていきたい。
5	役に立った。
6	動物科学科ではどのようなことをおこなっているのかわかり、役に立った。
7	役に立ちました。興味がわきました。

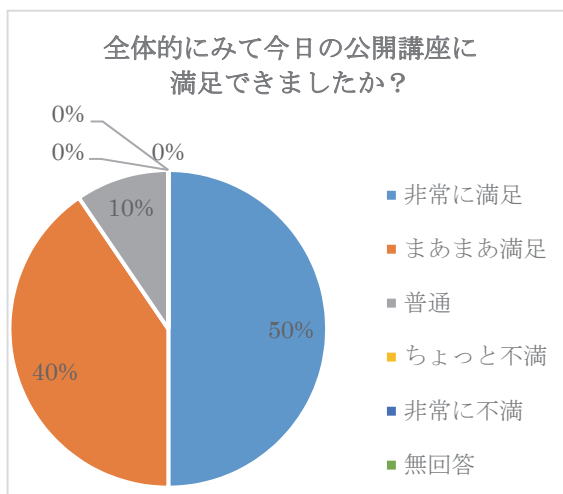
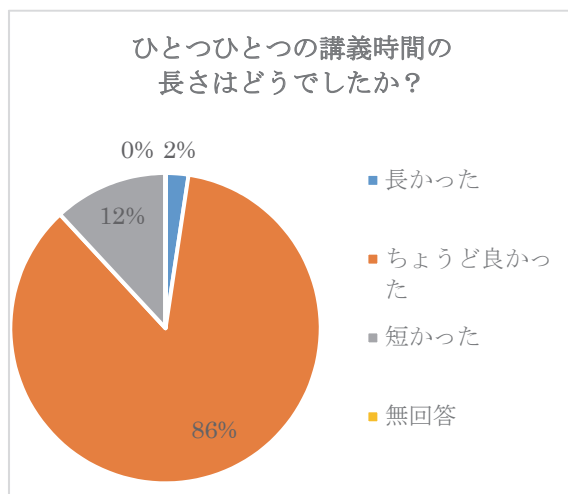
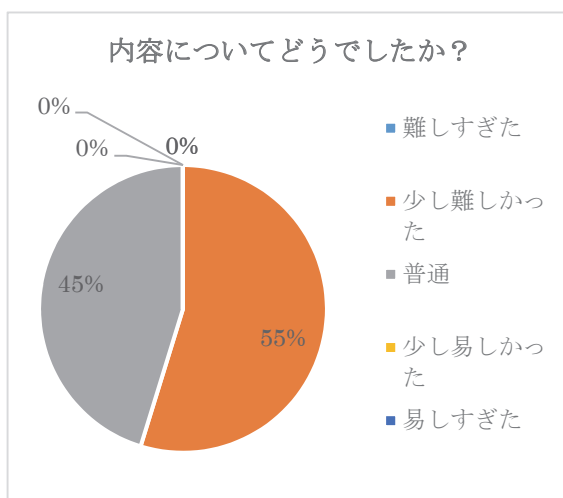
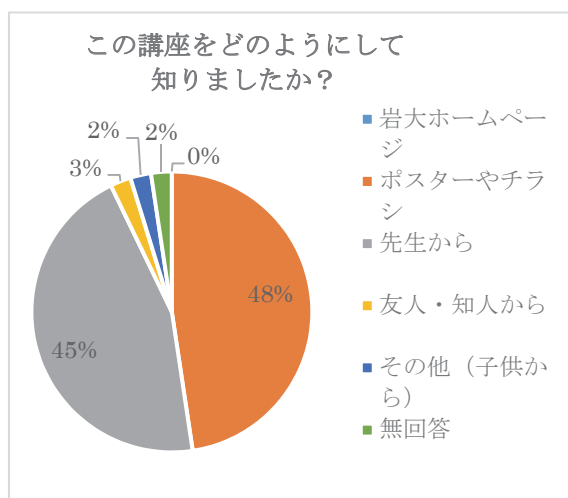
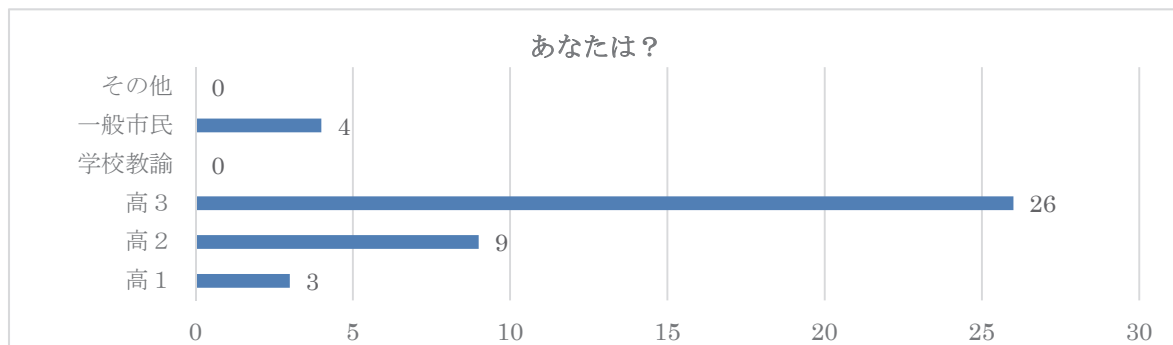
質問 5 今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	“抗酸化力”という聞き慣れない言葉に不安を抱えていただけれど、私たちが普段食べているものや飲んでいるものに含まれていることがわかり、案外身近なものなのだとわかりました。
2	大学選択で悩んでいたの、今回の講座に参加して本当によかったと思いました。楽しく実験できる岩手大学に魅力を感じました。ありがとうございました。
3	今回は人の栄養の実験でしたが、3年でペットの栄養学についても学べると聞き、どのようなことが学べるのか、直接聞くことができて良かったです。人間だけではなく、動物にも抗酸化ストレスが増えているということを知ることができました。
4	大学の内容や、勉強について知れてとても良かった。
5	抗酸化力はほとんどの生物に存在していて、毒になりうる活性酵素を抗酸化力は消してくれると分かった。今回実験して、茶は抗酸化力が大きいということが分かった。
6	実際に大学で行われている実験や、授業内容も聞くことができたので良かったです。また、きてみたいと思います。
7	実験、難しそうだと思っていましたが、楽しかったです。

成果報告書	
記録者氏名：人文社会科学部地域政策課程 笹尾 俊明	
事業名：地域政策入門―地域と暮らし―	
目 的 本講座では、平成 28 年度に新設された地域政策課程の教育内容の一端を高校生や一般市民に紹介し、本課程の取組や特色を周知することを目的とする。	
活動実績 平成 29 年 7 月 29 日（土）13 時から 16 時まで、附属図書館生涯学習・多目的学習室にて、「地域と暮らし」というテーマのもと、法学・経済学・環境学の 3 分野から話題を提供した。 まず法学分野から、河合墨准教授が「地域の雇用・労働と法政策―ワーク・ライフ・バランスの観点から」という題目で以下のような講義を行った。 最近の地域での雇用・労働政策は、「法に基づき国が大きな政策を立て、それを踏まえて地域がそれぞれ政策を立てて遂行する」という仕組みが、特に雇用創出などの分野で一般化している。そうした中、近年強調されているのが「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」である。ワーク・ライフ・バランスとはそもそも何なのか、何か忘れられているものはないか、何を目指していくのかなどについて考察した。 次に経済学分野から、杭田俊之准教授が「三陸の漁村コミュニティから見た地域の現状と今後」という題目で以下のような講義を行った。 釜石市の漁村コミュニティを事例として、沿岸漁業を主としたなりわいによって成立してきた地域の現状と課題を考えた。かつて製鉄業と水産業で発展した地域において、時代や経済環境の変化とともにどのような状況に直面しているのか検討した。漁村コミュニティに現れている諸問題を限界的な(他所の)地域の問題ではなく、日本社会の抱える縮図、私たちの「自分事」として考えられないかという問題意識をもって講義した。 そして環境学分野から、寺崎正紀准教授が「身近な化学物質と地域の水環境」という題目で以下のような講義を行った。 私たちの日常生活で医薬品は非常に身近な「化学物質」である。私たちが医薬品を服用した後、その化学物質はどこへ行くのか？答えは水環境に隠されている。水環境はその時代の暮らしや地域の社会活動と密接に繋がっている。北上川は流域人口約 130 万人を抱え、地域の生活圏に深く関わり、発電、サプライチェーンや農畜産業との結びつきも強い。近年、北上川では新たな水質汚染として医薬品による影響が懸念されている。化学物質から見た北上川の水質の時代的变化を知り、私たちの暮らしと地域の水環境の未来を考えた。 最後の質疑応答と総合討論では、参加者から講義内容に関する数多くの質問が出され、講師との間で活発な議論を行った。	

今後の課題

担当者の専門分野を活かしつつ、高校生にも興味を持ってもらえるような共通のテーマ設定が課題である。

アンケート調査結果（回答数：42名）



4. 総合討論についての感想をお聞かせください。【何でも自由にお書きください。】

■深く追求できたと思うのでよかった。

■参加者の疑問を専門家の方々に答えていただく貴重な機会でもとても興味深かった。

■鋭い質問だと思ったし、もっとワーク・ライフ・バランスについてなどを深く調べていきたいと思いました。

■質問に対し、丁寧に答えてくれていてよかった。

■質問に丁寧に答えてくださって理解することができた。

■講師の方が1つ1つの質問に丁寧に答えてくださったので、今回の講義内容についての理解をさらに深めることができました。

■質問用紙に書かせて、回答する方式は、質問が出しやすくよいと思うた。

■質疑応答により、内容をさらに深く知ることができて良かったです。

■さらに理解が深まり、他の人はどんなところに疑問をもったのかが知れてよかった。

■講座だけでは聞けない事が聞けたのでとても参考になった。

■いろいろな意見や考えを聞けてよかった。

■丁寧にこたえてくれたので、納得できました。

■口座に関係する詳しい話を聞くことができ勉強になった。

■ワーク・ライフ・バランス、漁業においても働く人がいなければ成り立たないのだと感じた。地方から人が放出していくのをなくすために“何ができるのか”を考え、これから生活したい。

■様々な視点からお話を伺うことができ、考えを広げることができました。

■他の高校生がどんな質問をするのか、知る事ができたし、そこから、刺激を受ける事もできて、とても良い経験になりました。

■自分とは違う意見や着眼点をもった人の質問を聞くことが出来て良かったです。

■わかりやすい答弁だった。

■経済や法律をもっと狭い話だと思っていましたが、地域に密着した学問でもとても興味がでました。

■さまざまな人の質問から、違う視点で、問題を見つけることができ、おもしろいものでした。

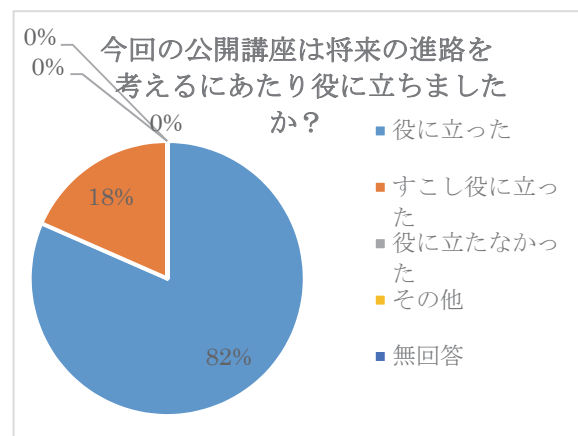
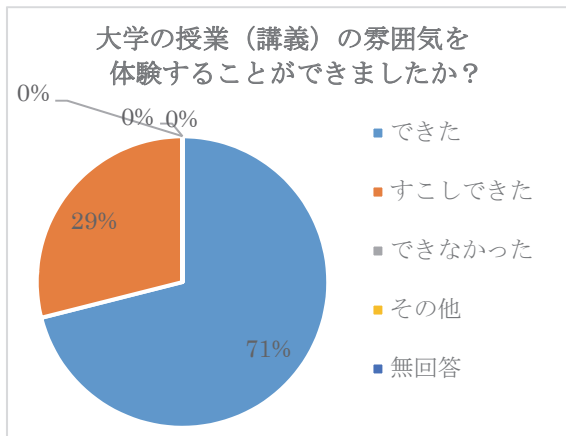
■同世代の人がどのようなことを考えているのかを知ることができて興味深かったからです。

■講義を聞く側も参加できて非常に良いと思います。

■今、高校生という立場だからこそ考えなければならないヒントをもらえたので充実した時間となった。
■新たな環境問題の知識を得るとともに自分の考えと比較しながら講座を受けることができた。
■自分で地域の問題の解決策を考え、質問などを通して深めることができました。
5. 感想（よかったこと／悪かったこと）・意見や提案（こうしたらよい／～はやめたほうがいい）
■3つの分野について知ることができよかった。
■地域政策は幅広い分野の知識が必要であると感じた。
■大学の雰囲気を感じることができまし、自分の知らないことも知れて勉強になりました。ありがとうございました。
■45分というちょうどいい時間の講座だったので聞きやすかった。
■初めての参加だったが、資料を全てもらえることがとてもよかった。高齢化に伴い福祉に興味があるので今後の福祉課題について講座を開いてほしい。
■「ワーク・ライフ・バランス」が地域課題にどのように影響していくのかがとても興味を持った。
■地域について様々な方面から学ぶことができたので良かったです。自然や伝統文化に関わる地域のテーマについて今後取り上げて欲しいです。
■地域の人口減少対策は結論として「安定した雇用」と理解しましたが、国民全てが公務員になれる訳ではないので、次の課題として「新たな仕事」をどうやって作っていくかということだと思います。このことをテーマにしていきたいと思います。
■観光とまちづくりについて興味があります。
■地域についてできることが私の中で明確になったので良かったです。
■資料がとてもわかりやすくよかった。
■私は環境学の講座を主に目的として来ましたが、その他の講座もとても興味深いものばかりでした。
■講座はとても良かったが、マイクの声が少し聞き取りづらかった。
■地域の取り組みや問題だけでなく様々な考え方を学べてよかった。
■環境と動植物の関係のようなテーマに関心を持っています。
■地元に残りたいと思っても実際には残る人が少ないという問題について、生活と仕事を調和させるという難しい選択には政界がなく人それぞれの意思決定であるので、安定を求めるだけでなく様々な視点から見つめるべきだと考えをもった。

■人口減少の対策について、成功例がありましたら、教えていただきたいです。
■グローバルな社会について。
■憲法、政治について。
■ワーク・ライフ・バランスの意味を女性のためだけではないものとして考える必要があり、すべての人が満足できるものとするためには非常に難しいことが分かった。
■シャッター街が増加し、活気がない町が増加しているので、それに対する対策について取り上げて欲しい。（今回、沿岸の話があったので内陸の話も是非）
■法律や経済、環境と様々な分野から地域について考えることができて良かった。これらを使った社会問題の解決に向けて自分は何ができるか考えたいと感じた。
■分かりやすい資料を作成して頂き本当にありがとうございました。
■大学の講義の雰囲気があった。また、1つの分野でも内容がたくさんあり興味がわいた。
■グローバルな視点から地域政策について考えたいです。
■難しいとは思いますが、もう少し白黒をはっきりさせる解答が欲しい。
■最近、何でも横文字で表現するような流れができていて、日本語本来の姿がうすれてきているように思えます。このことについて、今後、取り上げて頂きたいです。
■河合先生の講義について、若者が出ていく理由としては「将来の見通しができないから」とおっしゃっていましたが、私もその通りだと思いました。改善するためにも考える必要があると思いました。
■以前、地元の川の水質調査をした時の事を考えながら講義を聞くことができて良かった。そこから今の課題なども発見できなので考えを深められた。
■身近な地域の問題について良く知れた。
■町おこしを成功させるには、地域政策学科ではどういったことを学ぶのか。
■物価と暮らし。
■法律が本当に環境問題解決に適正しているのか。
■大学の授業を知ることができ進路を考える上でとても良かったです。

【高校生にお聞きします】



○今回の公開講座を受講しようと思った動機をお聞かせください。【何でも自由にお書きください。】

■経済学や社会問題に興味があったから。

■公務員志望だから。

■地域政策に興味があったから。

■将来、公務員になりたいと思い、大学は岩手大学を志望していて、ぜひ参加したいと思ったからです。

■公務員を志望しているから。

■将来就きたい仕事が地域と密接に関わるので、岩手の様々な問題について考えたかった。

■去年も聞いて、おもしろかったので今年度も受講し、考えを深め進路に生かそうと思ったから。

■将来、岩手県で地域づくりに携わる仕事に就きたいと考えているからです。

■人文社会学部を志望しています。地域活性などについて興味があり、調べているからです。

■将来、地域のためにできることをしたいと思ったため。

■地域政策課程の内容に興味があったから。

■進学を規模依しているから。

■地域政策の事について将来関わろうと思っていたから。

■地域の問題を学ぶ数少ない機会だと思ったから。

■志望している学部だったので。

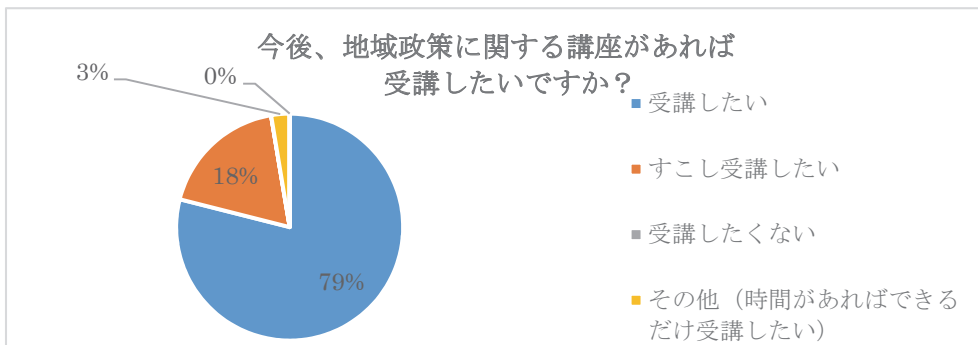
■岩手大学を受験しようと思ったから。

■私自身が地元に残って警官として働きたいので、地域を活発にさせ若者を残していくために“必要なのは何か”を学びたいと思ったから。

■環境化学に興味があったため。

■進路に役立つと考えたため。
■地域政策に興味があり、大学でも学びたいと思っているから。
■法学の分野にとっても興味があつて、岩手大の地域政策課程が、志望の1つに入っているから。
■岩手大学に進学することを希望しているので、岩手大学の講義の雰囲気を知りたかったから。
■岩手大学の人文社会科学部地域政策課程を第一志望としており、講座を通して講義の雰囲気や内容を知ることができると思ったから。
■岩手大学を志望しているから。地域政策に興味があるから。
■地域のためにつくせる人になりたいので、新たな視点や視野を広げたかったからです。
■志望学科が同じだったから。
■岩手大学の地域政策に進学したいと思っているからです。
■地域から課題を見つけていきたいと思ったからです。また、第一志望である大学の雰囲気を感じたかったからです。
■大学の授業の雰囲気を体験してみたかったから。講義内容に興味があったから。（環境化学）
■「地域に貢献したい」と考えたとき、少しでも多く岩手のことを知っておきたいと思ったため。
■地域ごとの課題を知ってその解決策をさがすということに興味があったから。
■進路を考える上でいい経験になるのではないかと考えたから。
■自分が花巻市の人口流出を止めるための予備知識を蓄えるため。
■将来、地域創生についての仕事に就きたいと思っていたので、そのために役立つと思った。
■地域に根づいた職業に就きたいと考えていたため。
■自分の学びたい分野であったため
■岩手大学に入学したいと思っていて、授業を体験してみたかったから。

○今後、地域政策に関する講座があれば受講したいですか？



成果報告書	
記録者氏名：農学部共同獣医学科 木崎 景一郎	
事業名：動物のお医者さんの話～中高生のための獣医学概論～	
目 的 「獣医さん（獣医師）」といえば、動物病院で犬や猫の診察と治療している「動物のお医者さん」というイメージだが、実際には動物医療だけではなく公務員として私たち人の健康を守ったり、企業で薬を開発したりと実に幅広い分野で活動している。今回の講座では、この幅広い動物のお医者さんの仕事、動物看護師さんとの連携も含めた動物医療とはどのようなものなのかを、中高生を主な対象としてわかりやすく紹介する。	
活動実績 開催日時：平成 29 年 7 月 29 日（土）13：00～16:05 開催場所：岩手大学総合教育研究棟（生命系）2 階 “ぽらんホール” 対 象 者：中高校生、一般 募集人数：200 名程度 後援：岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、滝沢市教育委員会、矢巾町教育委員会、（一社）岩手県獣医師会 【講座内容】 犬や猫の病気を治す・獣医さんと看護師さんの連携 ：井口愛子 助教、矢野実季子 動物看護師 牛の病気を治す ：佐々木恒弥 氏（いわて総合動物病院） 牛や豚、鶏の健康を守る ：戸塚知恵 氏（岩手県中央家畜保健衛生所） 人の健康を守る ：阿部太樹 氏（岩手県保健福祉環境部） 研究で社会に貢献する ：山崎朗子 助教 農学部・共同獣医学科では、学科の教育内容を中学生、高校生や一般の方に紹介するために、毎年公開講座を開催している。 7/29（土）に農学部総合教育研究棟（生命系）2 階 “ぽらんホール” で開催した公開講座では、「動物のお医者さんの話～中高生のための獣医学概論～」をテーマに、共同獣医学科と附属動物病院の教員および動物看護師、岩手県庁に勤務する公務員獣医師、岩手県内の産業動物を診療する開業獣医師の計 6 名による講師が上記の内容で講義を行った。多くの	

中高生が参加し、会場がほぼ満席となる約 200 名が講師の話に耳を傾けた。参加者からは多くの質問があった。

なお、今回の講座については、岩手日報（平成 29 年 7 月 30 日朝刊・社会面）で「知ってほしい獣医師の仕事」として取り上げられた。



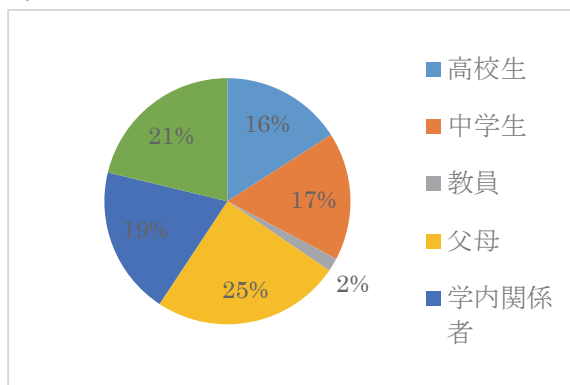
写真 当日の様子

今後の課題

来年度以降の実施にあたり、宣伝方法を検討する必要がある。従来のポスターやチラシを用いた広報だけではなく、SNS 等を利用した広報を積極的に行う必要がある。この点については、地域連携・COC 推進課のサポートを期待したい。

アンケート調査結果（回答数：113 名）

Q1 あなたご自身についてお伺いします。



その他の記述

一般	5 名
大学生	7 名
小学生	3 名
卒業生	2 名
祖母	1 名
地方公務員	1 名
その他	2 名

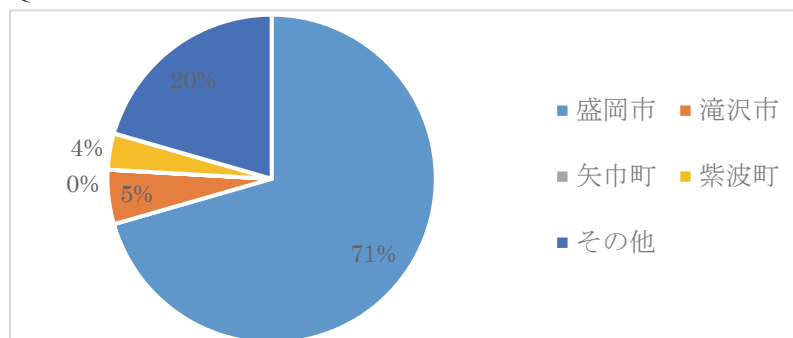
中学生所属校

姥屋敷中（1名）	黒石野中（2名）	玉山中学校（1名）	北陵中（1名）
石鳥谷中（1名）	渋民中（1名）	七北田中（1名）	松園中（1名）
上田中（1名）	城東中（1名）	八戸市立東中（1名）	見前南中（1名）
河南中（1名）	白百合学園中（1名）	花巻北中（1名）	米内中（1名）

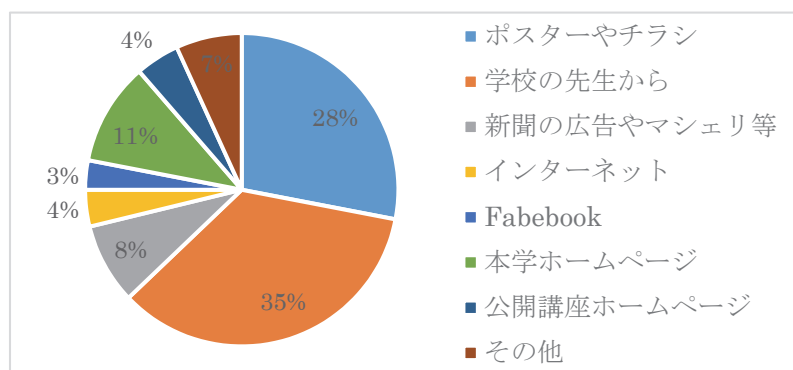
高校生所属校

岩手女子高 （1名）	五所川原高校 （1名）	盛岡三高 （1名）	盛岡四校 （1名）
柏陽高校 （1名）	酒田東高 （1名）	盛岡白百合学園高校 （1名）	山形南高校 （1名）
軽米高校 （1名）	盛岡一高 （6名）	盛岡二校 （1名）	※無回答：2名

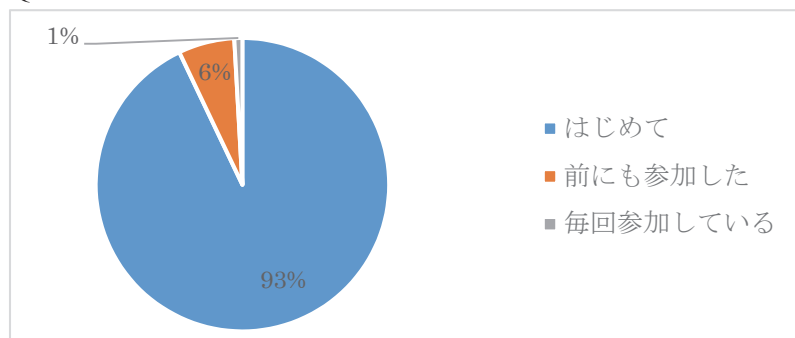
Q2 お住まいの地域を教えてください。



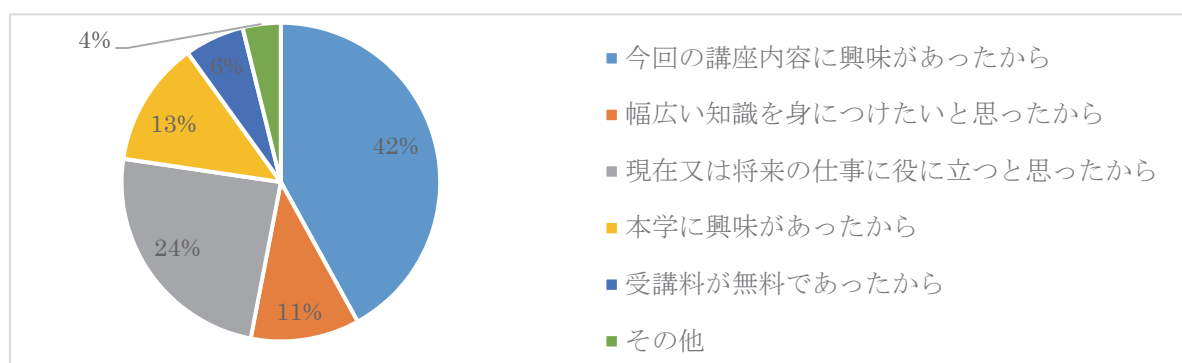
Q3 本日の岩手大学公開講座を何で知りましたか？（複数回答可）



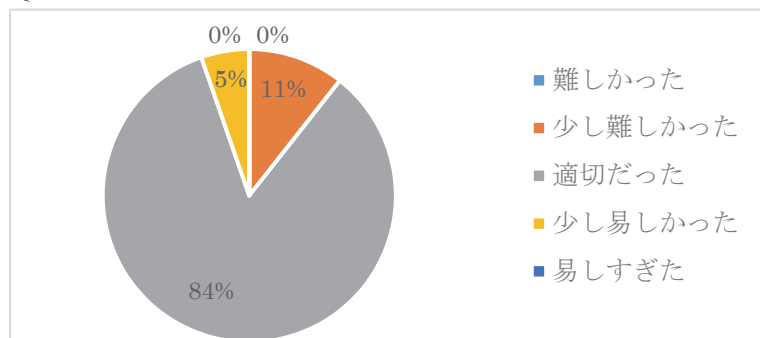
Q4 これまでに本学で開催された公開講座に参加したことがありますか？



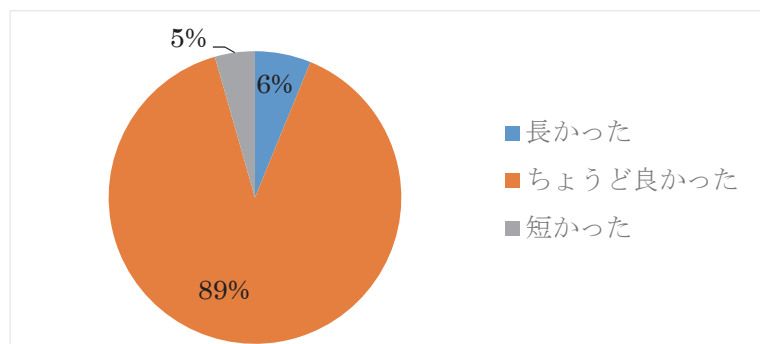
Q5 受講の動機をお聞かせください。（複数回答可）



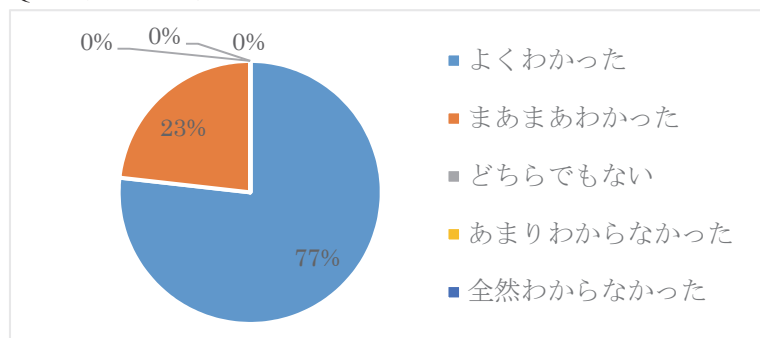
Q6 今回の公開講座の内容についてお聞かせください。



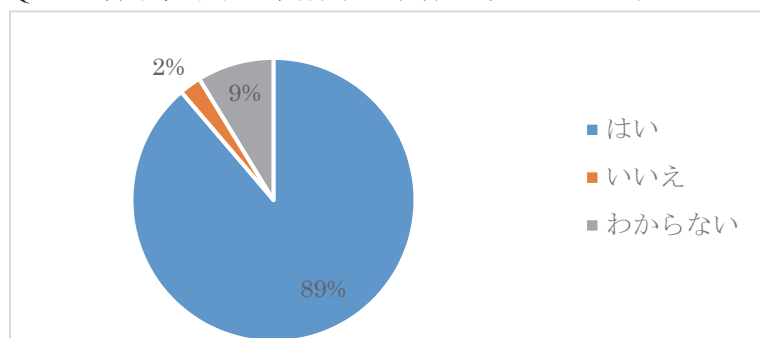
Q7 ひとつひとつの講演時間はどうでしたか？



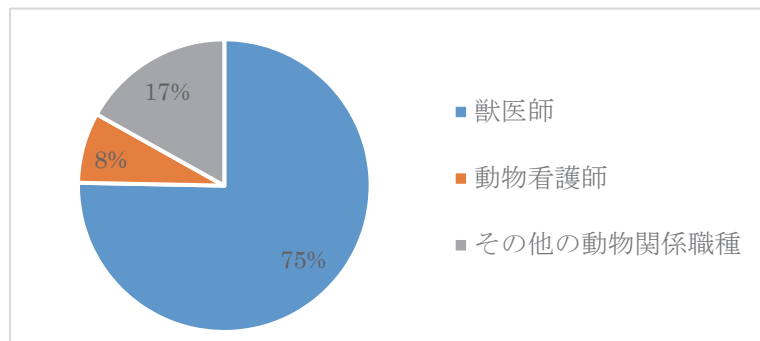
Q8 獣医師の仕事の内容について知ることができましたか？



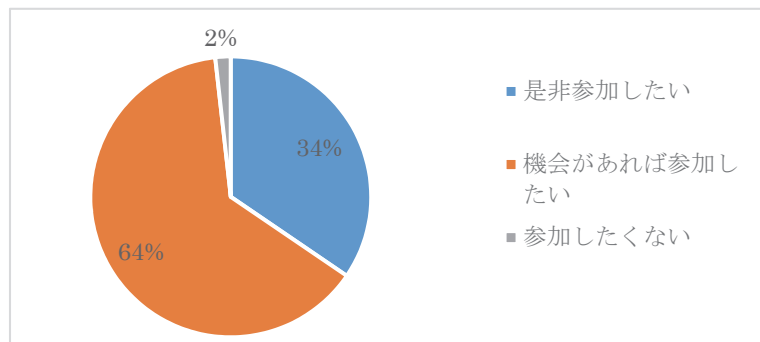
Q9-1 将来、動物に関係する職業に就きたいですか？



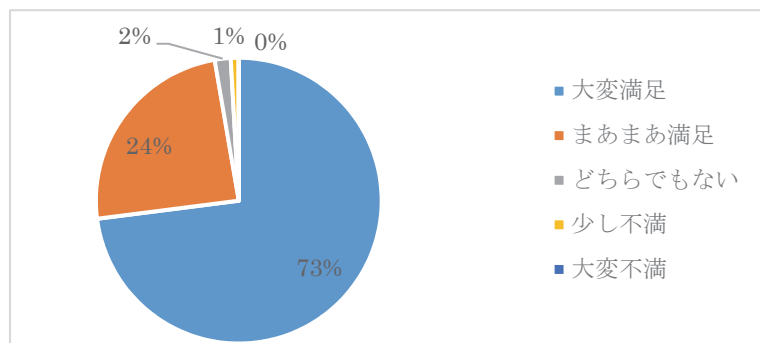
Q9-2 上記で「はい」と答えた方にお聞きします。具体的にはどんな職業でしょう



Q10 本学で開催する公開講座にまた参加してみたいと思いましたか？



Q11 全体として今回の公開講座に満足しましたか？



最後に感想（良かったこと・悪かったこと）、意見や提案、今後聞いてみたい話題など

・「家保」は聞いたことはあったけど、具体的にどんなことをしているのか詳しく知ることができた。現場、ラボ、事務など、やることが多いなと思った。日本の食を支える最前線で、大変な仕事と思う。

・3時間で非常に内容が濃く、良い講演会だった。もっと長く話を聞いていたかった。

・今まで獣医が関わっていないと思っていたことにも関わっていて驚いた。さらに動物や獣医について興味がわいた。

・今までは小動物臨床獣医師になりたいと思い、臨床医を中心に獣医師について調べていたが、今回の講演で、産業動物を診る獣医師や公務員獣医師について詳しく知ることができ、もっと獣医学部に入学したいという思いが強くなりました。機会があれば、また公開講座を受けようと思います。本日は本当にありがとうございました。

・今までよく知らなかった公務員の獣医師の仕事を知ることが出来、自分の将来の選択肢が広がったと感じました。

・岩手大学獣医学部ならではの話等も聞いてみたかったです。

・馬医の仕事なども知りたい。馬に関わる仕事他にどんなのがあるのか知りたい。家畜やペット以外の診察する獣医がいるのか知りたい。

・学生さんのお話しも聞いて見たいです。（大学生活、研究室での生活など）

・加計学園の問題を岩手大の先生方はどう考えているか。是非外部に発信して欲しいです。

・今日は初めて来てみていろいろな事を詳しく覚えられました。自分は犬と猫しか興味なかったのですが、牛や馬も興味がわき、今後も夢のためにいろいろ病院に目を向けて行きたいです。

・具体的で参考になりました。講師の方の紹介ページをもうちょっとフォローするとイメージがふくらむと思いました。

・公衆衛生に興味がわきました。

・今回公開講座に参加してみて、将来就きたい獣医師の仕事に役立てたと思います。

・様々な分野の先生のお話を聞くことができて良かった。パワーポイントの画面調整は前もってやっていただけたとなおよい。

・今回はガイダンス的な内容で、初心者にもわかりやすく、興味の持てるものであった。できれば現段階で行われている研究の発表など、より最先端の内容を、わかりやすく紹介していただくような機会を設定していただけないか。
・佐々木恒弥先生のお人柄がとても素晴らしく、このようなお気持ちや考え方を広くひろめて頂けると獣医師の人手不足もかんわされるのではないかと思います。小学生の娘が将来獣医になりたいと言っており、本日このような機会をいただけてとても参考になったようです。(治療だけではなく、様々な仕事内容があるということなど)
・様々な「獣医師の仕事」をわかりやすく学べる講座で良かった。
・様々な場所で働く獣医師さんのことがわかって自分の将来の幅が広がりました。
・様々な分野の先生のお話を聞くことができて良かった。パワーポイントの画面調整は前もってやっていただけるとなおよい。
・実際に農学部で行う動物や生物に関わることで、中高生が体験できる講座があればぜひ公開してほしいです。
・実際に働いている方からの話や体験をきけて良かったと思いました。また、これからの将来の選択に活かしていきたいと思いました。これから機会があればもう一度参加したいと思いました。
・獣医学について知識が深まりました。ありがとうございました。
・獣医学部 6 年勉強して、県庁等公務員になった場合の給与体系はどうなっているか。マスコミ、新聞等で若干出ていましたが、もっともっと世の中に「待遇改善」を訴えるべきですヨネ。カケ 160 人など、とんでもないと、研究内容も広報すべき。ですヨネと、夢に見ることがあります。大変すばらしいお仕事。誇りをもっておつとめください。有難うございました。
・獣医学部 OB の方（おじいさん）の話がくどかった。先生方の御講義はとてもわかりやすく、参加して良かった。
・獣医学領域の大部分を 3 時間程度でみることができたので大変楽しかったです。
・獣医師ってすばらしい職業ですね。また機会があればもっと知りたいです。
・獣医師といってもさまざまな仕事があることが分かりました。将来は今日のようなさまざまな仕事を見た上で何になりたいか考えてみようと思いました。
・獣医師に対してのイメージに片よりがあったあので、今回の講座を聞いて同じ職業でも様々な仕事があることが分かってよかったです。
・獣医師の仕事が広範囲に渡ることを知り、非常に有意義でした。また先生方の熱意が伝わってきて、参考になりました。
・獣医師の仕事について、いろいろ知れたので、良かったです。将来について考える良いきっかけになりました。
・獣医師の仕事の内容がよくわかった。しりょうよりも分かりやすくてよかった。ここに来る前は獣医のことはまったく興味がなかったけれど、みなさんの話を聞いてみて、少し興味ができました。とてもおもしろかったです。

・獣医師には様々な仕事があることがわかりました。それぞれの仕事内容が具体的に説明されていたので、わかりやすく楽しく話を聞くことができました。同じ家畜を扱っていても、病院で治療する、病気の原因をさぐる、病気の予防、感染症は広まらまいようにすることまで、幅広い仕事内容があるのだと思いました。私は公務員獣医師として保健所で働きたいと思っています。公務員獣医師の仕事は幅が広いので、今回、その仕事について聞けたこと、それに加えて他の仕事についても聞くことができ、とてもためになりました。特に、動物愛護の話がきけてよかったです。

・獣医師の仕事について、より深く知ることが出来ました。伴侶動物を対象とする獣医師だけではなく色々な獣医師について知ることが出来ました。

・獣医師の仕事について従事者からのお話が聞くことができとても良い機会でした。

・獣医師の仕事には、ただペットや動物の病気を治すことだけではなく、裏でも病気を流行させないための研究などもしていることを知って、幅広いところで動物を守ったり、そこから人への被害を防いだりしているんだと、獣医の大切さを学ぶことができました。将来の夢に向かって、参考にしたいと思います。お話もわかりやすかったです！ありがとうございました。

・獣医師の仕事の内容が多方面において広く活躍しているということを知りました。ありがとうございました。

・獣医師の人がどんなことをしているか等は少し知っていたけれど、ミツバチの管理をしていることや、どんな研究をしているかなどを知ることができました。今後、もっと知りたいことやぎもんがでてくると思うので、また機会があったら参加したいです。ありがとうございました。

・獣医師は様々な仕事があることは知っていたけど、内容まではあまり知らなかったもので、今回知ることができてよかったです。ありがとうございました。

・獣医師は楽しく、やりがいのある仕事だと分かった。たくさん研究していることが分かった。

・獣医師は動物を見ることの他にも薬についてだったり、研究だったりもあることがわかりました。とても勉強になりました。

・獣医師を目指している娘につき合って参加しましたが、いろいろな分野で活躍している「獣医」という職業について深く学ぶことができました。素晴らしい先生方の話を聞けました。「岩手大学」を目指している子どもを全力で応援していこうと思ういい機会になりました。ありがとうございました。

・将来について具体的に知ることができた。まだ全然知らないことがあったので、もっと調べたいと思った。先生方のすばらしいお話、分かりやすかったです！！

・獣医師や動物看護師の仕事の様子について学ぶことができて良かったとは思いますが、「獣医学概論」とは少し違うような気がした。中高生向けなので、「こんな仕事をするんだ！」と理解してもらうことも大切ではあるが、冒頭で佐藤先生がおっしゃったように、「獣医学の歴史、社会的責任、求められるもの、動物のお医者さんであるだけではないこと」に注目して、臨床医に関する責任なども少し講義してほしい。佐々木先生のお話にもあった通り、獣医は人との関りも重要なんだと思いました。私も動物と人の両方に感謝されるような獣医師になりたい。

・獣医によって、仕事はちがっても、社会における役割は共通しているものがあって、動物を通じて人のために、社会のために役立っている仕事なんだと思いました。佐々木先生をはじめ、すべての先生が自分の仕事が好きで、誇りをもっていることが伝わりました。
・獣医の仕事の幅広さ奥行きを感じた。
・獣医は単純に一つの仕事だと思っていたが、その獣医が働いている裏で支えている仕事一つ一つをすることができ、とてもよかった。また、最後の話で獣医がえき病を解けつしたという話で、獣医でも、そのようなことができるのだとわかれてよかった。
・小動物・産業動物の臨床などのメジャーな獣医に役割だけでなく、あまり知られていない役割、また、その役割が社会に与える影響をしっかりと話して下さったことがよかったと思う。
・小動物だけでなく産業動物に関する講義が多く、普段あまり目にすることのない産業動物獣医師の仕事について学ぶことができて有意義な時間でした。ありがとうございました。
・すごく楽しかったです。ますます動物に関係する職業につきたくなった。(産業動物獣医師が1番気になっている) 分かりやすい説明ありがとうございました。実際に動物とふれ合いたい!! ※かなり寒かったです。
・スライド画面サイズは事前に調整しておいてほしい。講義中画面がトラブったり、席の間や演台のところで人が動くのが気になった。各講師のスライド資料がほしかった。一学部生かな？経験者？の質問でしょうが、専門的な質問はちょっと・・・。中高生のための一とあるので、調整かけてほしかった。不快。クーラーが寒い。外気温が30度ないのに、こんなにクーラーかける必要があるのか。室温設定が低すぎるのでは。
・先生方が大変お話が上手で本当に楽しかったです。娘のつきそいで来たのに、「こんなに知らないことがあったとは!!」と感銘を受けたことばかりでした。来て良かったです。娘が獣医師になって社会に貢献できればうれしいです。
・先生方1人ひとりのお話がとても良かったです。
・動物看護師について、この機会ですべて良かった。研究によって社会に貢献できるので、このような研究にもたずさわってみたいと思った。
・動物に関わる様々なお仕事についてのお話を聞くことができ、とても有意義な時間でした。獣医と言っても動物の病気を診るだけではないことがよくわかりました。遠かったのに、本日の参加を迷いましたが、受講できて本当に良かったと思いました。帰り方も親切に教えていただき、ありがとうございました。
・動物を通し人の病気の研究ができる事を子供が理解できて良かったと思う。
・とても良い機会になりました。娘が夢としている職業についての話を、親である私も聞けて、これからも娘の夢を応援しようと改めて思いました。
・とてもわかりやすいお話で、子供もわかりやすくて良かったと思いました。獣医を目指す子供も色々な選択肢が分かって参考になったようです。
・日本における産業動物獣医師の必要性、牛(肉・牛乳)・豚(肉)・鶏(肉・卵)が消費者に届くまで、岩手県のブランド(銘柄)は何があるか？

・初めて参加したけど、どの話もわかりやすかったです。獣医師さんの仕事もよく分かりました。今まで、動物を治すだけかと思っていたけど、治すだけではなく、予防したり、研究したりするのも仕事の一部だということがわかりました。
・普段あまり目にすることがない獣医師の仕事を見せていただいて、大変良かったと思います。
・ペット、産業動物、どちらの獣医師の方々の話が聞けて、とても有意義でした。
・また参加します。
・また人医言うところの基礎研究の部分（職域等含め）がよくわかりました。
・難しい言葉もたくさん出てきたけれど、こまかく説明してくれたのすごく分かりやすかったです。今日の講座で学んだことを将来に生かせるといいなと思いました。
・娘に同行して参加しました。獣医学概論にふさわしく、それをとてもわかりやすく説明して頂き、とてもよく理解できました。娘の獣医師に対する見方も深まったと思います。また先生方みなさん、ご自身の仕事に“ほこり”を持ってとりくんでいる姿勢を強く感じられました。娘がそれをどう受け止めるのか楽しみです。
・若い先生の話は、子供にとって分かりやすく、身近に感じられたようで良かったです。「動物に関わる」と言っても、まだまだ知らない分野や、仕事がたくさんあることが分かりました。子供（中学生）がこのような話を聞けて、大変意味のあることと思いました。本当に連れてきてよかったです。講座や体験があれば、また来たいと思いました。獣医ってすごい。
・わかりやすく、もっと知りたいと思った。
・私はV卒業生で弘前大学、弘前医療福祉大で40年教員・研究していました。昔の卒業生ですので、今どのような内容の講義等をしているか知りたく参加。当然、高校生レベルと思いますが、それでよろしいです。できれば大学（岩大）と共同研究をととも考えておりますので。
・私は幼い頃から動物が好きで、それが理由で動物医学の分野を志すようになり、興味があつて来てみましたが、やはり、動物たちだけでなく、人の社会も通して、2つの物を見守れるこの仕事は素敵だなと再認識できて、良い経験になりました。
・私は獣医になりたいので、とても、本日の講座はおもしろかったです。

成果報告書

記録者氏名：人文社会科学部人間文化課程 栗林 徹

事業名：岩大スポーツアカデミー 2017 少年少女のためのバスケットボール

目 的

現代生活の中におけるスポーツは、心身の健康や生きがいのため、あるいは余暇活動や観戦の楽しみなど様々な面で重要な位置を占めています。とりわけ、生涯スポーツの観点からその意義はさらに高くなってきています。しかしながら現実には、スポーツの専門の指導者に手軽に指導を受けたり、スポーツの指導方法を学んだりする機会は、極めて少ないのが現状です。そのため本講座では、バスケットボールを愛し、学びたい少年少女に対し、レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、バスケットボールの楽しく学習することを目的とします。

活動実績日程

8 月 2 日（水） 17：00～18：00

8 月 3 日（木） 16：00～18：00

8 月 4 日（金） 16：00～18：00

参加者

小学校 4 年生から 6 年生の男女 18 名。

参加者の内訳

	男子	女子	計
4 年生	4	2	6
5 年生	4	3	7
6 年生	3	2	5
計	11	7	18

活動内容

3 日間とも、4 年男女、5・6 年女子、5・6 年男子の 3 グループに分かれ、それぞれの技術・体力に応じ、補助学生（バスケットボール部員）とともに楽しく活動をおこなった。



第 1 日目 テーマ 1：「みんなと仲間になろう！ ボールとも仲良く！」

テーマ2：「ゲームをしよう」

鬼ごっこ、ボール・ハンドリング、シュート練習、ハーフ・コート・ゲームを練習した。

大学生と一緒に楽しく活動できたという感想が聞かれた。



第2日目 テーマ：「ボールを運び、得意なシュートを決めよう」

ボール鬼、ボール・ハンドリング、ボール・キャッチ、ボディーコントロール、シュート練習、2対1の練習のあと、4年男女と5・6年女子はハーフ・コート・ゲーム（4on4）、5・6年男子はオールコートゲーム（4on4）をおこなった。みんな積極的なプレーを見せいていた。

第3日目 テーマ：「オール・コートの攻撃を工夫しよう」

鬼ごっこ、1on1の基礎（ボールキープ：ピボット、ドリブル）、ランニング・シュート練習、シュート練習のあと、フォーメーションゲームをおこない、最後にまとめとしてオールコートゲームをおこなった。

初日にはシュートがうまくできない子も、ゲームでシュートを決めることができていた。

3日間の活動を学生とともに楽しく活動することができ、技術の向上が見られた。

今後の課題

例年より開催時期が1週間遅くなったことが影響したのか、参加者が少なかった。今後は広報に力をいれ、多くの小学生にバスケットボールの楽しさを普及したい。

成果報告書
記録者氏名：教育学部 保険体育科 鎌田安久
事業名：コーチのためのサッカーC
目的 スポーツの専門教育を受けた指導者は少ない現状の中、本講座は、サッカーの指導とりわけ小学生の指導に携わろうという方に対して、サッカーの技術・指導法・その他サッカーに関する幅広い情報を提供し、指導力向上を目指して開講するものです。なお、講座の受講対象者としては、少年サッカークラブチームの指導者はもとより保護者の方々、またサッカーの指導に関わる学校関係者の受講も歓迎いたします。また、本講座を修了・資格検定審査に合格し所定の手続きを経た方には、岩手県サッカー協会と共催し、(公財)日本サッカー協会公認「C 級サッカーコーチ」の資格を与えるものとします。
活動実績 受講者 男性 17 名 平均年齢 38 歳 最年少 20 歳 最高齢 60 歳 住所；久慈市 釜石市 大船渡市 滝沢市 北上市 奥州市 一関市 盛岡市 8 月 5 日（土）9：00～18：00 開講式 講義①ガイダンス 講義②技術戦術 I 実技①② 8 月 6 日（日）9：00～18：00 講義③GK 指導 講義④⑤技術戦術理論 II III 講義⑥発育発達 I 実技③④ 8 月 19 日（土）9：00～18：00 講義⑦⑧コーチング法 I II 講義⑨メディカル 実践ガイダンス 8 月 20 日（日）9：00～17：00 実技⑦ 講義⑩指導者の役割 I 指導の実践 1 回目 8 月 26 日（土）9：00～18：00 講義⑪指導者の役割 II 講義⑫審判 実技⑧⑨ 8 月 27 日（日）9：00～18：00 実技⑩ 講義⑬実技まとめ

講義⑭指導実践ガイダンス

筆記試験

9月 2日(土) 9:00～16:00

指導の実践2回目

実践振り返り

閉講式

悪天候の際にグラウンド条件が悪く、実技講習には厳しい時もあったが、何とか所定のプログラムを全て実施し、受講生の指導者としての資質をあげることができ、加えて JFA 公認資格も全員が取得することができた。



今後の課題

屋外の実技の際、靴を履きかえたり、荷物をおいたりする場所、更衣室やシャワー室、また雷雨の際の避難場所等、実技講習会を開催するには、研修施設として課題が多い。

成果報告書

記録者氏名：農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演習林 麻生臣太郎 澤口勇雄

事業名：フィールドセミナー秋の植物観察会ー

目的

滝沢演習林にて初秋を迎えた樹木、草本の観察を通じ、一般社会人・児童向けの環境教育を行う。

活動実績

日時：平成 29 年 10 月 1 日（日）10:00～12:30

場所：滝沢演習林

講師：伊藤 勲 氏

参加人数：19 名（大人 16 名、児童 3 名）

滝沢演習林で年 4 回開催されるフィールドセミナーの今年度第 2 回目となる秋の植物観察会が伊藤勲氏を講師として 10 月 1 日に行われた。当日は快晴となり暖かい天候となった。

本観察会は不抜の森を抜け、林班界沿いに 8 林班の土場まで回ったのち、演習林事務所までの林道沿いを辿るコースにて行われた。今年はコース上で観察できる実が比較的少なかったため、事前に採取したアケビやマタタビ、サルナシの実などを出発前に見比べる等



の工夫が伊藤氏によってなされ、参加者を盛り上げた。観察コースではハナイカダ、ミヤマガマズミ、ツリバナ、マムシグサのほか、ハタケシメジなどのキノコも見つけることができた。伊藤氏からは植物の和名と方言での呼び名の由来などが説明された。また各樹木の木材としての用途や食用になる果実などが分かり易く解説され、参加者の関心を集めた。今回初参加の方にも植物に詳しい方や植物への関心の高い方が多く、今後も継続的に参加を希望されており、好感触のセミナーとなった。

成果報告書

記録者氏名：農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 山本信次

事業名：哲学者 内山 節氏を迎えての第12回「哲学の森」

目 的

哲学者 内山 節 氏をお迎えし、森の中でこれからの社会や地域づくりのあり方などについて講演頂くとともに、森林散策・意見交換の機会を設け、これからの社会のあり方や自然と人間の関係等について様々に考える場を提供する。

活動実績

今年の「哲学の森」では内山氏より「国家が意味を失っていく時代に」、「現代世界と上野村の伝統回帰」、「私たちはどこに根を張ったらよいのか」の三つをテーマにお話を頂いた。

話の内容をごく大まかにまとめれば近代化の中で巨大システムとしての「国家」の限界を見定めつつ、地域ごとに異なる風土に規定された伝統への回帰が始まりつつあること、その上で私たちは近代社会の寄る辺のなさを乗り越えるために地域に根ざして生きていくことを重視すべきというお話であった。これらをもとに活発な議論が行われ、岩手の風土の表れとしての森や自然について、それぞれの暮らす地域社会をどうすべきか、その地域社会において私たちはこれからどう生きるべきかなどについて、それぞれが思いを深められたように感じられる。

二日目の朝には、演習林を散策しつつ、岩手の自然や風土についてあらためて確認し、さらに議論を深めることができた。



今後の課題

今回は多くの参加者を得ると同時に、車イスご利用の方や視覚に障害をお持ちの方などの参加も得ることができた。

全ての方に開かれた学びの場として利用して頂けるよう、事前の相談を密に行い、当日の対応にも細心の注意をはらった。

結果として、そうした参加者の皆さまからも好評を得ることができた。

今後も障害をお持ちの方を含め、多様な参加者をお迎えできるよう心がけるとともに、機会あるごとに施設のバリアフリー化なども進めていきたい。

成果報告書
記録者氏名：渡邊篤，菅原大輔，澤口勇雄
事業名：ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森
目 的 秋の森の中、親子で取り組むウォッチングビンゴを通して、動植物についての発見や魅力を体感・再認識し、自然への理解を深めると共に、演習林、岩手大学のへの親しみを市民の方々に持ってもらおう。
活動実績 平成 29 年 11 月 12 日（日） 場所：滝沢演習林 講師：浅沼 晟吾氏 スタッフ：渡邊 篤，菅原 大輔，澤口 勇雄 参加人数：21 名（大人 10 名、子供 11 名） 前日は雨模様であったが、当日には曇り空から晴れ間が見える落ち着いた天候となった。参加者は 3 名の欠席があった一方で、当日参加が 3 名あり、参加人数は 21 人となった。 観察コースは事務所から離れた広葉樹見本林を歩くコースであったため、演習林の車両 2 台を駆使して現地まで移動した。コースは滝沢市道の沿いのゲートから広葉樹見本林に入り、四十四田ダム方面へ林道を歩いて演習林と国土交通省との境界沿いを歩いた後、林内を抜けて林道に戻るコースである。 始めのイントロダクションでは、演習林内で見つけた動植物を書き込んでビンゴを行う「ウォッチングビンゴ」の説明や、活動を通して「私の特別」を何か見つけることなどがアナウンスされた。 道中に発見されるものは、サルトリイバラやムラサキシキブ、ミヤマガマズミ等の色とりどりの木の実から始まり、風に乗って散布されるシンジュの種や、「へ」の字に見えるシラカバの枝痕、顔に見えるクズの葉痕といった植物を中心として、さらにムササビの巣穴や毛羽立った止まり木、リスの食痕やキツツキの巣穴、トビの巣などの動物の気配が感じられるもので、バリエーションに富んだものであった。 観察中は子供たちの「ちょっと見て！これ何だろう？」といった声がいっぱいで、子どもたちは自然についての興味や新たな発見を体感していた。一方で、大人たちは動植物への新たな知識に感心する様子が印象的な観察会であった。 今回参加された方々に話を聞くと、配布された「チラシ」を見て応募した方々が多く、全員初めて参加される方々であった。遠くは県南からいらした方も、親子ともども満足して

いたようで、けがも無く、わきあいあいとしたフィールドセミナーであった。

今後の課題

野外での休憩の際に女性の参加者の方々はトイレが大変そうであった。開始時のアナウンスでも予めトイレに行くようにと促しているものの、特に子どもたちは難しいようであった。トイレトペーパーをスタッフが持っていく等の対応が次回以降は必要かと思われる。



成果報告書

記録者氏名：理工学部科学・生命理工学科 荒木 功人

事業名：公開講座「ニワトリ胚への遺伝子導入」

目的

- 1) 遺伝子導入実験を通じて生命科学分野に関する社会の理解がより深まるようにする。
- 2) 地域の科学に関する関心を高める。
- 3) 学部、大学院の志願者の増加を狙う。

活動実績

参加定員 6 名に対し、5 名の申込みがあった。内訳は、4 名の高校生、1 名の社会人（高等学校副校長）であった。以下のようなスケジュールで実施した。

1 日目 [12 月 16 日 (土)] (随時休憩)

10:00-10:15 オリエンテーション

10:15-11:00 講義「発生生物学の歴史、鳥類の初期発生」

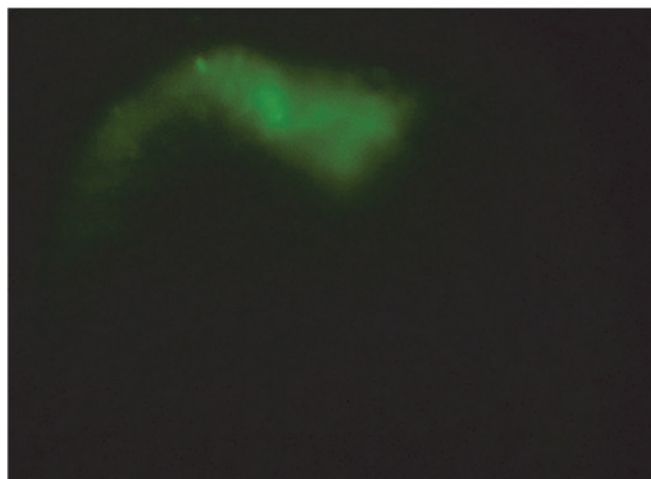
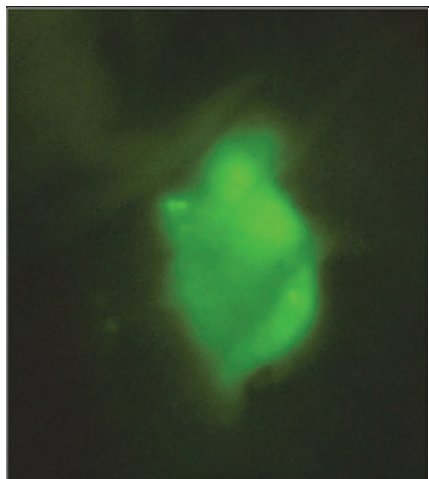
11:00-11:15 講義「組換え生物等実験について」

11:15-12:00 昼食、休憩

12:00-16:00 実験【正常胚の観察と胚操作、遺伝子導入】

2 日目 [12 月 17 日 (日)] (随時休憩)

10:00-12:00 遺伝子導入胚の観察・写真撮影



ニワトリ初期胚の脳への遺伝子導入により発現した Venus タンパク質

今後の課題

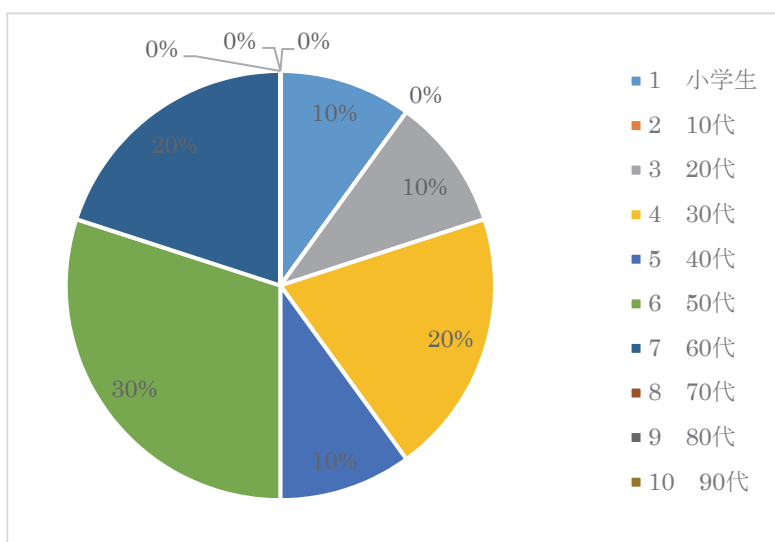
・社会人の参加も、もう少し増えて欲しいので、それが実現するような広報活動が必要。チラシを（親が）見て参加（を勧められて参加）したのは高校生 1 名のみ。残りの参加者のうち 3 名（高校教員を含む）は理科教員メーリングリストを用いた広報により、もう一人の高校生は友人（親が参加を勧めた）に誘われて参加。

成果報告書	
記録者氏名：川口明子	
事業名：公開講座 インドネシアの音楽と舞踊ーガムラン体験&レクチャー・デモンストレーション	
目 的 インドネシアの音楽と舞踊を体験も交えて紹介し、大人から子供まで広く一般市民に親しんで頂く。 特に小中学校の先生方の参加も歓迎し、音楽科教育はもちろん、国際理解教育や総合学習にも役立て頂き、岩手の教育にも地域貢献する。	
活動実績 ・実施日：2018 年 1 月 21 日（日） ・第 1 部 13:00～14:30 ガムラン・ドゥグンやアングルンの体験（歌と楽器） インドネシア・スンダ（西ジャワ）の打楽器合奏ガムラン・ドゥグンの楽器（ゴング類や鉄琴のような鍵盤打楽器、竹笛、太鼓など）や竹楽器のアングルンを体験し、インドネシアの歌や文化にも親しむワークショップを行った。 ・第 2 部 15:00～16:30 インドネシアの音楽と舞踊レクチャー・デモンストレーション 西ジャワのガムラン・ドゥグン、古典歌曲のトゥンバン・スンダの 2 種の伝統音楽とインドネシアの舞踊を生で鑑賞し、最後に衣装の紹介と舞踊の体験も行い、身体で学び、楽しむ活動を行った。 ・講師 川口明子（岩手大学教育学部音楽教育科教授） 村上圭子（ガムラン演奏家 NPO 法人日本ガムラン音楽振興会代表） アユ・イスカンドル・阿部（インドネシア舞踊家 サンガル・アユ主宰） ＊この他に学生の助演・補助指導もあり ・参加者 15 名 実施後のアンケートからも、「体験も含めてインドネシアの多様な音楽文化を味わえた」と大変好評であった。なおアンケートの詳細は別紙資料を参照されたい。	
今後の課題にかえて：今年度までの実施概要 H22(2010)～H29(2017)年度と経緯 平成 22 年度から「インドネシアの合奏音楽：ガムラン体験講座」（無料講座）として、講師に川口の他にガムラン専門家村上圭子氏を迎え、年 2 回ずつインドネシアの音楽（ガムラン、アングルン、歌）のワークショップの形で実施し、回を重ねる毎にリピーターも増え、参加者も多いときは 30～40 人にもなり、好評を博してきた。平成 26 年度からは、講師に盛岡在住のインドネシア舞踊家アユ・イスカンドル・阿部氏も迎え、「インドネシアの音楽と舞踊：ガムラン体験&レクチャー・デモンストレーション」として年 1 回、第 1 部	

はガムラン体験、第2部はインドネシア音楽と舞踊の鑑賞を中心に、2部構成で実施してきた。子どもから大人まで様々な世代の参加者が共に異文化の音楽文化に親しむ場として、成果を挙げてきた。しかし、平成27年度からの有料化に伴い、親子での参加や、年金世代の高齢者の参加者が減少。また、諸事情により継続が困難となったため、平成29年度を最後に閉講することとなった。

アンケート調査（回答者：10名）

●参加者年代内訳



●本日のガムラン&アングルン等の体験について、ご感想をお書き下さい。

（新しい発見や興味深い点などご自由にどうぞ）

◇インドネシア語の歌<ノナ・マニス>

・気分よく歌えました。（30代・男性）

・“ノナマニサパヤンパーニャ”とカタカナで覚えていましたが、発音もわかって良かった。（60代・不明）

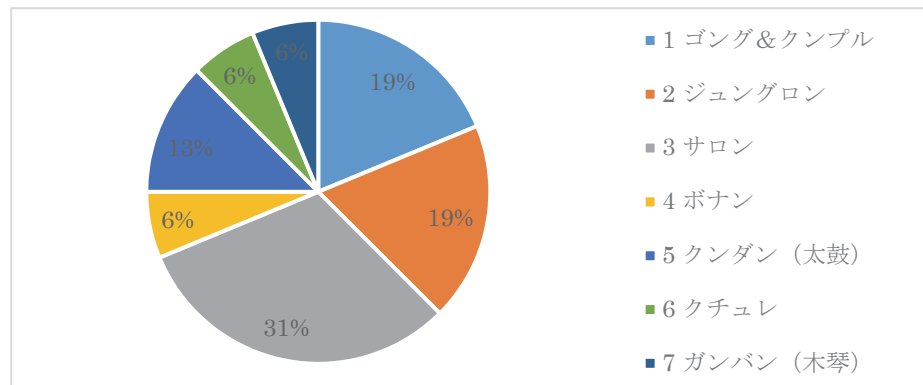
◇竹の楽器アングルン

・以前持っていました。大きなものは音が素晴らしいですね。（50代・女性）

・メロディーみただけでなく伴奏もアングルンでやったので、とてもきれいですね。（皆での合奏）（50代・女性）

ハンドベルみたいでおもしろいと思った。鳴らし方も独特。木琴のトレモロより簡単？（60代・不明）

◇ガムラン・ドゥグンの打楽器（体験した楽器に○をつけて、一言感想をどうぞ）



・楽しかったです。（30代・男性）

・クンダンがいちばんむずかしかった。（50代・女性）

・1～5音のパターンを覚えて演奏でき、楽しかったです。ボナンをやってみたかったですが、少し難しそうなのでやりませんでした。みんなで合奏して、後半に他の音を聞きながら演奏できました。太鼓の音がもう少し強ければ合わせやすいかな？と思いました。（50代・女性）

・音がとても良かった。リズムが難しかったです。（20代・不明）

◇ガムラン・ドゥグンの竹笛スリン

・穴が4つで使わない指で笛を支えないとダメだと分かりました。音も出やすく吹きやすいです。（50代・女性）

・軽くて造りもシンプル。（60代・不明）

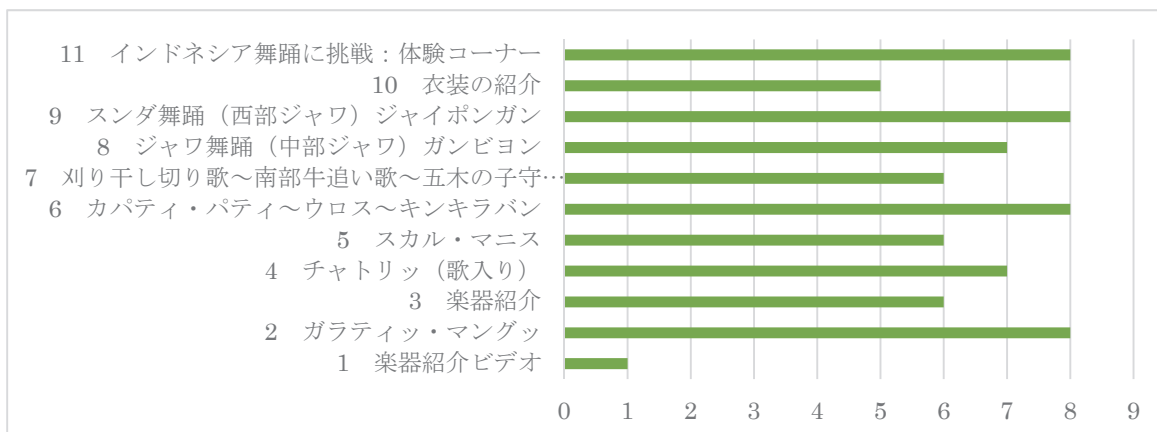
◇その他ご自由に

ボナンの演奏ができたことがすごくうれしかったです。学生の皆さんがやさしく教えて下さり、とても楽しく体験できました。ありがとうございました。（50代・女性）

どれも興味深かったです。（50代・不明）

楽器は装飾がすごいですが、音を出すところはシンプル。楽器は大がかり。音色ははかなげな感じ。天上の音？（60代・不明）

●本日のデモンストレーションの演奏曲目の中で、印象に残ったものは何ですか？



●鑑賞＆解説で興味深かった点など、ご自由にご感想をお書き下さい。

・バリは行ったことがあったのですが、島ごとにこんなに違うとは思わなかったもので、興味深かったです。（30代・女性）

・ノスタルジーを感じるのがふしぎですね。（30代・男性）

・楽器、舞踊、衣装などの説明がよくわかりました。（50代・女性）

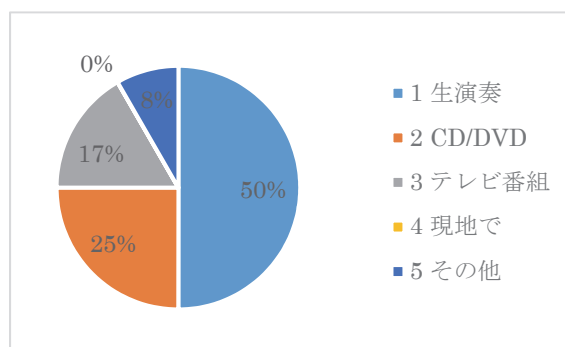
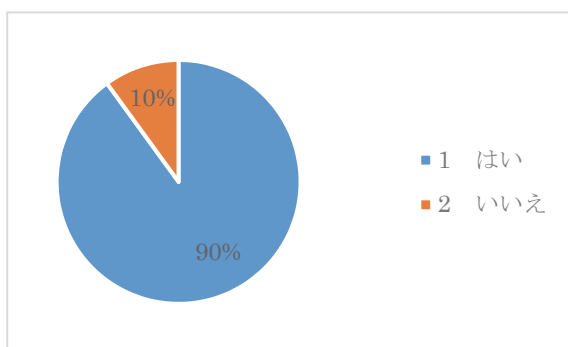
・ガムランってこういうものなんだと分かりました。1つの楽器だと思っていた。（50代・不明）

・日本の音階、琉球の音階ともつながるような音楽もあるとお聞きし、音楽を拝聴した。話にありましたようにどこかでつながっている、といった感覚を強くもちました。素晴らしい演奏と舞踊をありがとうございました。とても楽しかったですし、勉強になりました。とてもよい経験ができました。（40代・男性）

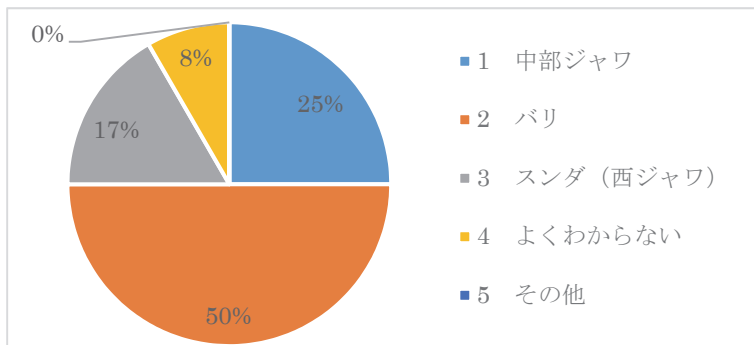
・川口先生の琴の演奏が素晴らしいと思った。舞踊より歌舞伎とか盆踊りとも関係があるのかなと思った。（60代・不明）

・いやされる音色、舞踊の指の動きの表現などなど・・・何度見ても聞いても素晴らしいです。舞踊体験コーナー楽しかったです。（60代・女性）

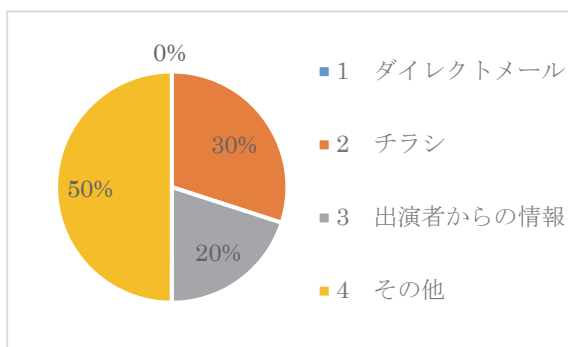
●今回の前にガムランを聴いたことはありますか？ ◇何で聴いたか



●上記の質問で「はい」と答えた方は、どの地方のガムランを聴きましたか？



●今回の講座をどこでお知りになりましたか？



◇「その他」の記述

・岩大 Facebook (2 名)
・一関のガムラン公演で
・大学ホームページ
・川口先生よりお知らせをいただきました。

成果報告書
記録者氏名：上濱龍也
事業名：少年少女の陸上競技
目的 陸上競技を愛し、学びたい少年・少女に対して、基本技能の習得と冬季トレーニングなどについて、レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、資質の向上を目指し開講するものである。 なお、講座の対象者には、学校やクラブ団体の組織の枠をこえ県内全域から広く参加を募る。また、岩手県小学校体育研究会の陸上指導者の講習会を兼ねて実施する。
活動実績 下記日程・内容にて実施した。 1月27日（土）：陸上運動に親しむための体ほぐしの運動、短距離走の基本的な動きづくり、跳運動と走り幅跳びの基本的な動きづくり 2月 3日（土）：陸上運動に親しむための体ほぐしの運動、障害走の基本的な動きづくり、走力を高めるための体づくり運動 2月17日（日）：陸上運動に親しむための体ほぐしの運動、投動作の基本的な動きづくり、用具を使った走動作のための動きづくり 県内の小学校教員のほか小学校教員を目指している学生の補助により実施した。 参加した小学生は、申し込み人数は100名を超え、参加した実数は70～90名の小学生が県内全域から参加した。 指導者は岩手県小学校体育研究会の中心となる現職の教員で、3回とも5名程度の指導者講習会参加の先生方も加わり、充実した講座となった。 今後の課題 今年度は、降雪量も多く、また、インフルエンザも猛威を振るったために各回の参加小学生が申し込み数より少なくなってしまった。計画的に対処していくことは難しいところであるが、検討課題となる。

成果報告書
記録者氏名：農学部 寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 山本信次
事業名：かんじきをはいて冬の森を歩こう
目的 本センターでは、毎年冬の演習林散策と自然の観察「かんじきをはいて冬の森を歩こう」を開催している。本年度も、かんじきを履いて冬季の滝沢演習林を散策し、自然観察・アニマルトラッキングなどを行い、冬の森林と親しむことを通して、森林保全に関わる理解の深化を図るものである。
活動実績 当日は好天に恵まれ、また前日までは降雪も多くかんじきを使用しての林内散策には好適な一日となり、参加者 23 人を迎え、にぎやかに開催された。 参加者は一般、親子連れ、海外からの参加者など多様であったことを踏まえ、前述の三つにグルーピングし、参加者の特性に合わせ理解が深まるよう配慮した。 参加者の多くは初めてのかんじき体験を楽しみつつ、それぞれ動物の足跡の見分け方や植物の同定、林業作業についての解説などに聞き入り、冬の森を満喫していた。 二つのグループでは白い保護色となったトウホクノウサギにも出会うことができ、喜びもひとしおとなった。 次年度も参加したいとの声も多く上がり、好評のうちに終了した。
今後の課題 今年度は雪が多く演習林に到達するまでのルートの除雪に労力がかかり、午後からの開催であっても午前中からの準備が不可欠なことが再確認された。 写真掲載の許諾を得ることを失念し、報告書に添付できなかったので次年度は確実にアナウンスしたい。 外国人の参加者に多くおいで頂いたので、今後は英語での解説や案内のレベルアップを図ることが必要である。

成果報告書

記録者氏名：鎌田安久

事業名：岩手大学スポーツユニオン主催 コーチのためのサッカーD

目的

近年、サッカーの普及には眼を見張るものがあるが、サッカーの専門教育を受けた指導者は少ないのが現状である。そのため本講座は、小学生年代の指導に携わろうという方や理解を深めたいという方に対して、サッカーの技術、指導法に関する基礎的情報を提供し、指導力向上を目指して開講するものである。なお、講座の受講対象者には、（公財）日本サッカー協会第4種加盟登録団体（チーム）の指導者はもとより、サッカーの指導に関わる学校関係者や保護者の受講も歓迎する。また、本講座を修了・資格検定審査に合格し、所定の手続きを経た方には岩手県サッカー協会と共催し（公財）日本サッカー協会公認「D級コーチ」の資格を与えるものとする。

活動実績

受講者：男性 15 名 平均年齢 35 歳 最年少 23 歳 最高齢 47 歳

住 所：久慈市 大船渡市 遠野市 北上市 奥州市 一関市 滝沢市 盛岡市

会場：教育学部 教育系棟 E22 教室 第一体育館

2 月 3 日（土）9：00～17：30

9：00～9：45 コースガイダンス

10：00～10：45 講義「発育発達と育成の全体像」

11：00～12：30 講義「コーチング法」

13：30～14：30 実技①「ゲーム」

14：45～15：45 実技②「テクニック」

16：30～17：30 講義「審判とルール」



2 月 4 日（日）9：00～18：30

9：00～9：30 講義「実技の振り返り①②」

9：30～10：15 講義「メディカルの知識」

10：30～11：30 講義「大人の関わり」

13：00～14：30 実技③「サンプル①②」

14：45～15：45 実技④「シュート」

16：15～16：45 講義「実技の振り返り③④」

17：00～17：30 筆記試験

18：00～18：30 修了ガイダンス

積雪も多く特に実技時には気温の低い環境ではあったが、県内遠方より多数参加していただき、熱心に受講していただいた。所定の公認カリキュラムも全て実施し、受講生のサッカー指導者としての理解を深めることができ、加えて JFA 公認資格を全員が取得することができた。

今後の課題

体育施設として 暖房など冬季の使用に適した環境整備が必要である。

成果報告書	
記録者氏名：教育学部 藤井知弘（教授）	
事業名：テーマ 新学習指導要領に基づく実践への展望 — 話すこと・聞くことの学習を中心に —	
目的 本講座は、現場の先生方の学習に対する見方、考え方から授業改善の方向性やヒント、そのための基礎的な研究的な知見などを提供し、共に考え合うことで、質を高めていくことを目指してきた。新しい学習指導要領の移行期において、次なる学びをどのように見据えていくかについての見通しを持つことが重要である。思考力、表現力の不足が毎回、指摘されている中、すべての児童・生徒が学びに参加できるようにする単元創りをどのように考えていこうとするかという企画。「主体的、対話的で深い学び」が全国に広まりを見せている。言葉だけが一人歩きすることなく、学習者の実態に根ざした単元のあり方を主に「話すこと・聞くこと」領域に中心をおき具体的な単元創りをワークショップしながら考えた。「話すこと・聞くこと」の三つの大きな言語活動、スピーチ、対話、話し合いを取りあげ、どこから指導を始め、どのように伸ばしていくかを9年間を見通して考えた。	
活動実績 <第1回 スピーチ 11/11> 教科内外で扱われる「スピーチ」では『どのくらい（量）』『どんなこと（質）が』話せばいいのか」が指導において重要な観点となる。また、「良いスピーチ」を問われた際にたいいていの人が思い浮かべるものの特徴としては「わかりやすい」「感動」という二つの要素が含まれていることが多い。しかし、この二つの要素を内包したスピーチをすべての子どもができるのかといえは疑問である。すべての子どもが「感動」という要素を含みこむのは困難である。学校で行うスピーチで重視すべきは「わかりやすさ」であり、主張の明確さやエピソードと思いのリンク、論理性、間のとり方など「わかりやすさ」の原点となる技術を子供たちが身に付ける必要がある。また、学校で行われるスピーチは「話すことの暗記」になってしまうことが多く、ただの読み上げ、つまり生きた言葉ではなくなっている場合が比較的多い。子どもは話したいことがあるから話せるのであり、話したいことでなければ生きた言葉にはならない。「話すこと・聞くこと」領域で重要になる言語意識は「相手」と「目的」である。相手に伝えるという目的意識と相手意識を達成するためには、上記で述べた「話したい」という必要感とそれを効果的に相手に伝えるための技術を大切に行う必要がある。 <第2回 対話 12/9> 1. テーマ：音声言語指導において言語活動としての「対話」の重要性の確認すること 対話の活動の目指すこと、またそれを技能として身に付けるための学習のプロセスを理解する 2. 国語教育における「対話」について 国語教育としては、「いつでも、だれでも、どこでも」対話することのできる学習者を育	

んでいくことを目標にすることが大切である。(対話への教育) それは、対話を用いることによって可能となることでもある。(対話による教育) 両者を統合したところが国語教育におけるめざす教育となる。

3. 国語科学習としての「対話」について

言語活動としての対話は、話すこと・聞くことの学習だけでなく、読むことの学習の中でも方法論として活用される。つまり学習が、目標と内容において二重性を帯びているということだ。方法として対話を用いながらも対話そのものを育てていくためには、教師自身が学習者に身に付けたい力や学習内容を明確にする必要がある。そのための授業想像の力が教師に最も強く求められる専門性である。

<第3回 話し合い 1/27>

1. テーマ・話し合い指導における現職教師が思う現状の把握すること
・話し合いにおける「話題」の重要性を考えること

2. 国語教育における話し合い指導について

国語教育における話し合いで重要なこととして、以下の3つが挙げられる。

- ①話し合いに必要な道具を十分に与える。
- ②学習者のレディネスを把握する。
- ③良い話し合いのモデルを提示する。

以上のことが話し合い指導で考えなくてはならないことである。このほかに、話し手と聞き手が同じ土俵にいて、なおかつ相手の考えを受容すること、子どもたちが話したいという気持ちを持っているかどうかも大切になる。また、教科書には聞き手の反応の仕方などもモデルとして載っているが、型を教えるだけでは話し合いとして成立しない、ということも理解していなくてはならない。そして、話し合いで最も大切なのが「話題」である。話題を提示し、ゴールに行くまでに何を話し合うのか、その話題で話し合いは深まり、広がるのか。子ども達の興味を持てるも話題でなければ、指導の前に話し合いが成立しなくなってしまう。普段の子どもの表情・動作(様子)をよく見てどんな話題が適切なのかということを考えなくてはならない。

<第4回 全体総括 2/17>

1. 今回はその総括として、話すこと・聞くことの学習における指導の目標、方法といった理論のまとめを行い、また受講者である現場の先生方の国語科学習、大きくは学校での指導全般で抱えている疑問点や問題点を討論的に考察した。

2. 学びの成果

国語科の領域の一つである話すこと・聞くことの目標はこれまでの先行研究をまとめると、個人内における論理性や思考力といったスキルや能力を重視するものと、集団内での人間関係の形成や関係を持つことで得られる視座の転換といった社会性を重視するものとに分けられる。これら両方をカリキュラムの中に包含していかなければならない。その際に身に付けさせたい技能ばかりが先行することのないよう、学習者の事態を踏まえたPDCA や話題の提示というのが非常に大切となってくる。また実際の指導過程において学習の積み重ねによるメタ認知の生成も、話すこと・聞くことの学習の重要なキーワードと

なってくるといえる。

後半に聞くことのできた討論形式での現場の先生方の生の声は、実際の教育現場の現状や先生方の努力や葛藤を垣間見ることのできる、貴重な“話す・聞く”機会となった。

課題

<講座内容について>

新しい学習指導要領の内容に関わって「話すこと・聞くこと」に絞り込んで扱ったのはよかった。教科書の中でも教科国語としての学習内容が不明確な領域だけに参加者の関心も高かった。外部講師の予定変更は参加者に申し訳ない結果だった。

<講座設定に関して>

大学が地域に開かれたものとなるためには、本講座のような内容（特に現職教員が対象で利益追求とはならない）は無料で提供して良い。参加者は年々、減少傾向にあるが、中学校の部活、官制研修の過密化、教師の日常の多忙化など多くの要因がある。中学校教員の参加者は毎回1・2名だけとなっている。出前による僻地開催などの工夫もあってよいのではないか。

<開講場所について>

岩手という地域性を考えると盛岡開催だけでない方法を考える必要がある。

2-5 国内・外調査研究

日本国内・外における生涯学習・教育の動向を把握しつつ、成人学習者のニーズに応じた学びの場づくりや、地域の課題に応じた生涯学習プログラムの開発のための地域住民のニーズ把握・分析をととして基礎データを構築するため、調査研究を進めた。

今年度は、大学で実施している社会人学び直しプログラムの実施状況を把握するとともに、今後の社会人学び直しプログラムの開発の手がかりを探るための調査研究に重点が置かれた。

さらに今年度は、また学内の「平成 29 年度副学長（国際連携担当）裁量経費」に応募し採択されたことで、海外の調査研究が可能となった。そこで、「東アジア大学との研究連携強化およびグローバル視点を持つ地域創生人材の派遣先の発掘に関する事業」を展開するため、韓国と台湾を対象に調査研究を進めた。経費に限りがあったため、海外研究者を岩手大学にお招きするには至らなかったものの、訪問調査を通して海外専門家と人的ネットワークの構築と隣国の大学における社会人学び直しの現状を把握することができた。

なお、今年度は 6 回の国内調査と 2 回の海外調査を通じて、大学における社会人学び直しプログラムを開発するための基礎データ構築が着実に進んだといえる。詳細については＜資料 2-5-1＞＜資料 2-5-2＞を参照されたい。

2-5-1 国内調査報告

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成29年6月13日

報告者名：朴 仙子

➤ 訪問先
サン・リフレ函館
➤ 訪問期間
平成29年6月10日（土）、11日（日）
➤ 訪問者
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員
➤ 訪問の目的・経緯等
日本社会教育学会 東北・北海道研究集会にて情報収集のため
➤ 成果
テーマ：地域再生ときゃかい教育 ー地域を振り返る協働の学び：子どもの声を聴き、地域の未来を考えるー ▼各地域の子ども白書の特徴 ○はこだて子ども白書（森越 智子） ・大量のアンケート調査（10105部配布、6664部回収） ・自由記述も製本（実際の声を届けるため） ・函館市及び近隣市町の教育・福祉行政関係、全ての保・幼・学校、市議会議員、司法、報道、図書館、市民団体、道内子ども部局に無料配布 ○さっぽろ子ども・若者白書（沢村 紀子） ・2年間にわたり調査研究から執筆 ・子どもに限らず、範囲を若者にまで ・子ども白書を今後も継続発行できる体制づくり ○十勝子ども白書（野坂 勲） その他 ○「震災がきて、救われた」こんな言葉を、二度と聞かなくて良い社会に（門馬優） ・行政と連携を持つことで、持続的に支援が届けられる地域を作る ・地域住民を巻き込んだ支援活動

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成 29 年 6 月 13 日

報告者名：朴 仙子

➤ 訪問先	
くずまき高原牧場「プラトー」	
➤ 訪問期間	
平成 29 年 6 月 12 日	
➤ 訪問者	
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員	
➤ 訪問の目的・経緯等	
葛巻町のグリーンエネルギーへの取り組みについての訪問調査	
➤ 先方対応者	
松村 和樹 岩手県葛巻町農林環境エネルギー課 主任主事 鈴口 美知代 岩手県葛巻町農林環境エネルギー課 視察コーディネーター	
➤ 成果	
○葛巻町の現状及びグリーンエネルギーへの取組について説明して頂いた。 葛巻の現状： 人口：6420 人（2765 世帯）H29/4/1 現在 ⇒S30 年は 1 万 6 千人、毎年 100~150 名減る ⇒当初は都市部への流出、現在は自然減少が多い（高齢化率：52%）。 面積：434.96 km²（うち森林 86%）（内標高 6450m 以上 95%） 平均気温：8.8℃ ⇒農業不適応 教育施設：小学校 5 校、中学校 3 校、高校 1 校 酪農：M25 年ヨーロッパから導入、現在牛乳生産量（90 トン/日）が東北一（飼育約 9 千頭）。 林業：炭、ワイン、建築用材 町の事業：①葛巻町畜産開発公社（牧場） ②葛巻高原食品加工（株）（ワイン） （町の出資は半額以下、他は町民の出資） ③グリーンテージくずまき（ホテル） 事業コンセプト：都市部の経済資源を活用し、町のエネルギー開発 今後の課題：今までは最新の物を投入したが、今後は住民がずっと使い続けられるものにする。	

150 の雇用を創出
(U・I ターン者中心)

○グリーンエネルギーへの取り組み

✓ 風力発電

きっかけ：エコ・パワー社の提案

町の働き：議員らがデンマークにて勉強→町民への説明会→町が（25%）出資

地域住民への恵み：町が有名になる、グリーンエネルギーへの注目

✓ 太陽光発電

きっかけ：文部科学省の「エコスクール」補助金を活用し、中学校の校舎に設置

町の働き：介護老人保健施設、牧場、コミュニティセンター、グリーンステージくずまき、葛巻小学校へと設置施設を増やし、個人宅に設置時に補助金を出す。

地域住民への利点：コミュニティセンターでの発電収入は地域でお盆・正月時に使用
避難所になっている公共施設を中心に無停電化

✓ バイオマス

①畜ふんバイオマス

きっかけ：H11 年『家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律』の制定

町の働き：H12 年バイオガスプラントの導入可能性調査→H15 年導入

地域住民への利点：畜ふん処理のための手間を省く、酪農の縮小を歯止めするため、町から乳牛を譲渡

②木質バイオマス（ペレット）

きっかけ：製紙会社が樹皮等でペレット生産

町の働き：ペレットボイラーとペレットストーブ（町・大学・企業共同開発）導入、住宅にペレットストーブ導入で支援金

地域住民への利点：町民も使える小学校の温水プール

✓ バイオマス等未活用エネルギー実証試験事業

きっかけ：月島機械（株）の開発研究施設を町に無償譲渡

現状：見学施設として活用、稼働はしていない。

○今後の取り組み

①風力発電

- ・ H31 年までにグリーンパワー葛巻風力発電所が風車を 22 基増設（固定資産税のみ）
- ・ 他の問い合わせについては、設置後の町への利益分担を検討中
→収入の n% or 1 基を譲渡してもらう
- ・ 地域住民に安い電力を供給できるようにしたい

②バイオマスプラント

- ・ プラントを増設し、そこで得られる電気と熱をほうれん草栽培に活用

③太陽光発電

- ・ パネルを増やし、電気自動車の普及を図る。電力の蓄電池も増やす予定（現 2 基）

○その他

- ・ 岩手大学の廣田教授が地区コミュニティ活性化に関わっている（2～3 地区）
- ・ 会議体制について：事業ごとにその都度会議を作る。
- ・ U・I ターンについて：年に数件、東京で県単位の説明会
- ・ 住民への説明会：バイオマスプラントについての説明会を開催
- ・ 補助金によるグリーンエネルギー導入の普及率：諸補助金の申請は 400 件ほどである。太陽光関連の申請は年 5 件ぐらいで後継ぎが戻ってきたお家が再整備するのが多い。
- ・ ペレットストーブ：利用率が低い（掃除が大変、灯油と比べて価格のメリットが無い）
自分の木を取ってきて、薪ストーブを利用
- ・ くずまき高原牧場の施設：宿泊（10 名利用計 5 棟）、会議室、研修室、食堂（弁当も可）
- ・ 自然の学校：講師不在のため、休校中。来年度再開する予定。

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成 29 年 7 月 13 日

報告者名：朴 仙子

➤ 訪問先
葛巻町 ホリバ電工
➤ 訪問期間
平成 29 年 7 月 11 日
➤ 訪問者
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員
➤ 訪問の目的・経緯等
葛巻町でグリーンエネルギーを進めている堀場伸男への訪問調査
➤ 先方対応者
堀場 伸男 ホリバ電工 代表取締役社長
➤ 成果
○堀場 伸男様のライフストーリー 16~19 歳 町の電気屋に弟子入り（実家は 2 キロ離れたところの農家） 19~22 歳 全国各地へ出稼ぎ 22 歳～ 葛巻町の前働いていた電気屋に戻る（長男であるため） 23 歳 結婚（子ども 3 人）（息子さんは現在被災地で電気工事を行っている） 27 歳 支社を立ち上げることで独立 51 歳ごろ 家をオール電化にリフォーム（蓄熱暖房機 10 台、太陽光発電システム計 600 万円） 56 歳ごろ ホリバ電工として独立 57 歳ごろ 「まちの駅葛巻」の理事長を務め始める 60 歳ごろ ホリバ電工が株式会社登録 2017 年現在 66 歳 ○グリーンエネルギーへの取り組み ・きっかけ：八戸の営業からの誘い（13 年前） ・現在、葛巻町内には電気屋さんが計 2 か所ある。 ・東北電力と協力して太陽光発電を広げている。 ・くずまき環境パートナーシップ「なあす」の一員として、勉強会等もしたが、現在は解体している。 →町民のグリーンエネルギーへの関心が最も高かったのは、10 年ほど前である。 ・葛巻町では今、グリーンエネルギーとして薪に力を入れている。

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成 29 年 7 月 13 日

報告者名：朴 仙子

➤ 訪問先
葛巻町 森のそば屋・みち草の驛
➤ 訪問期間
平成 29 年 7 月 11 日
➤ 訪問者
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員
➤ 訪問の目的・経緯等
女性団体である高家領水車母さんの会についての訪問調査
➤ 先方対応者
高家 卓範・高家 章子
➤ 成果
○森のそば屋について ・オープンまでの道のり 地元のそばが学校の先生たちに評判がよく、学校の行事に使われた →そば祭りのイベント等の企画をしたが全部集落の人たちに反対された →東京で開催されたそばの祭りに出店し、24 席で 2 日間 1500 食を販売。 ・1992 年東京に一緒に行った 6 名のお母さんたちと森のそば屋を立ち上げ 出資は高家夫妻だけで、建物は高家夫妻の前のお家 椅子・テーブルは皆さんのお家で使わないものを寄せ集め 技術・能力を出し合った。 当初は日給で自己申告制、県の最低賃金を基準に支払った ・現状 高家領水車母さんの会メンバーが当初の 15~17 名から現在 12 名になっている（4 名死亡） 職員は計 12 名、最高齢が 80 歳、一番若い 20 歳の人は引きこもり訓練の一環で受け入れている 森のそば屋の年間売り上げが 1 千万強、みちの草駅の売り上げは 6 千万強と、両店舗合わせて 8 千万円の売り上げをだしている みちの草駅は盛岡市内のデパート・スーパーでも出店している ○水車について ・水車でそばをひくのもグリーンエネルギーなのに、町の協力はなかなかいただけない。 ・水車はおおよそ 10 年間使える。

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成29年8月31日

報告者名：朴 仙子

➤ 訪問先	
特定非営利法人インクルいわて	
➤ 訪問期間	
平成29年8月30日	
➤ 訪問者	
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員	
➤ 訪問の目的・経緯等	
インクルいわてで行っている「こども食堂」を見学し、今後地域支援の形態を検討するため	
➤ 先方対応者	
山屋 理恵 特定非営利法人インクルいわて 理事長 川守田 特定非営利法人インクルいわて 子ども食堂 担当 中野 特定非営利法人インクルいわて カウンセラー その他 学生ボランティア	
➤ 成果	
○こども食堂運営スケジュール 9:30 スタッフ集合 10:00 ボランティア打ち合わせ（誓約書の記入） 10:15～12:00 調理・会場設営 12:00～14:45 開店・各種イベント 15:00～16:00 反省会、後片づけ	
○インクルいわて活動	
2011年12月	インクルいわてを結成、NPO法人申請
2012年1月	特定非営利活動法人インクルいわて 成立
2012年6月～	インクルフェア開催（ひとり親のエンパワーメント）
2012年～	おひさまくらぶ
2012年7月	シンポジウム「ひとり親家族支援を考える」開催
2012年8月～ 2017年～	ひとり親家族サポーター養成講座（1年半に1回） 県の予算で実施開始
2014年	インクルーム（ひとり親就業支援）
2016年～	こども食堂（地域の居場所づくり）
2017年8月～	インクルすてーしょん

○インクルいわての現状

- ・ NPO 法人にした理由：個人情報扱うので、信用してもらうため
- ・ 現在こども食堂にはボランティアが 10 名、学生ボランティアが 15 名ほどいる。
- ・ インクルいわてのスタッフ：男女センターに 11 名、事務所に 9 名在籍している。去年から事務局会議を定期的開催している。
- ・ 今後の課題：資金確保

○その他

- ・ 行政からの支援金には NPO 法人の活動のための資金は入っていないため、募金に頼っている。関西は 3 割を管理費として自由に使えるけど、東北は 1 割に過ぎない。
- ・ 地震がきっかけで、盛岡でひとり親支援が行われるようになった。地震が無かったら、ひとり親支援はいまだになされてなかった。

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成29年12月18日

報告者名：朴 仙子

➤ 訪問先
名古屋大学
➤ 訪問期間
平成29年 12月 14日
➤ 訪問者
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員
➤ 訪問の目的・経緯等
シンポジウムの貴重講演を依頼し、講演内容について議論するため
➤ 先方対応者
丸山 和昭 准教授（高等教育研究センター）
➤ 成果
○シンポジウムでの講演内容 シンポジウムの基調講演において、下記の内容についてお話しいただくこととなった。 1、高等教育の政策の流れ 2、現場の大変さ 事業拡大・継続するためには、外部資金の獲得が必要であり、学部の負担になると、継続が困難になる。 3、協力体制づくり（名古屋大学との連携） ○高等教育の現状及び課題 ・大学における社会人学び直しはエリート養成に繋がる。 ・ネットへの授業公開、テレビ会議システムを導入することで、岩手大学の教育資源を都市部に提供することができる。 ・日本では現在、学校歴は有効だが、学歴は評価されないため、社会人の大学での学び直しの需要が高くない。社会が学歴を評価し、安定した人事が行われるなど、福祉が整った時、大学が受け皿になれるよう、準備作業をしておく必要がある。

2-5-2 海外調査報告

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成 29 年 11 月 30 日

報告者名：中里 剛士

➤ 訪問先
国立ソウル大学・高麗大学
➤ 訪問期間
平成 29 年 11 月 25 日～26 日
➤ 訪問者
生涯学習部門 朴賢淑 准教授、朴 仙子 特任研究員 地域連携・COC 推進課 中里 剛士 主事
➤ 訪問の目的・経緯等
本学が目指す大学像に、「グローバルな大学」というものがある。このなかには、少子高齢化や人口減少に起因する地域の課題、防災・復興活動に係る知見などについて、海外の企業・自治体などと世界的に連携していくことも含まれているが、未だに本学の事務職員にはこのグローバルに対応できる人材は少ない。今回の社会教育学会日韓学術交流研究大会への参加や高麗大学の朴教授への聞き取り調査などから韓国の産学官連携について情報収集し、今後の活動の一助とする。
➤ 先方対応者
国立ソウル大学 師範大学 姜 大仲 准教授 高麗大学 師範大学 朴 仁雨 教授
➤ 成果
○韓国における産学官連携の在り方について 1) 契約学科制度（産学連携） ・ 企業と大学等が契約を結び、学生（学部、大学院生）や在勤労働者の教育のために必要な学科を大学に設置・運営する。契約学科は新卒採用を目的とする「採用条件型学科」と、企業人材の学び直しを目的とする「再教育型学科」の 2 つのタイプに分けられる。 ・ 「採用条件型学科」では卒業生の 100%採用を条件に、企業ニーズに合った内容を教育。「再教育型学科」では企業の社員の職業能力の向上を目的に教育する。よって、学生募集の時企業の人も面接等に関わる。 ・ 企業は大学等に対して、具体的な人材スペックを提示するとともに、一定の採用保証、教育ツールの提供、教育成果評価、教育コストの負担（奨学金）等を行う。 ・ 大学は、対象者に、基本教育に加えて、企業から提示されたスペックを充足する

ための教育を実施する。

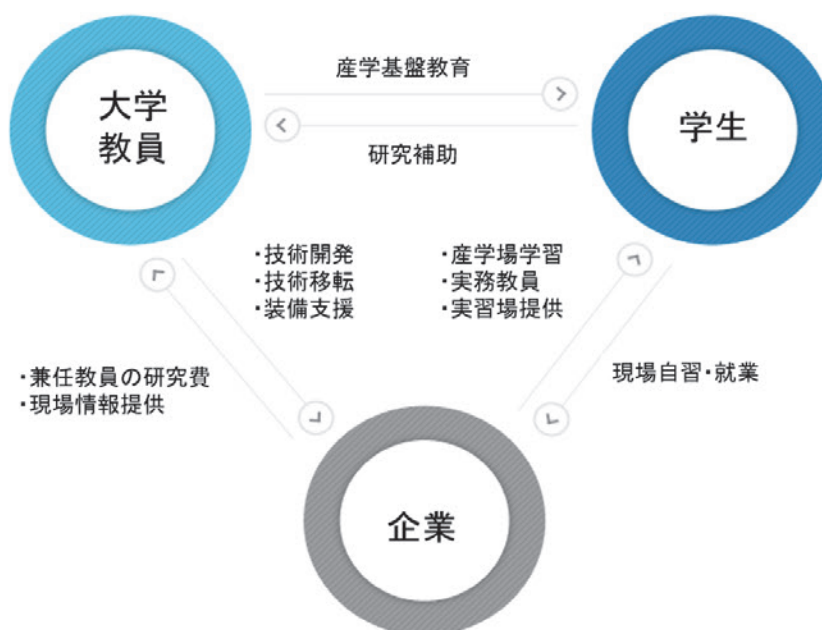
・教育費は企業が50%以上負担し、残りは学生負担する。(中小企業等の場合には、教育費の70%までを国が負担し、残りを中小企業と学生が負担)

※韓国では、地方国立大学でもこの契約学科を1つから2つ設置しており、大学での教育と産学官連携が直結している。朴教授曰く、契約学科の設置については、日本と同様に国の認可が必要であるが、契約学科の設置が一般的であるため認可のハードルは低いようである。

2) 家族企業について

・日本では教員と企業が連携し共同研究を行うが、韓国では大学で産学協力団を設立し、産学協力団が企業と連携協定を結び、その企業を大学の家族企業と認定したうえで、相互支援を行う。大学と企業の連携数はどの大学も少なくとも500~1,000以上である。

・法律上大学は非営利組織であるため、外部に産学協力団設立し、独立法人化して専門の職員を配置し、第三者として大学と企業を仲介する。その仕組みは図の通りである。なお、産学協力団の団長は大学の学長が学内の教員を任命している。



3) LINC について

・LINC(Leaders in Industry-university Cooperation:産学連携先導大学)事業とは、2012 年に開始された、大学-企業間で大学教育システムの改善、就職ミスマッチ解消、大学と地域発展を牽引する産学連携先導大学の育成を目的とした事業である。

・事業期間：2012 年～2016 年 (2 年+3 年)

(1 段階) 産学連携先導モデルの基盤造成と充実/2 年

(2 段階) 産学連携先導モデル成果創出と拡散/3 年

・事業予算：2012 年は 1,700 億ウォン (170 億円)。大学ごとに平均 34 億ウォン

(3.4 億円) 程。

(技術革新型) 大学ごとの平均 30～50 億ウォン内外/15 件前後

(現場密着型) 大学ごとの平均 20～40 億ウォン内外/35 件前後

- ・ サポート対象：50 校前後で、内訳は技術革新型 15 校前後、現場密着型の 35 校前後を選定。50 校のうち 35 校前後は圏域ごとに選定し、15 校前後は全国単位（首都圏を除く）の競争で選定する。

2012～2016 年の計画（2 年間：基盤造成と充実、3 年間：成果創出と拡充）

2012 年は 1700 億ウォンで、50 校支援（技術革新型：平均 30～50 億ウォンで 15 件、現場密着型：平均 20～40 億ウォンで 35 件）をしている。

※取組状況 <http://www.kyosu.net/news/articleView.html?idxno=24906>

今後の課題

今回の聞き取り調査によって、韓国では産業界のニーズが大学で行われる高等教育に顕著に影響を及ぼしていることが分かった。契約学科制度や LINC 事業等によって大学での教育自体が産学連携に直結しており、自治体がそれを支援しているという体制が確立しているので、産学官連携が強固に行われている。

しかし、産業界からの影響が大きいということは、経済状況の変動がそのまま高等教育に反映されるので、学生の進路の多様性が狭まるのではないかという危惧もある。また、産業界に直結する応用研究が重視され、大学内で基礎研究が軽視されてしまうのではないかという不安もある。日本では韓国の強固な産学官連携を参考にしつつ、基礎研究を疎かにしない高等教育を目指す必要があるのではないだろうか。

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成30年1月15日

報告者名：佐々木 博希

➤ 訪問先	
国立台湾図書館	
➤ 訪問期間	
平成29年12月21日（木）	
➤ 訪問者	
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員、佐々木博希 主任	
➤ 訪問の目的・経緯等	
昨今、国の施策として1億総活躍社会の実現に向けた人づくりに力が注がれている。その実現に向けた取組として内閣府では「人生100年時代構想」を掲げ、子供たちの誰もが経済事情にかかわらず夢に向かって頑張ることができる社会、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会の実現を目指しているところである。 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門でも社会人学び直しに力を入れており、今後もますますの環境の整備が求められている。社会の変化が激しく、多様な価値観があふれる世の中で今後ますます充実したプログラムを提供していくためには、これまでの価値観にとらわれないグローバルな発想が必要であることから今回台湾の社会教育施設の現状に触れることで、今後の活動のヒントを得る。社会教育施設としての図書館が市民とどのようなかかわりを持っているのか、どのような課題を抱えているのか、その解決方法等意見交換することにより、今後岩手大学が目指す社会人学び直し教育の一助とすることを目的とする。	
➤ 先方対応者	
国立台湾図書館 鄭来長 館長	
➤ 成果	
【国立台湾図書館の概要】 国立台湾図書館は、1914年前身である台湾総督府図書館（→台湾省行政長官公署図書館→台湾省立台北図書館→国立中央図書館台湾分館を経て現在の国立台湾図書館へ）として設立。台湾356施設の中でも最も長い歴史を持ち、最も豊富な蔵書を有する施設である。市民に対するサービス、文献の保存、学術研究の促進、台湾の公・私立図書館への支援協力等が主な業務であり、収蔵図書の総数は20万冊を超える。 台湾の図書館は一般市民へのサービスの提供を主な目的とした「公	



共的図書館」と台湾の歴史研究の促進、保存を主な目的とする「研究的図書館」の 2 種類に分類することができるが、国立台湾図書館はその両方を兼ねそろえた施設であり、両機能を兼ねそろえた図書館は台湾内でも珍しい。館内には「児童用資料センター」「視障者資料センター」「台湾学研究センター」「自習室」「新聞雑誌室」「情報検索区」「閲覧区」「視聴覚区」など設けている。市民に閲覧サービスを提供し、台湾文献の収集や整理、社会教育の普及に力を入れている施設である。

【図書館で提供しているプログラムについて】

図書館の役割については、上段で触れているとおり多岐にわたるが、ここでは図書館が自主事業として市民に提供しているプログラムについて触れる。

図書館は 0 歳から 100 歳とすべての年齢代を対象とし、幅広く事業を展開している。例えば、①科学普及講座②一般教養講座③映画観賞会④作家を招いた講座等のプログラムがある。各講座は前期・後期の 2 学期制で、それぞれ夏と冬に公募を行う。1 科目 18 週で 1 回 2 時間となる。1 学期につき 10 科目程度開講（ただし 1 科目 15 名以下の場合には開講されない）され、受講料は 1 科目 3000 元（約 11,000 円）。ただし、スポーツに関する科目に関しては 3500 元（約 13,000 円）の場合もある。1 学期の受講生はのべ約 500 名おり、年間で約 1000 名が受講している。

プログラム終了後は参加者からのアンケートを取り、ニーズ調査を行い、次期のプログラムに反映させる。

なお、受講生が制作した作品の展示スペースも設けられており、自分で行った成果の見える化がなされているところが特徴的である。



受講生の作品展示スペース

【図書館職員の構成について】

国立台湾図書館職員の構成は、以下 4 分類される。①国家試験に合格した職員（日本の公務員みたいなもの）②各図書館に設けられている特別採用枠にて採用された職員→図書館毎の裁量で力の入れたいジャンルの職員を専門的職員として採用（国立台湾図書館では台湾の歴史についての専門職を採用した）③派遣職員 ④ボランティアの 4 種類である。台湾でも日本同様人件費の削減が求められているため派遣職員に頼らざるを得ない状況となっている。参考までに記載すると職員の定年は 65 歳が基本。ただし、年齢＋職歴が 85 歳以上となれば退職することができる。館長は教育部（日本でいう文部科学

省) から任命される。

【図書館運営に関して】

国立台湾図書館は、国からの補助金と自主事業（プログラムの提供等）から得る資金により運営されている。図書館の主なサービスとして力を入れているのが「視覚障害者」支援と「活字離れ対策」である。台湾は目の不自由な人の割合が多いことから数年前より、対象者を図書館への送迎するサービスを行っている。また、近隣にある 13 のレストランと提携し、点字メニューを作成し、その注文をもとに図書館職員が購入してきてくれるサービスも提供している。

また、日本同様、台湾でもスマホの普及により活字離れが進んでいる。この対策として図書館としても、本に触れる機会の提供を積極的に行っている（本の展示場の設置、図書館内にて本の物販）。

【図書館と地域（民間企業を含む）との連携について】

10 年前から異業種連携が求められるようになり、連携が進んでいる。一部例を挙げると、

- ① 図書館×病院 ＝ 小児科に親子向けの本を配置
- ② 図書館×学校 ＝ 学年が上がれば上がるほど本との触れ合いが希薄になる。その学年にあった図書を推薦し、本に触れる機会を増やす取組を行っている。
- ③ 図書館×コンビニ（ファミリーマート）＝ コンビニにて図書を借りることができる仕組みを設ける。出版社は本が売れなくなることを危惧し、反対していたが、最終的には活字離れ解消を防ぐ方策として同意。

このような取組の根底には、活字離れが進んでいることがあり、少しでも本に触れてもらう機会の提供を行うことが図書館の使命であるという認識のもと連携が行われている。

【今後の課題について】

台湾国内を見ても図書館施設は増加傾向にあるが都市部と地方部ではそれぞれ抱えている課題が異なる。都市部は図書館利用者が増加傾向にあり今後も拡大が見込まれるが、台北市内にはもう敷地がない（建設には利便性の高さも求められる）ため、施設拡大が困難である。それに対し、地方部は図書館の利用者が減少傾向にあることが課題である。これらの課題を解決すべく、図書館員の研修会を企画するが、地方部の図書館によっては職員が 1 名しかいないところもあり、研修会に参加することすら困難なことが多い（研修に参加する場合は、図書館を閉館しなければならない）。このような環境下であるため、都市部と地方部の図書館にますます差が生まれてしまう。

中学生・高校生の本を読む人の割合が低い。受験勉強の影響が考えられるがこの点についても解決すべき課題である。



生涯学習部門
調査報告書

提出日：平成 29 年 12 月 27 日

報告者名：佐々木 博希

➤ 訪問先
政治大学公企センター
➤ 訪問期間
平成 29 年 12 月 21 日
➤ 訪問者
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員、佐々木博希 主任
➤ 訪問の目的・経緯等
昨今、国の施策として 1 億総活躍社会の実現に向けた人づくりに力が注がれている。その実現に向けた取組として内閣府では「人生 100 年時代構想」を掲げ、子供たちの誰もが経済事情にかかわらず夢に向かって頑張ることができる社会、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会の実現を目指しているところである。 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門でも社会人学び直しに力を入れており、今後もますますの環境の整備が求められている。社会の変化が激しく、多様な価値観があふれる世の中で今後ますます充実したプログラムを提供していくためには、これまでの価値観にとらわれないグローバルな発想が必要であることから今回台湾の社会教育施設の現状に触れることで、今後の活動のヒントを得る。社会教育施設としての図書館が市民とどのようなかわりを持っているのか、どのような課題を抱えているのか、その解決方法等意見交換することにより、今後岩手大学が目指す社会人学び直し教育の一助とすることを目的とする。
➤ 先方対応者
国立大学政治大学公企センター長 苑守慈
➤ 成果
【国立政治大学公企センターの概要】 国立政治大学公企センターは、台湾教育部（日本でいう文部科学省）と米国の国際協力局との間の協定調印に基づき 1962 年に設立。政府機関や民間企業向けのプログラムを提供する台湾最古の施設である。社会人の学び直し場として様々な教育プログラムが提供されている。 【提供サービスについて】 公企センターでは、管理者に対する研修コースを提供し、政府機関や企業のリーダー人材育成を支援している。それぞれのコースは以下のように分類することができる。

①the grand value/grand industry プロジェクト…台湾のエリート向け教育プログラムを提供

②一般教養プログラム…財務管理、人事管理、金融投資、国際貿易、マーケティング、法関連（民法や商法）、教育、中国事情、台湾と中国の関係等々幅広いジャンルのプログラムを提供。一部は国立政治大学大学院に入学時、単位認定が可能。

③政府機関・民間企業のための研修コース…それぞれの機関にカスタマイズされたプログラムを提供。

④言語教育コース…英語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国語、ロシア語、アラビア語、タイ語、ベトナム語、トルコ語のカリキュラムを提供。受講生に併せたレベルの設定が可能。

上記の受講生の対象は社会人である。受講料はコース・プロジェクトによりかなり開きがあり、受講料によって教室のグレードも調整される。講師は、政治大学の教員が勤め、対応した教員には大学側からインセンティブが付与される。

なお、新プログラムを開設するためには推薦教育委員会の承認が必要である。この委員会には教育部の職員が委員として入っているため、プログラム新設には大学の事情のみでは決められず、国の方針にも大きくかかわって来る。

また、プログラムの提供とは異なるが、センター内の施設（会議室等）の貸出も行っており、外部機関が使用することも可能である。ただ、施設使用料が発生する。

【職員の構成について】

公企センターの職員は現在 11 名である（教員 1 名、職員 10 名）。なお、職員の学歴に関しては学士や修士とまちまちの状況である。設立当時職員は 50 名いたが政治大学としても日本同様、国からの予算が削減され、50→30→11 と年々職員が削減されているのが現状である。センターの自主運営が強く求められていることから、今後も職員を増える望みは薄い（現在新施設建設中であり、施設規模も拡大するがそれでも職員は 20 名程度になる予定）。そこで現在は徹底的な機械化、AI 化により解決することが検討され、少しずつ実行に移されている。

【職員の業務について】

センター職員の業務は以下のとおりである。

- ・プログラム運営に係る業務（プログラムの組立て、講師の選定、それに係る諸手続き等々）
- ・毎週打合せの場を設け、そこで今抱えている課題についてどうするか議論する。また、毎月 1 回公企センターの財務運営状況は学長に直接報告する。
- ・細かなインフラ整備、施設管理（※現在新施設を作っているため、そこに係る負荷が大きい）。

【今後の展開について】

現在台北市内に新施設を建設中である。資金は卒業生の寄附及び政治大学がローン借上により建設。これまでのセンターよりもグローバル化を意識した施設づくりとなっている（台湾本土以外の講師に講演いただく、参加者を募ることができるインフラ整備）。新施設的环境を一部紹介すると、施設面積は 8500 m²。300 名、220 名、90 名収容可能な講義室を構え、その講義室にはテレビ会議システム（+4 か国語逐次通訳対応機能付き）を兼ね備えている。また講義室以外にも音楽会を開けるような多機能室を設け、さまざまなジャンルの方々が集える環境作りがなされている。なお、当センターは国立政治大学において研究施設というよりはビジネス的な施設として位置づけられている。

【今後の課題について】

センターの自主運営が強く求められていることから、また、職員配置数が減少することによる、負担軽減化をいかに行うか（AI 化）が喫緊の課題である。

また、センターの教員は運営面に時間がとられるため、教育・研究が出来ていないのが現状である。

生涯学習部門 調査報告書

提出日：平成 29 年 12 月 27 日

報告者名：佐々木博希

➤ 訪問先
大安区社区大学
➤ 訪問期間
平成 29 年 12 月 22 日（金）
➤ 訪問者
朴賢淑 准教授、朴仙子 特任研究員、佐々木主任
➤ 訪問の目的・経緯等
昨今、国の施策として 1 億総活躍社会の実現に向けた人づくりに力が注がれている。その実現に向けた取組として内閣府では「人生 100 年時代構想」を掲げ、子供たちの誰もが経済事情にかかわらず夢に向かって頑張ることができる社会、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会の実現を目指しているところである。 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門でも社会人学び直しに力を入れており、今後もますますの環境の整備が求められている。社会の変化が激しく、多様な価値観があふれる世の中で今後ますます充実したプログラムを提供していくためには、これまでの価値観にとらわれないグローバルな発想が必要であることから今回台湾の社会教育施設の現状に触れることで、今後の活動のヒントを得る。社会教育施設としての図書館が市民とどのようなかかわりを持っているのか、どのような課題を抱えているのか、その解決方法等意見交換することにより、今後岩手大学が目指す社会人学び直し教育の一助とすることを目的とする。
➤ 先方対応者
台北市大安社区大学 楊秋満 主任秘書
➤ 成果
【社区大学の概要】 社区大学とは台湾にある地域密着型の生涯学習施設である。社区とは中国語で「コミュニティ」を意味する。社区大学の歴史は 1998 年 3 月「社区大学準備委員会」が組織されたことから端を発し、1998 年台北市に全国初となる社区大学が設立され、現在その数は台湾国内で約 100 以上となっている。台北市には 12 の行政区があり、それぞれの区の特徴を生かした社区大学運営がなされ、地域の人々が気軽に学べる場として親しまれている。今回訪問した台北市大安社区大学は、台北市内の東側に位置するが比較的市



民が集いやすい町中に立地し、現存する私立開平餐飲学校（飲食関連の職業専門学校）の校舎の空き時間を利用（主に夜間）し、運営がなされている。立地条件もよく、地域に開放された生涯学習施設として広く市民に開放されている。

【提供プログラムについて】

大安社区大学では多様なプログラムを提供している。大安区内では3つの社区大学が存在するが、そのプログラム数は1校あたり60プログラム程度、3校合わせると約200のプログラムを地域の方々に提供している。そのジャンルは多岐にわたり、歌・絵画等趣味的要素のものから言語（特に日本語、英語）教育、民事訴訟に関するものや株にかかわるもの、自然科学としての生物に係るものなど数多くのプログラムが提供されている。なお、受講資格は18歳以上であれば学歴等問わない。受講生は40~60代が割合として多く、2/3は女性、定年後の公務員や教員が多い傾向にある。授業プログラムに関しては、以下のとおりである

○開講時間：19：00～21：45（平日）

土曜日も開講しているが、日曜日は休校である。

○1科目18週で行われる。

○1プログラムにつき受講者が16名以下の場合には開講されない。

○単位認定は行わない（単位を必要とするニーズがないため＝単位が欲しい場合は大学に進学している）。ただし、出席率2/3以上の受講生には修了証の配布している（終了証に関しても必要ないという要望もあり、数年前から希望者にのみ配布。統計的に6000名の受講生の内、終了証を必要とした学生は30名程度）

○受講料は3000元（約11,000円）を上限とする。条件によって、受講料の減免制度有り。



【実施体制について】

社区大学は職員5名体制（3名専門職員、2名臨時職員）にて運営されている。職員の役割は主に4点。①社区大学全体のマネジメント（授業カリキュラムの組立てる、講師の選定・調整等）、②学生募集、③連携事業の実施、④施設マネジメント（学校の環境を管理する）となる。なお、講師自身がプログラムごとの担任教員の役割も担っているため、プログラム内の運営に関して職員が介入することはない。そのため、講師選定を行う際は、通常の学力（職歴や専門性）だけではなく、幅広い年代とのコミュニケーション力、適応力も大事な判断基準となる。

運営に係る予算に関しては、国からの補助金と自主事業収入で運営がなされているが、国の補助金の算定に関しては、かなり厳しく審査される。国から補助金の算定に関しては、台北審査局から審査（毎年小規模の審査、3年に1回大規模な審査）によって金額が決まる。国からは社区ごとにそれぞれ特徴のある授業を開講してほしいとの要望があり、

それに対応する必要がある。なお審査項目は以下の 5 点である。①財務状況、②人的資源は適切さ、③事業の内容（地域ニーズにこたえているか）、④地域における評価、⑤新しいことへのチャレンジ。なお審査において成果を残さない限り予算が削られてしまう。それだけに講師の選定は重要であり、その職務を任されている職員の役割は重要である。

【既存学校と社区大学との交流について】

社区大学は廃校になった校舎を利用して、社区大学を設立しているわけではないので、学校施設には昼と夜とで 2 面的な側面がある（昼は高等学校、夜は社区大学）。その両者の交流事業が年数回行われている（交流イベント、高等学校の学生が社区大学の講師として授業を行う等々）。学生同士の交流の場としての側面も持ち合わせている。

【現状と課題について】

冒頭でも触れたが台湾国内では 100 程度の社区大学が存在するが、地域間格差は否めない。なお、台北市は比較的地域・文化的に余裕があり、他地域より一般市民の給与水準が高いことから社区大学のような取組は盛んであるし、利用率も高い。

また社区大学は国からの補助金と自主事業収入により運営がなされているが、国からの補助金が削減されている点、受講料に上限が設けられている点で、運営状況が厳しく、職員の給与は他業種と比べて少ないうえ、拘束時間（労働時間）が長いことから職員の離職率が高いことが運営上の問題点である。



2-6 社会教育主事講習

生涯学習部門では地域の社会教育の担い手となる専門的職員（社会教育主事）の養成を行っている。当事業は、文部科学省の委託事業であり、北東北の岩手県・青森県・秋田県の学習者を対象に岩手大学、弘前大学、秋田大学が持ち回りで主催校となり、社会教育主事講習を開講している。

社会教育主事は、専門的職員として社会教育を行う者に対する助言や指導に当たる役割を担うことになる。なお、当養成講習では、「生涯学習概論」、「社会教育計画」、「社会教育演習」、「社会教育特講」の4科目を開講し、社会教育主事としての専門的知識・機能習得を目指す。今年度は岩手大学が主催校となり、学内・外の教員の協力のもとで実施された。

なお、当講習は、社会教育法(昭和24年法律第207号)第9条の5の規定並びに社会教育主事講習等規程(昭和26年文部省令第12号。以下「規程」という。)に基づき実施するものであり、社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識、技能を習得させ、社会教育主事となりうる資格を付与することを目的としている。

(1) 社会教育主事講習実施要領

◆実施科目：

- ①生涯学習概論（2単位）/30時間
- ②社会教育計画（2単位）/30時間
- ③社会教育演習（2単位）/60時間
- ④社会教育特講（3単位）/45時間

◆実施機関：岩手大学、弘前大学、秋田大学（※2年ずつ持ち回り）

◆参加県：岩手県、青森県、秋田県

◆講習期間：約1カ月

【社会教育主事講習等規程第2条】

第2条 講習を受けることができる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- 一 大学に2年以上在学して62単位以上を修得した者、高等専門学校を卒業した者又は社会教育法の一部を改正する法律(昭和26年法律第17号。以下「改正法」という。)附則第2項の規定に該当する者
- 二 教育職員の普通免許状を有する者
- 三 2年以上法第9条の4第1号イ及びロに規定する職にあった者又は同号ハに規定する業務に従事した者
- 四 4年以上第9条の4第2号に規定する職にあった者
- 五 その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

【社会教育主事講習等規程第 7】

- 第 7 条 単位修得の認定は、講習を行う大学その他の教育機関が試験、論文、報告書その他による成績審査に合格した受講者に対して行う。
- 2 講習を行う大学その他の教育機関は、受講者がすでに大学において第 3 条の規定により受講者が修得すべき科目に相当する科目の単位を修得している場合には、その単位修得をもって同条の規定により受講者が修得すべき科目の単位を修得したものと認定することができる。
- 3 講習を行う大学その他の教育機関は、受講者が、文部科学大臣が別に定める学修で、第 3 条に規定する科目の履修に相当するものを行っている場合には、当該学修を当該科目の履修とみなし、当該科目の単位の認定をすることができる。

(2) 平成 29 年度実施状況

1. 開催期間：平成 29 年 7 月 18 日 ～ 平成 29 年 8 月 10 日

2. 開催場所：国立岩手山青少年交流の家(7/18～7/21)

岩手大学図書館 2 階生涯学習・多目的学習室（7/24～8/10）

3. 受講人数：岩手県（18 名）、秋田県（11 名）、青森県（11 名）

4. 講習の概要：＜資料 2-6-1＞日程表のとおり

5. 今後の課題：

受講者のアンケート結果として講習全体に関して 9 割強の受講者から満足という評価をいただいていることから、充実した社会教育主事講習であったことがうかがえる。課題としては、宿泊研修の在り方について、意見が割れており（宿泊する必要性がない、宿泊日数を増やしてほしい等の意見）さらなる検討が必要である。

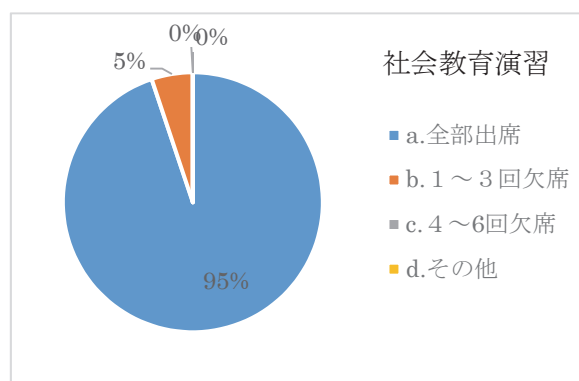
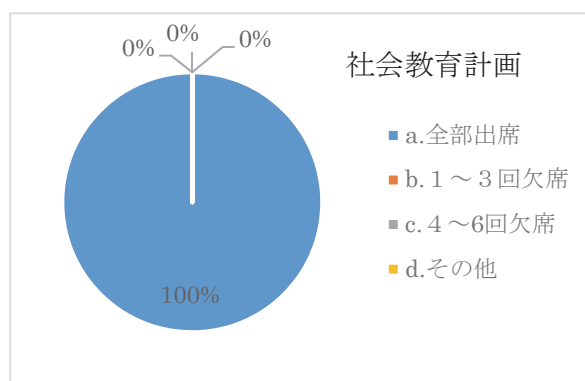
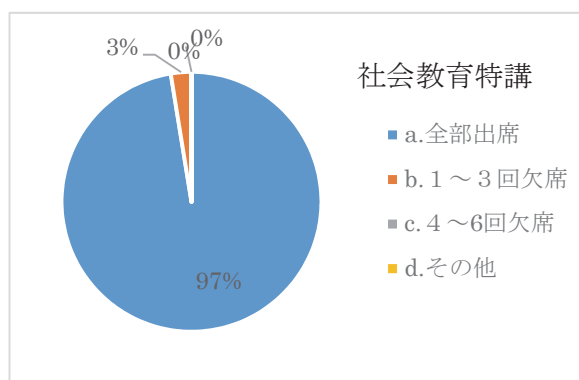
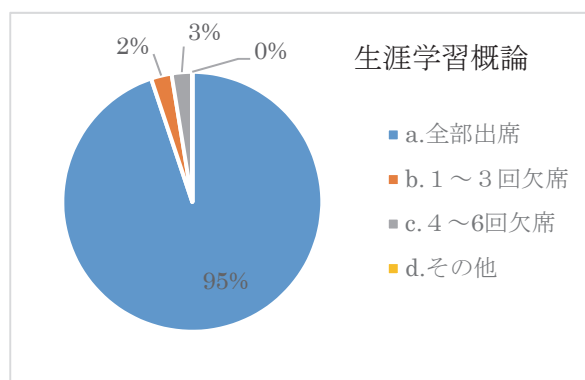
また、開催時期に関しては、もう 1 週間遅くしてほしい等の要望があったが、この点に関しては、大学として対応することが困難である（小中学校が休みの時期は大学も休みに入るため講師の確保が困難となる）。

他、国立大学の教育学部は教員養成に特化という文科省の施策により生涯学習に係る教員が激減していることから、社会教育主事講習自体を運営することが困難（講師の確保等）な環境となってきたことが一番の課題である。詳細は授業評価アンケート＜資料 2-6-2＞及び生涯学習ニーズに関するアンケート＜資料 2-6-3＞を参照されたい。

平成29年度社会教育主事講習日程表

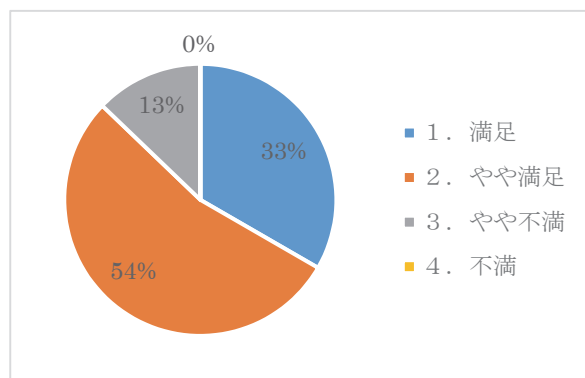
会場	期 日	8:50～10:20	12:00～	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:30～18:00
青 国 少 立 年 交 流 岩 手 大 学 図 書 館	7月18日 (火)		受付	12:00～	13:10～13:40 開講式 13:45～14:30 オリエンテーション	社会教育と生涯学習 岩手大学 准教授 朴 賢淑(生涯学習概論①)	社会教育演習① 新妻・浅沼・朴
	7月19日 (水)	社会教育と市民活動 岩手大学 准教授 朴 賢淑(生涯学習概論①)	岩手県生涯学習振興会 会長 中村 利之(社会教育特講①)	岩手県生涯学習振興会 会長 中村 利之(社会教育特講①)		社会教育演習② 新妻・浅沼・朴	社会教育演習③ 新妻・浅沼・朴
	7月20日 (木)	地域の国際化と社会教育 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育特講②)	生涯学習と企業連携 岩手大学 教授 谷井 潤(社会教育特講③)	生涯学習と企業連携 岩手大学 教授 谷井 潤(社会教育特講③)		生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 教授 浅沼 道成(生涯学習概論②)	社会教育演習④ 新妻・浅沼・朴
	7月21日 (金)	社会教育対象の理解 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育計画①)		社会教育演習⑤ 朴	高齢化と社会教育(社会教育特講④) 八幡平市企画財政課 関 貴之 オーケファニール八幡山下 直基	生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 教授 浅沼 道成(生涯学習概論②)	社会教育演習⑤ 新妻・浅沼・朴
	7月22日 (土)						
岩 手 大 学 図 書 館	7月23日 (日)						
	7月24日 (月)	社会教育と市民活動 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育特講⑤)		社会教育演習⑦ 浅沼・朴	13:10～14:40 社会教育事業計画 東北大学 教授 高橋 満(社会教育計画②)	14:50～16:20	16:30～18:00 社会教育調査の理論と方法Ⅰ 岩手大学 教授 竹村 達子(社会教育計画③)
	7月25日 (火)	国際理解教育と生涯学習 岩手大学 准教授 尾中 夏美(社会教育特講⑥)			学校外教育論 弘前大学 講師 深作 拓郎(生涯学習概論③)		社会教育調査の理論と方法Ⅱ 岩手大学 准教授 小野澤 章子(社会教育計画④)
	7月26日 (水)	地域農業の問題と社会教育 岩手大学 教授 佐藤 和憲(社会教育特講⑦)	高等教育と生涯学習 東北大学 助教 清水 裕文(生涯学習概論④)			社会教育演習⑧ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑨ 新妻・浅沼・朴
	7月27日 (木)	社会教育演習⑩ 浅沼・朴		社会教育演習⑪ 浅沼・朴	生涯学習社会における学力 東北大学 講師 田中 光晴(社会教育特講⑤)		生涯学習とメンタルトレーニング 岩手大学 准教授 長谷川 弓子(社会教育特講⑥)
岩 手 大 学 図 書 館	7月28日 (金)	地域社会教育計画Ⅰ 岩手大学 客員教授 新妻 二男(社会教育計画⑤)				地元学と社会教育 岩手大学 教授 廣田 純一(生涯学習概論⑤)	社会教育演習⑩ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	7月31日 (月)	社会福祉と社会教育 大阪府教育委員会 スクールソーシャルワーカー 上原 裕介(社会教育計画⑥)					社会教育演習⑪ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月1日 (火)	文化財の理解と生涯学習 岩手大学 教授 蔵 敏裕(社会教育特講⑩)	生涯学習とまちづくり 岩手大学 准教授 植田 俊之(社会教育特講⑪)	地域復興と行政の役割 金石市観光振興部企業立地課 主任 井上 諭昌(社会教育特講⑫)	社会教育演習⑬ 浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑬ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑬ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月2日 (水)	社会教育演習⑬ 浅沼・朴		社会教育演習⑬ 浅沼・長谷川・朴	生涯学習と社会教育施設 青森県立保健大学 講師 廣森 直子(生涯学習概論⑦)	社会教育演習⑬ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑬ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月3日 (木)	社会教育施設として「美術館」 岩手大学 教授 蘆谷 収(生涯学習概論⑥)		社会教育演習⑭ 浅沼・長谷川・朴	生涯学習と社会教育施設 青森県立保健大学 講師 廣森 直子(生涯学習概論⑦)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴
岩 手 大 学 図 書 館	8月4日 (金)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴		社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月7日 (月)	震災復興とコミュニティ作りへの取り組み 岩手大学 特任研究員 船戸 義和(社会教育特講⑩)	生涯学習と教育制度 東北大学 准教授 後藤 武敏(社会教育特講⑬)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴	生涯学習と地域連携 岩手県立大学 准教授 渡部 芳実(社会教育特講⑯)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月8日 (火)	貧困問題と子ども支援 特定非営利活動法人インクルいわて 山屋 理恵(社会教育特講⑫)	理事長	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月9日 (水)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴		社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴	生涯学習と人間形成 秋田大学 准教授 小池 孝範(生涯学習概論⑧)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月10日 (木)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴		社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・朴	13:00～ 13:00～	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴

問 1 各授業の出席率を教えてください。

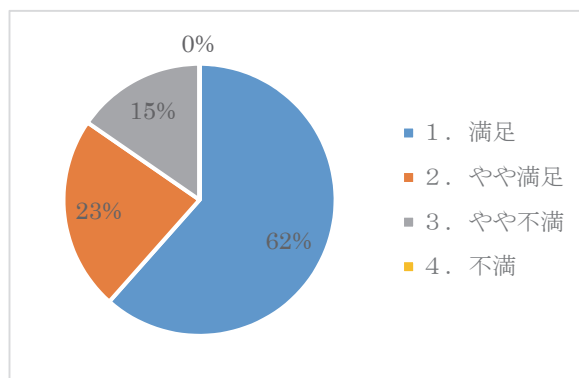


問 2 講習のプログラム、運営にかかる評価

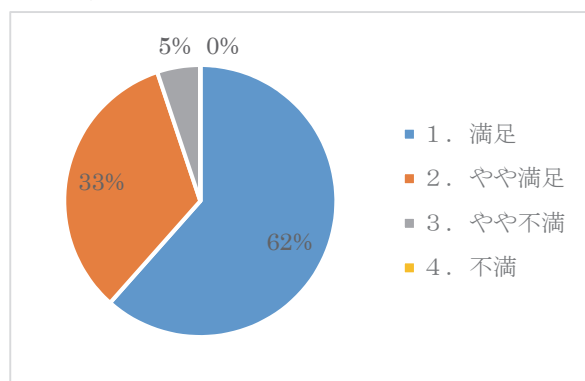
① 科目の流れについて



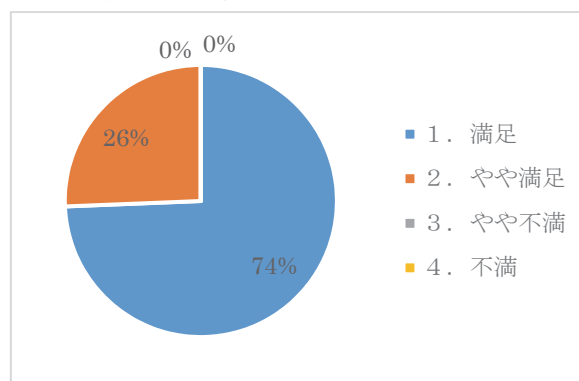
② 宿泊研修の会場について



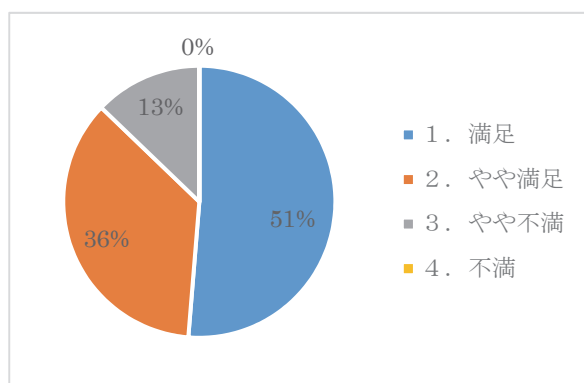
③ 演習のテーマ設定について



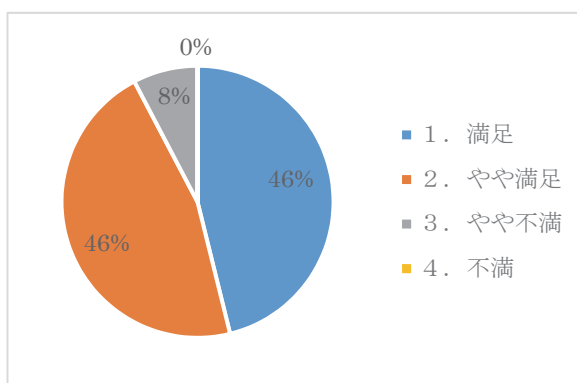
④ 演習の所属班の決定について



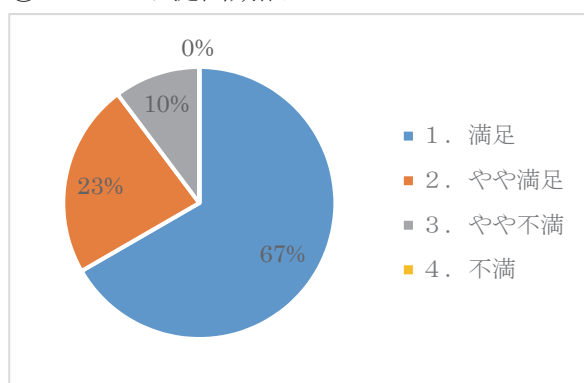
⑤ レポートの課題について



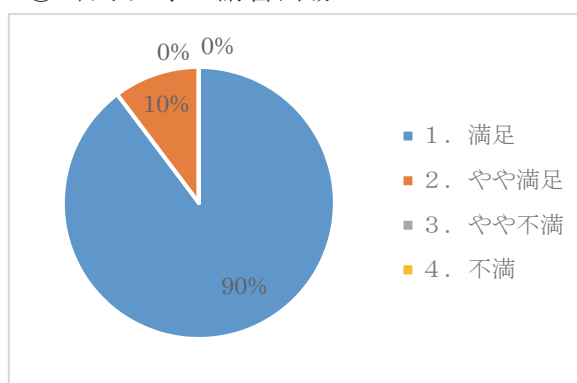
⑥ レポート数について



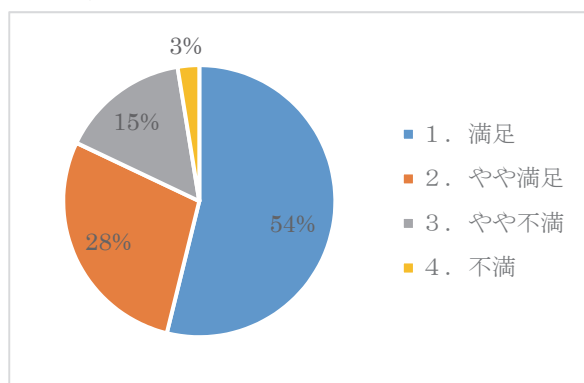
⑦ レポート提出期限について



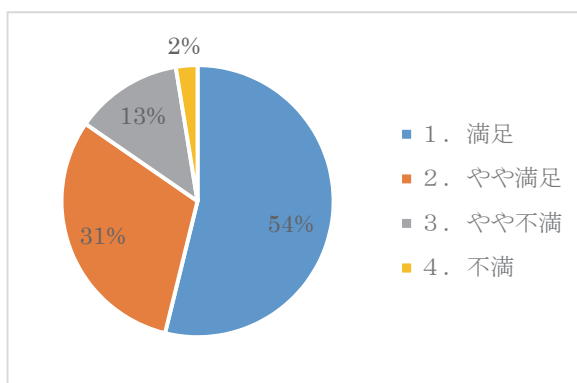
⑧ 岩手大学の講習会場について



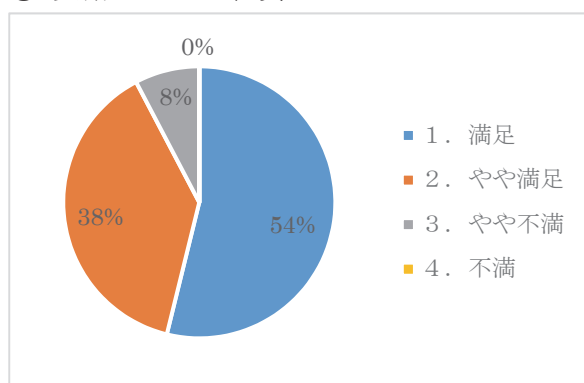
⑨ 講習会場の印刷環境について



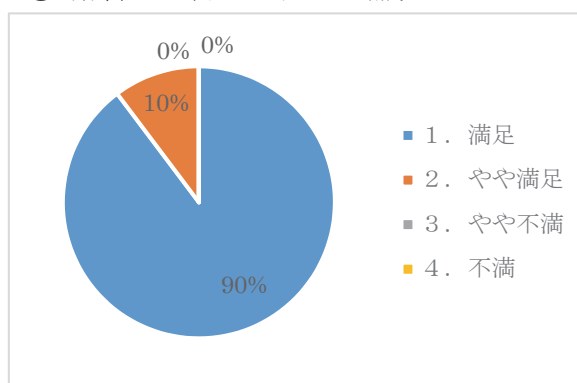
⑩ 受講前の大学からの事前連絡について



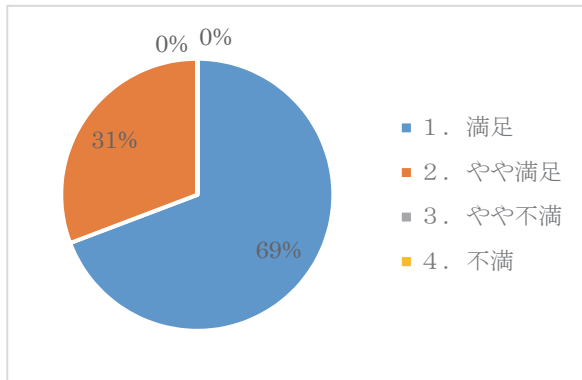
⑪ 受講にかかる経費について



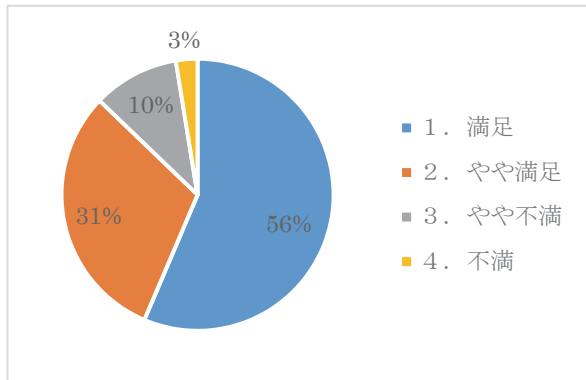
⑫ 講習の運営スタッフの補助について



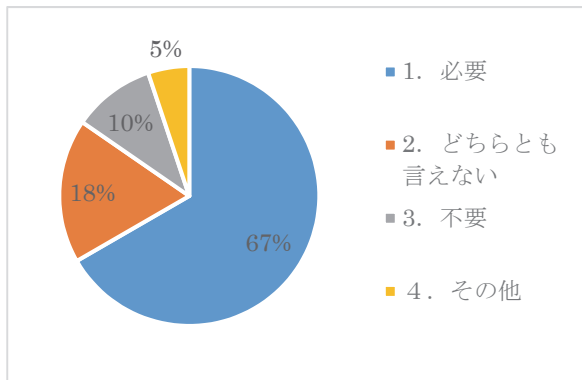
⑬ 講習全般の運営について



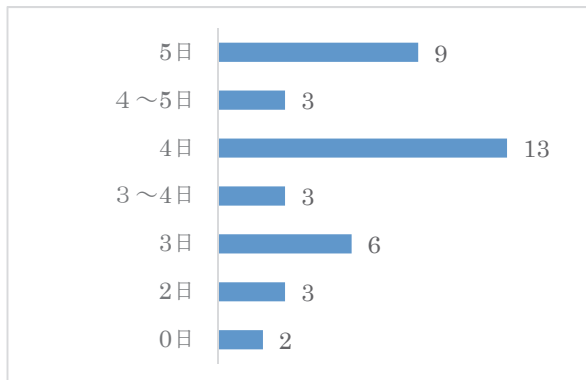
⑭ 講習の開講時期について



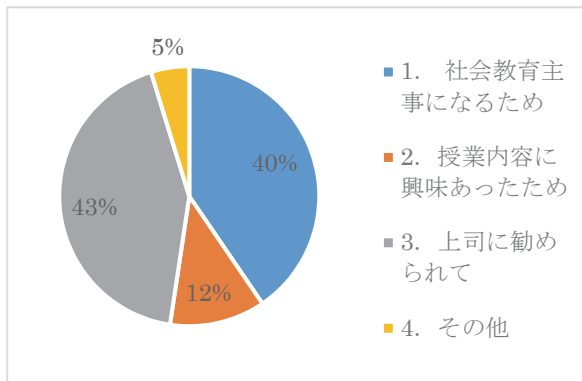
問3 宿泊研修は必要だと思いますか。



問4 宿泊研修は何日が妥当だと思いますか。



問5 社会教育主事講習に参加したきっかけを教えてください。



※「その他」の内容

- ・県からの依頼
- ・社会教育施設勤務に役立つから

問6 最後に、講習全般についてお気づきの点、今後のご要望等をご自由にご記入ください。

・事務局運営スタッフの方々の細やかな準備・ご拝領により、講習以外にも班単位の活動等、大変助かりました。どうもありがとうございました。

・来年度からぜひ研修記録集（冊子）をCDなりDVDにしてしまい、印刷屋を通さず最終日に完成→配布それで経費の大幅なカットと編集班等の負担の軽減にもなります。ぜひ

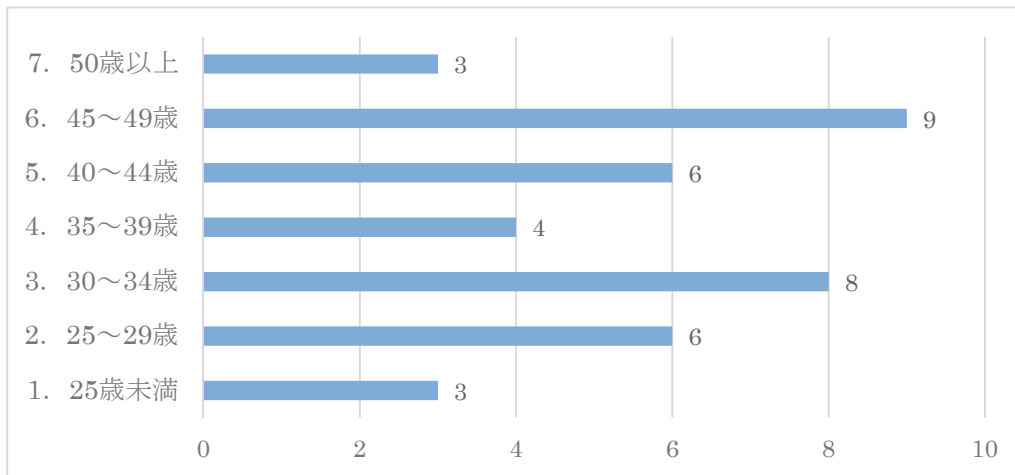
そのためのフォルダなりフォーマットの整備を事務局にお願いします。1つ作れば毎年使えるはずです。
・臨機応変に、そして丁寧に対応してくださり、安心して講習に参加することができました。朴先生を中心とした先生方、サポートしてくださったスタッフの皆さん、ありがとうございました。
・4週間ありがとうございました！
・講習時期をもう一週遅くすると、夏休みに入るので、講習に参加しやすくなると思う。
・資格を取るための講習の他にもフォローアップ、スキルアップの講習があれば、また受講したいです。
・宿泊研修で野外活動のようなものがあっても面白いのでは？
・社教主事の職にある方に、実際の現場の声を聞いたり、意見交換したりする授業があれば良いと思う。
・長いようで短いようで・・・あっという間でした。講義室がとても寒かったです（各自調整しましたが）。岩手大学の事務局の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。来年度もがんばってください！
・中央学食のみそ汁にハエが入っていたので、衛生管理の徹底をお願いしたい。
・昨年度までは演習時に施設訪問を行ったり、見学をしていたと聞いていたのだが、今回それは無いというアナウンスが突然あったり、班によって微妙に解釈が違うということが驚きだった。演習費というものの使途が限定的になりかねないし。今回の開講を通して、来年の講習がさらにブラッシュアップされることを期待します。
・大変充実した日々でした。印刷環境ですが、スキャンできるものが欲しかったな、と思います。
・いろいろ勉強させていただきました。準備等、本当にありがとうございました。
・大変有意義な講習です。受講できてよかったです。概論系の内容は、前半に固めた方がいいと思いました。
・全日程で、部屋の設定温度が低く感じました。また、授業内容が似ている講義がトビトビであったので、できるだけまとめてほしいです。
・4週間という長期間におよぶ講習会の運営ありがとうございました。今講習会では、社会教育に関する知識を身につけることができたことはもちろん、たくさんのネットワークを作ることができました。
・最初は不安だらけでしたが、朴先生はじめ、皆様方のおかげで、とても楽しく講習を受けることができました。講師の方々もさまざまで、色んな視点から貴重な話を聞いたことは大変有意義でした。ありがとうございました。
・宿泊は部屋にコンセントや冷房がある環境がよい。
・講義によっては大きく関連しているものや重複するものがあることから、科目のスケジュールの設定について配慮していただきたい（続けて設定するとか）。講師の中で、やる

気があまり感じられない（こじつけでもテーマに関連させた内容になっていない）方がいました。
・例年のように3週間で実施した方がよいと思った。（問4は1週間という意味です）
・レポートの様式は事前にそろえていただいた方がありがたいと思いました。4週間があつという間に感じられました。ありがとうございました。昼食時間もうまく調節していただきありがたかったです。
・日程前半に演習のための調査時間があるといいと思います。（現地に行く、資料集めのための）また、後半の講義、特に終了一日前は全て演習にしてもらおうと調整や整理がしやすいと思います。 ※アンケート調査は表記として違うそうです。アンケート票調査か調査票調査だと小野澤先生が言っていました。
・印刷するためにパソコン2台、印刷機2台はほしい。スキャナーもあると助かる。
・野外活動の講習がないのであれば、宿泊研修は必要ないと思います。講義の内容とレポートのテーマが違うことがあったので、苦勞したことがありました。スタッフの方はとても親切でした。学校の教員も多く参加するため、できれば7月後半～8月中旬に講習を設定してほしい。
・参加者のマナー（モラル・規範意識向上）を高めていく必要があると思う。経緯は違っても参加した以上。1. 講習中、PC・スマホで不要なことをしない、2. うつ伏せで講習を受けない、3. ガムなどかまない 各自の問題ではありますが、注意事項として明示したり、机間巡視で注意（やんわり）したりしてもいいと思います。遊びに来ているような雰囲気はふさわしくない。
・たくさんの講師の方がいるので、仕方ないかもしれないが、講義内容が重複することが多かったので、調整いただければ異なることを学ぶことができたのでは、と思った。社会教育主事研修なので、宿泊研修の間に、レク等のプログラムが少しでもあれば、より良かった。開講時期については、業務都合により、全日程8月であれば好ましいが、学校のスケジュール上、難しいかと思っている。
・非常にスタッフのみなさんにお世話になりました。楽しく学ぶことができて感謝しかないです。ありがとうございました。

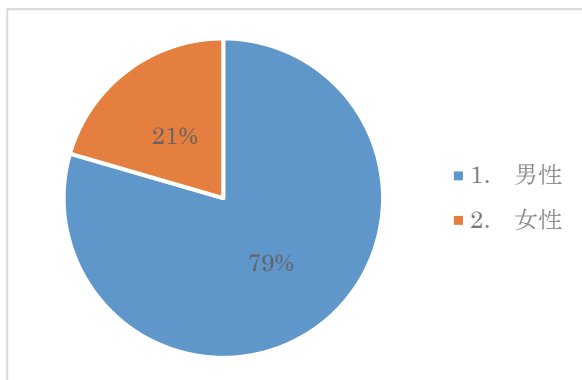
生涯学習ニーズに関するアンケート調査

I ご自身についてお聞きします。

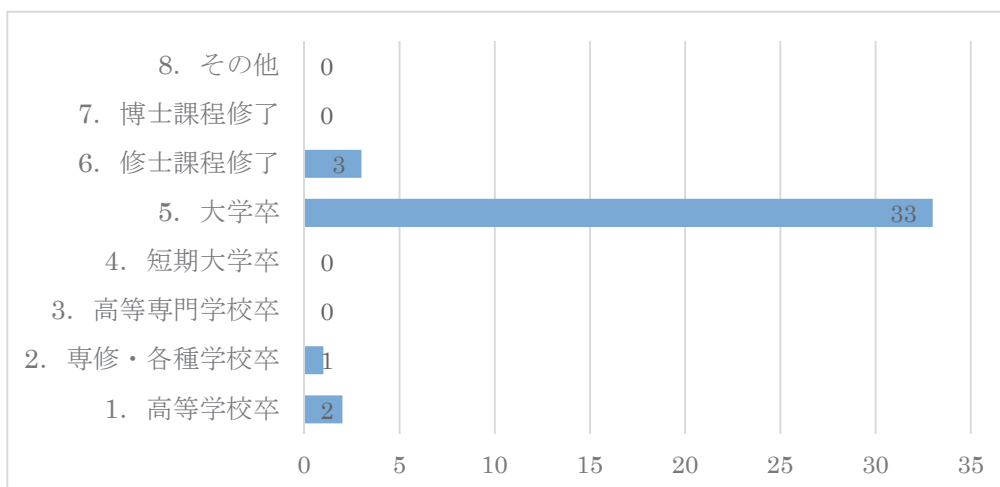
問1 年齢



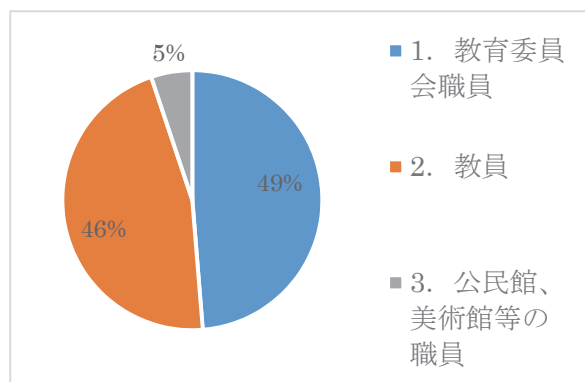
問2 性別



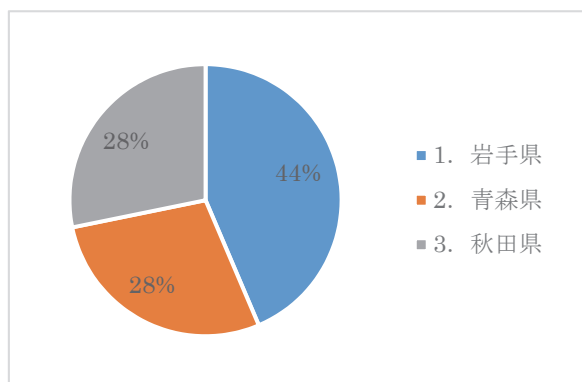
問3 最終学歴



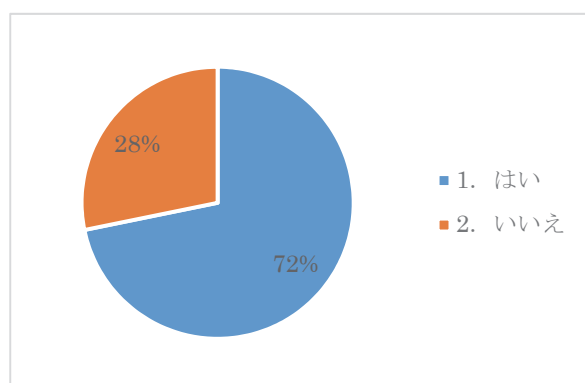
問 4 職業は



問 5 住居地について



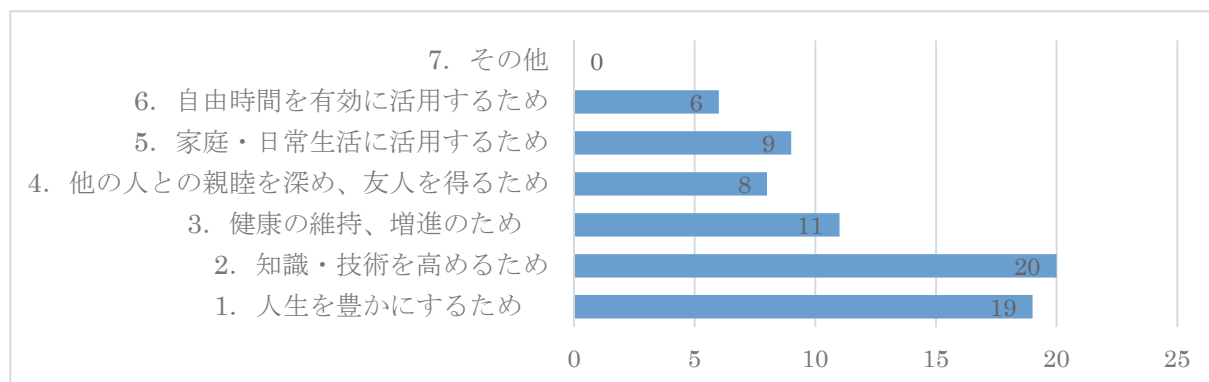
問 6 社会人になってから学習活動を行った経験はありますか



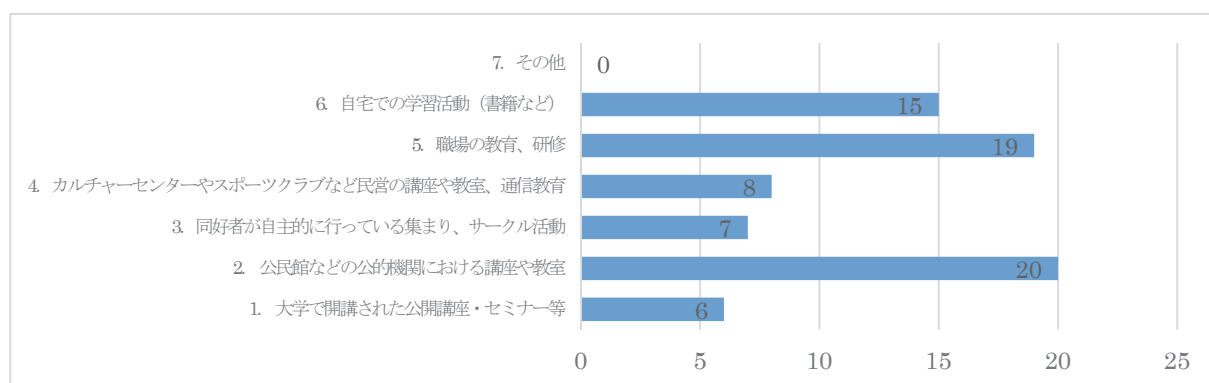
問 7 今まで行った学習内容について教えてください。(複数選択)

1. 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	18.7%
2. 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	14.3%
3. 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	6.6%
4. 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	22.0%
5. 職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	20.9%
6. 社会問題に関すること(社会、時事、国際、環境など)	7.7%
7. 情報端末やインターネットに関すること(プログラムの使い方、ホームページの作り方)	9.9%

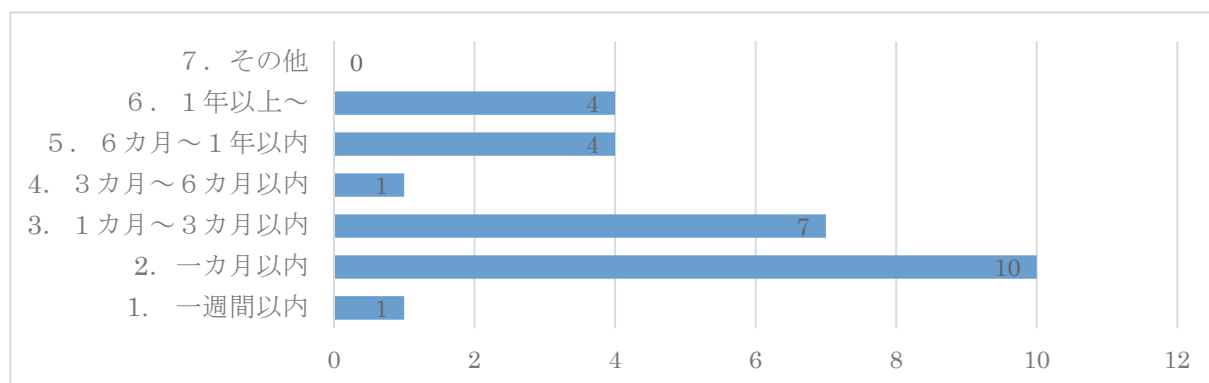
問 8 学習を行う理由（複数選択）



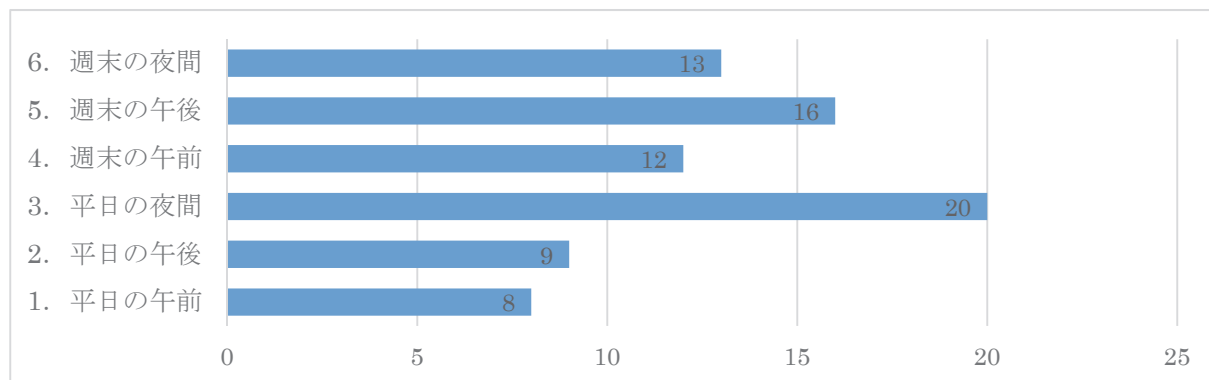
問 9 学習活動を行った場所（複数選択）



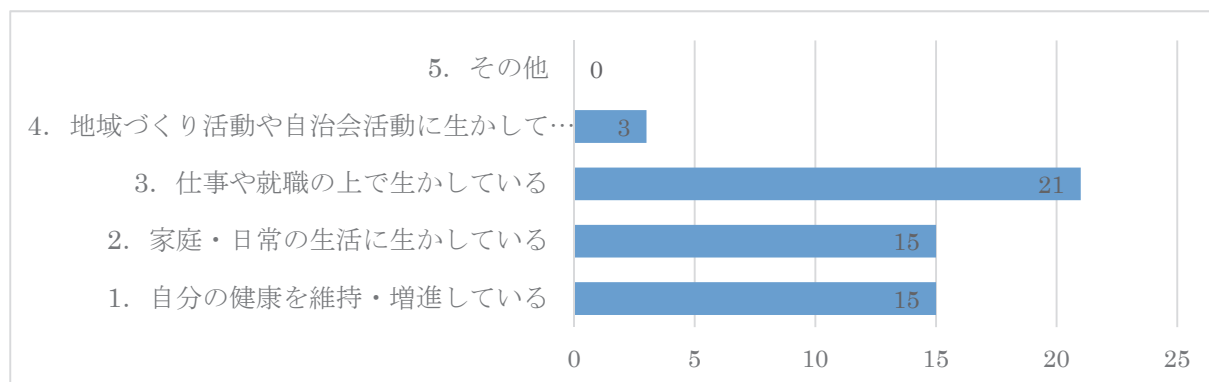
問 10 学習を行った期間について教えてください。（1年間の平均学習参加日数）



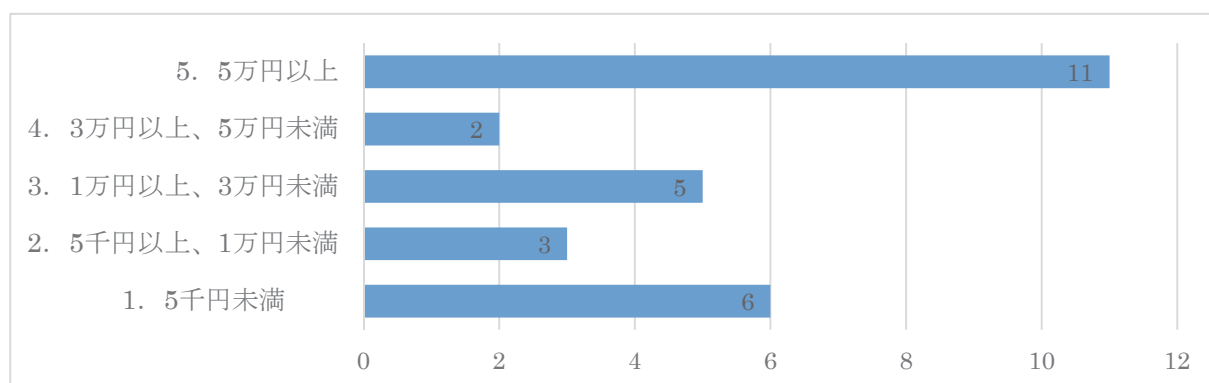
問 11 学習を行った時間帯（複数選択）



問 12 学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしていますか



問 13 学習にかかった費用（1年間の平均金額）。

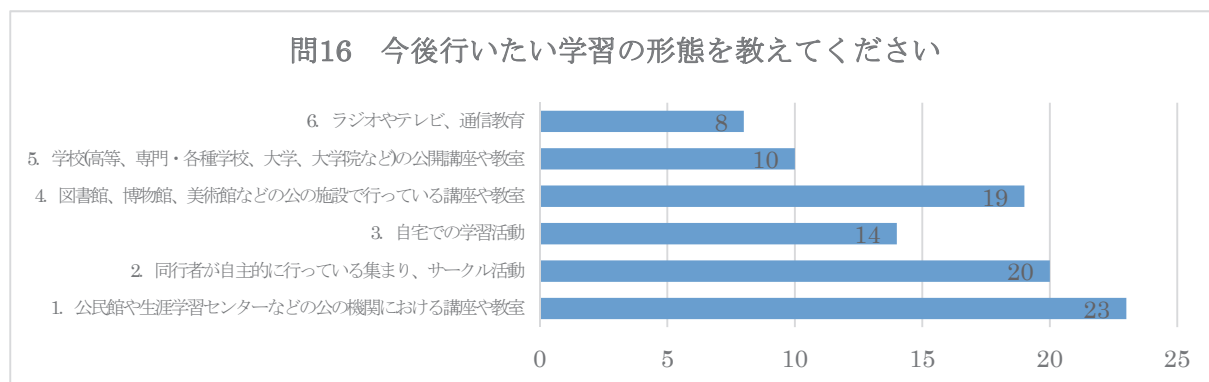


Ⅲ 今後の学習活動について

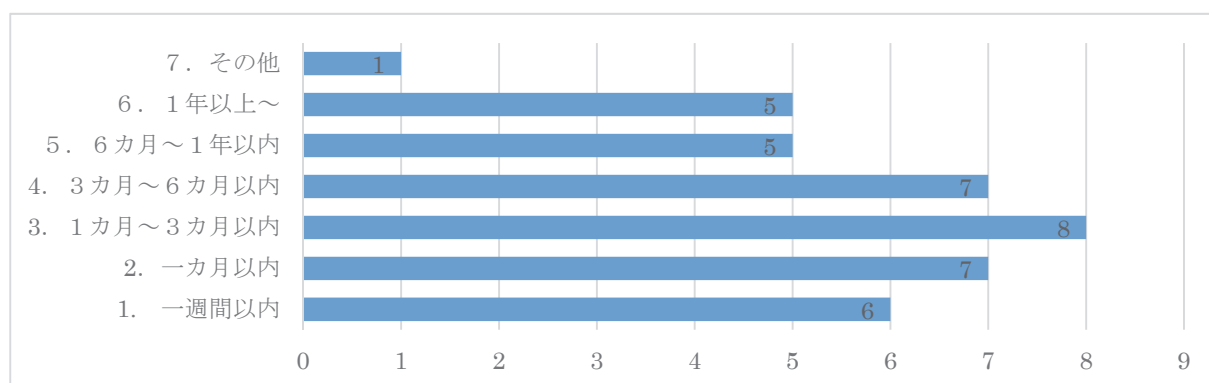
問 14 今後参加したい学習内容について教えてください。（複数選択）

1. 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	16%
2. 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	14%
3. 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	12%
4. 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	18%
5. 職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	18%
6. 社会問題に関する者(社会、時事、国際、環境など)	11%
7. 情報端末やインターネットに関すること(プログラムの使い方、ホームページの作り方)	9%
8. その他	2%

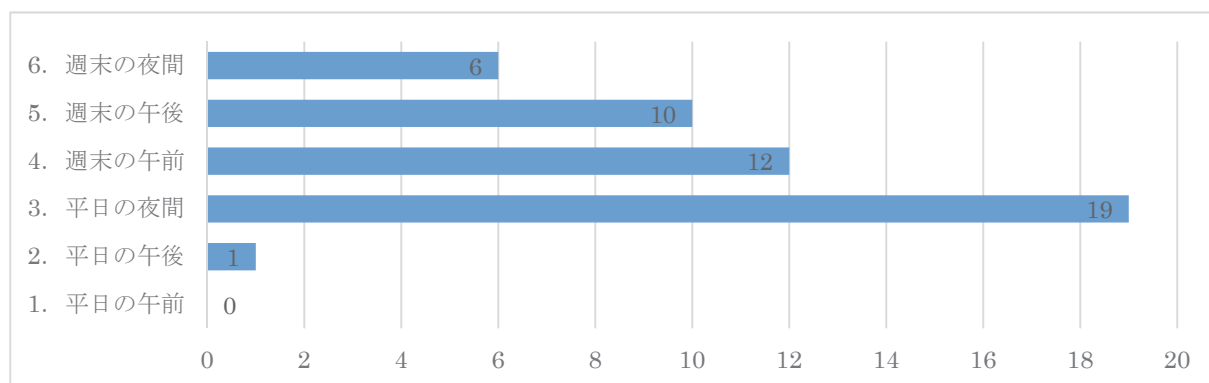
問 15 今後行いたい学習の形態を教えてください。(複数選択)



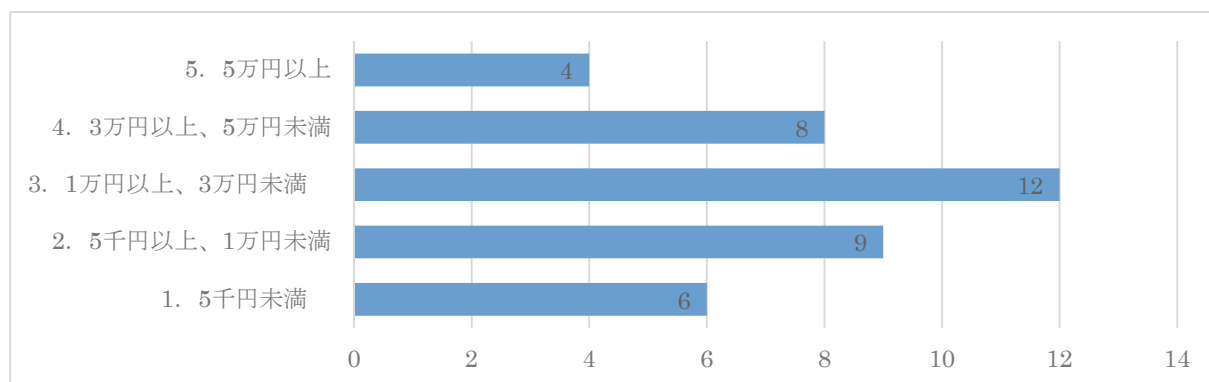
問 16 学習活動に参加する際、適当だと思われる期間を教えてください。



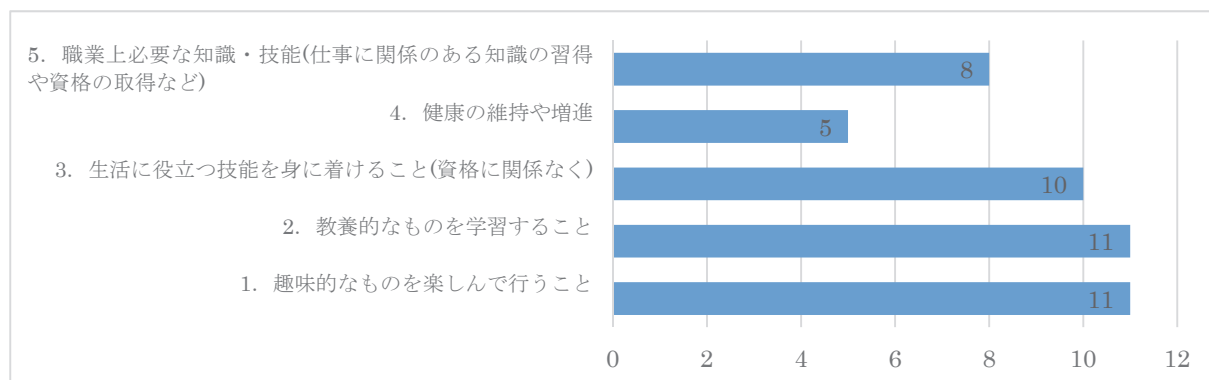
問 17 学習活動に参加する際、最も都合の良い時間帯はいつですか。



問 18 1年間学習活動にかかる費用について、妥当だと思う金額はどのくらいですか。



問 20 学習活動を行う際、あなたが一番重視するものはなんですか。



○ご意見等は、ご自由にこちらへお書きください。

・学芸員や図書館司書の資格を取りたいので、それらにかかわる講座を開講してほしい。
・行政と学生のマッチング（採用希望者への説明会の機会など）、更新の必要がない資格を持った人向けのフォローアップ講座
・公開講座の情報など、もっと知ることができれば学びたい社会人は多いと思います。（自分も含め）もうすでに充分していると思いますが、もっと広く周知していただけるとうれしいです。
・今回の研修メンバーで集まる機会があって都合がよければ先生や職員の方にも参加してほしいです。
・昨年、障害者差別解消法が施行され、共生社会の実現に向けて、動き出したところです。（これまでも同様の取組が官民でなされてきましたが）しかし、障害理解は社会的にまだ広まっていないように思います。学校教育についても内容が十分とは言えません。そこで、大学において、短期（3ヶ月程度）集中型でも良いので、障害者について（発達障害も含めて）理解する、実践につながるような講座の開設はいかがでしょうか。
・生涯学習・地域創生に関する講座や研究成果が HP 上でわかりやすく閲覧できるように作成していただけると、ありがたいです。
・所属講師をまとめた資料を作成いただき、市町村宛て送付いただければ、講座や講演の依頼についてご相談しやすいです。
・大学と協力して事業につなげたい。
・大学の所在地外での出前講座
・出前講座のメニューを周知してほしいです。

総 括

総 括

生涯学習部門では、社会人学び直しプログラムの開発を大きな柱としながら関係者一丸となり、研究開発に取り組んだ。最後に（１）生涯学習部門の事業の実施体制、（２）社会人学び直しプログラムの開発、（３）地域課題セミナー「がんちゃんの学び」、（４）社会人学び直しシンポジウム、（５）公開講座、（６）国内外調査研究、（７）社会教育主事講習について１年間の事業成果を振り返りたい。

（１）生涯学習部門事業の年度計画

前年度の実施体制を引き継ぎつつ、新たな社会人学び直しプログラムを開発するために、生涯学習部門において特任研究員を採用し、週 20 時間勤務体制からフルタイム勤務体制へと転換した。また、生涯学習部門事業の充実化を図るために部門会議規定を設けると同時に部門会議を毎月 1 回開催した。なお、部門員として、本学の各学部の教員を会議構成員とすることによって、より全学の視点を取り入れた議論を交わすことができた。

（２）社会人学び直しプログラムの開発

生涯学習部門では社会人学び直しプログラムの開発を事業の主な柱としている。本年度はアグリフロンティアスクールと連携し、受講者を対象にパソコン講座を開いたり、大学院授業公開の広報・アンケートを実施するなど、学内の各学部・プログラムと連携しながら事業を展開している。また、多様なプログラムに参加している社会人学習者を対象にアンケート調査を行うことで地域住民の学習ニーズに対するデータ構築が可能となった。

（３）地域課題セミナー「がんちゃんの学び」

「がんちゃんの学び」は地域の課題を地域住民と共に考えるという趣旨のもとで、今年度 6 回開催した。地域で活躍している人を講師として招き、身近なところに社会問題がたくさん存在していること、そのために支援活動を続けている住民がいることを認識しながら、その解決策を受講者と共に考えることができた。また、参加者を対象にアンケート・ヒアリング調査を通して、地域住民の学び直しへの意識を確認することができた。

（４）社会人学び直しシンポジウム

今年度は社会人学び直しプログラムの開発のため、現在学内で行われている社会人学び直しプログラムを整理することから始めた。そこで、社会人学び直しシンポジウム「地方国立大学における社会人受け入れの現状と課題」を開催し、高等教育における社会人学び直し政策について理解するとともに、学内外における社会人学び直しの現状と課題を報告することで今後の大学における社会人学び直しの在り方を検討することができた。これまで岩手大学では社会人を対象に多種多様なプログラムを提供してきたが、それを改めて整理できたこと

は大きな成果であり、今後の活動の切口になるに違いない。

(5) 公開講座

岩手大学では、地域に密着した社会活動を目指し、大学の研究成果を広く社会に還元するため、幅広い範囲の方々を対象に公開講座を実施している。今年度は 18 講座開講しており、本稿では、その実施成果をまとめている。

(6) 国内・外調査研究

今年度は岩手の地域特性を理解し、地域支援活動を行っている個人・団体の現状を把握するため、国内調査を 6 回、海外の社会人学び直しの先進施策を把握するため、海外調査を 2 回行った。今年度の調査を土台に、更に地域ニーズを反映したプログラムの開発が可能となった。

(7) 社会教育主事講習

文部科学省の委託事業である「社会教育主事講習」を本件度は岩手大学が主催校となり、岩手県・秋田県・青森県の受講者を対象に 1 カ月間開講した。また、講義終了後アンケートを取ることで、講義の評価を行い、更に現役で働いている人々を対象に学び直しへの認識調査もすることができた。

生涯学習部門では、多様な成人学習者の特徴を生かした生涯学習プログラムの充実化を目指しており、今後も成人学習者が「学びをほどこ、編み直す力」、「地域で生かす力」、「学び続ける力」などを身に着け、地域活動や職業生活で役立てることによって地域の生涯学習の振興をめざしていく。

平成 30 年 3 月

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門
特任研究員 朴 仙子

編集者

朴 賢淑 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門長・准教授
朴 仙子 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 特任研究員
吉田 義子 地域連携・COC 推進課 事務補佐員

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門
平成 29 年度 成果報告書

発行日	平成 30 年 3 月 30 日
発行者	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門
代表者	朴 賢淑
住所	岩手県盛岡市上田 4 丁目 3-5
TEL	019-621-6492
FAX	019-621-6493
E-mail	renkei@iwate-u.ac.jp

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

生涯学習部門

平成29年度 成果報告書